

南戸類家Ⅱ遺跡試掘調査報告書

風力発電事業に伴う試掘調査

2023

岩手県洋野町教育委員会

南戸類家Ⅱ遺跡試掘調査報告書

風力発電事業に伴う試掘調査

例 言

1. 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市第8地割字南戸類家に所在する、南戸類家Ⅱ遺跡の試掘調査成果を収録したものである。
2. 調査に係る費用は、事業主にご負担いただいた。事業主は次のとおりである。
洋野風力開発株式会社
3. 本遺跡の岩手県遺跡台帳における遺跡番号は、IF78-0108である。
4. 本遺跡の試掘調査は、洋野町教育委員会が主体として実施したもので、株式会社四門が調査支援業務を行った。
調査責任者：千田政博（洋野町教育委員会）
調査員：春日貴明、山中慶太（株式会社四門）
5. 本書全体の編集・構成は、稲村晃嗣（株式会社四門）が行った。執筆については、第Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ章2を千田、第Ⅴ章を株式会社加速器分析研究所、第Ⅵ章1を春日、第Ⅵ章3を稲村、山中、第Ⅷ章を稲村、それ以外を松丸信治（株式会社四門）が担当した。
6. 第Ⅷ章南戸類家Ⅱ遺跡の考古学的観察所見については、盛岡大学名誉教授熊谷常正氏に原稿を執筆していただいた。
7. 試料の分析・鑑定及び委託業務は、下記の方々・団体に依頼した。（敬称略）
放射性炭素年代測定：株式会社加速器分析研究所
検出礫の石質鑑定：花崗岩研究会
検出礫の加工痕等の確認：株式会社ラング
石器観察及び石質鑑定：でじたる工房
礫群の写真撮影：いろは写房（写真図版1～5）
基準点の測量：株式会社北山測量設計
8. 野外調査、資料収集及び本報告書の作成等に際して、下記の方々からご指導、ご助言、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）
相原淳一、阿部昭典、稲野彰子、稲野裕介、岩田貴之、金子昭彦、高橋憲太郎
9. 試掘調査作業において、下記の方々にご協力をいただいた。（五十音順、敬称略）
相野美香、安藤セツ、大宮房子、久慈のぶ子、久慈ミヨ、久慈道美千子、黒坂誠吉、齋藤スミ子、桜庭邦子、下野正勝、大光登、田中セイ、玉澤ハナエ、畑川三重子、東山ウタ子、東山良子、萬谷忠夫、村山レイ、柳沢博文、有限会社薩摩建設
10. 室内整理、報告書作成にあたって、下記の方々にご協力をいただいた。（五十音順、敬称略）
石井夏樹、石倉絢、植松由里、小川麗子、木田いづみ、桐生多美子、金城真理子、黒木由佳、坂口美優、佐伯紀子、澁谷貴子、杉本好二、高橋可南子、高橋美緒、田中雄大、田丸美紀、續石貴子、西村素子、早坂美由紀、原絢佳、増田美幸、松浦香里、松崎昇、横山香
11. 第Ⅱ章洋野町内の遺跡については、令和4年（2022）4月時点での岩手県遺跡台帳に基づくものである。
12. 調査で得られた遺物・諸記録等については、洋野町教育委員会で保管・管理している。
13. 参考文献については文末に収めた。

目 次

例 言
目 次
凡 例

本 文

I. 試掘調査に至る経緯と遺跡の概要	3
1. 試掘調査に至る経緯	3
2. 遺跡の概要	3
II. 洋野町内の遺跡	4
III. 試掘調査の概要	23
1. トレンチの設定	23
2. 野外調査について	24
3. 室内整理について	24
IV. 遺跡の地形と土層序	25
V. 南戸類家Ⅱ遺跡の自然科学分析	26
VI. 試掘調査の成果	30
1. 検出された遺構	30
2. 礫の石質について	38
3. ハンドボーリング調査	43
4. 検出された遺物	46
VII. 南戸類家Ⅱ遺跡の考古学的観察所見	63
VIII. 調査のまとめ	65
写真図版	66

報告書抄録

図 版

第 1 図	遺跡位置図	1	第 15 図	礫 No. 40 ~ 72	40
第 2 図	遺跡範囲図	2	第 16 図	礫 No. 73 ~ 78	41
第 3 図	町内遺跡分布図	10	第 17 図	礫 No. 79 ~ 84	41
第 4 図	トレンチ配置図	23	第 18 図	礫 No. 85 ~ 88	42
第 5 図	深掘土層序	25	第 19 図	ハンドボーリング調査成果図	44
第 A 図	暦年較正年代グラフ (cal BP、参考)	28	第 20 図	地中及び地表の礫の位置	45
第 B 図	暦年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)	28	第 21 図	A トレンチ 検出土器	48
第 6 図	遺構配置図	29	第 22 図	A トレンチ 検出土器・土製品	49
第 7 図	A トレンチ	32	第 23 図	B トレンチ 検出土器・土製品	50
第 8 図	B トレンチ	33	第 24 図	C トレンチ 検出土器	51
第 9 図	C トレンチ (1)	34	第 25 図	C トレンチ 検出土器・土製品	52
第 10 図	C トレンチ (2)	35	第 26 図	D トレンチ 検出土器 (1)	52
第 11 図	C トレンチ SX30・41 土器検出図	36	第 27 図	D トレンチ 検出土器 (2)	53
第 12 図	D トレンチ	37	第 28 図	トレンチ外 検出土器	53
第 13 図	礫 No. 1 ~ 33	38	第 29 図	調査地内 検出土器・土製品	54
第 14 図	礫 No. 34 ~ 39	39			

表

第 1 表	町内の遺跡一覧 (1)	11	第 2 表	礫の観察表 (1)	38
第 1 表	町内の遺跡一覧 (2)	12	第 2 表	礫の観察表 (2)	39
第 1 表	町内の遺跡一覧 (3)	13	第 2 表	礫の観察表 (3)	40
第 1 表	町内の遺跡一覧 (4)	14	第 2 表	礫の観察表 (4)	41
第 1 表	町内の遺跡一覧 (5)	15	第 2 表	礫の観察表 (5)	41
第 1 表	町内の遺跡一覧 (6)	16	第 2 表	礫の観察表 (6)	42
第 1 表	町内の遺跡一覧 (7)	17	第 3 表	土器・土製品観察表 (1)	55
第 1 表	町内の遺跡一覧 (8)	18	第 3 表	土器・土製品観察表 (2)	56
第 1 表	町内の遺跡一覧 (9)	19	第 3 表	土器・土製品観察表 (3)	57
第 1 表	町内の遺跡一覧 (10)	20	第 3 表	土器・土製品観察表 (4)	58
第 1 表	町内の遺跡一覧 (11)	21	第 3 表	土器・土製品観察表 (5)	59
第 A 表	放射性炭素年代測定結果①	27	第 4 表	石器・石製品観察表 (1)	60
第 B 表	放射性炭素年代測定結果②	27	第 4 表	石器・石製品観察表 (2)	61
第 C 表	放射性炭素年代測定結果③	27	第 4 表	石器・石製品観察表 (3)	62

写真図版

写真図版 A	分析対象土器	27	写真図版 13	C トレンチ・トレンチ外	78
写真図版 1	SX23・38・39	66	写真図版 14	C トレンチ・D トレンチ・ トレンチ外	79
写真図版 2	SX16	67	写真図版 15	A トレンチ 検出土器	80
写真図版 3	SX23	68	写真図版 16	A・B トレンチ 検出土器・土製品	81
写真図版 4	SX23・38・39	69	写真図版 17	C トレンチ 検出土器・土製品	82
写真図版 5	SX38・39	70	写真図版 18	D トレンチ 検出土器	83
写真図版 6	調査地遠景・調査地近景	71	写真図版 19	トレンチ外・調査地内 検出土器・ 土製品	84
写真図版 7	トレンチ全景	72	写真図版 20	A・B トレンチ 検出土器	85
写真図版 8	トレンチ近景	73	写真図版 21	C・D トレンチ 検出土器	86
写真図版 9	深掘土層序・A トレンチ	74	写真図版 22	D トレンチ・トレンチ外・ 調査地内検出 表面採集石器	87
写真図版 10	B トレンチ	75			
写真図版 11	B トレンチ・トレンチ外	76			
写真図版 12	C トレンチ	77			

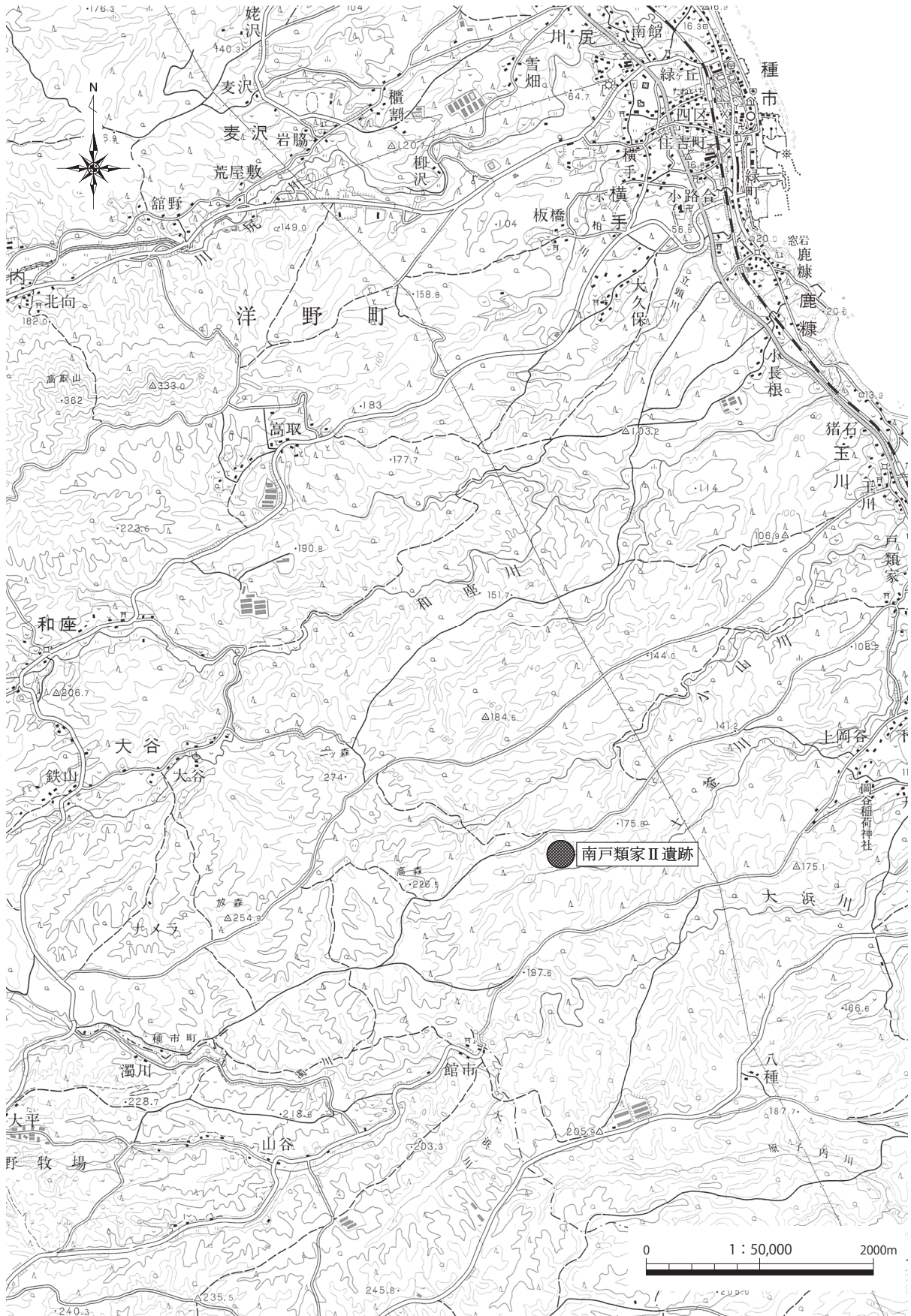
凡 例

1. 第1図遺跡位置図・第3図町内遺跡分布図は、国土地理院発行の50,000分の1の地形図を複写し使用した。
2. 第2図遺跡範囲図・第20図地中及び地表の礫の位置は、岩手県遺跡情報検索システム(令和元年度データ)所収の5,000分の1の地形図を複写し使用した。
3. 第4図トレンチ配置図の縮尺は1/1,000、第6図遺構配置図は1/500、第7～10・12図トレンチ平面図は1/150、第11図土器検出図は1/20、第13～18図礫は1/80で掲載した。
4. 本報告書で使用する遺構表示記号は、下記のとおりである。
SX: 性格不明遺構
5. 本報告書に収載した遺構実測図に付した座標・方位は、国家座標第X系による座標値及び座標北を示す。
6. 遺物図版の縮尺は、土器・土製品を1/3とした。また、遺物写真図版の縮尺は、土器・土製品を1/3、石器・石製品を1/4とした。一部縮尺の異なる遺物については図中に指示した。
7. 遺構写真図版は、縮尺不定である。
8. 遺構図版の凡例は、以下のとおりである。

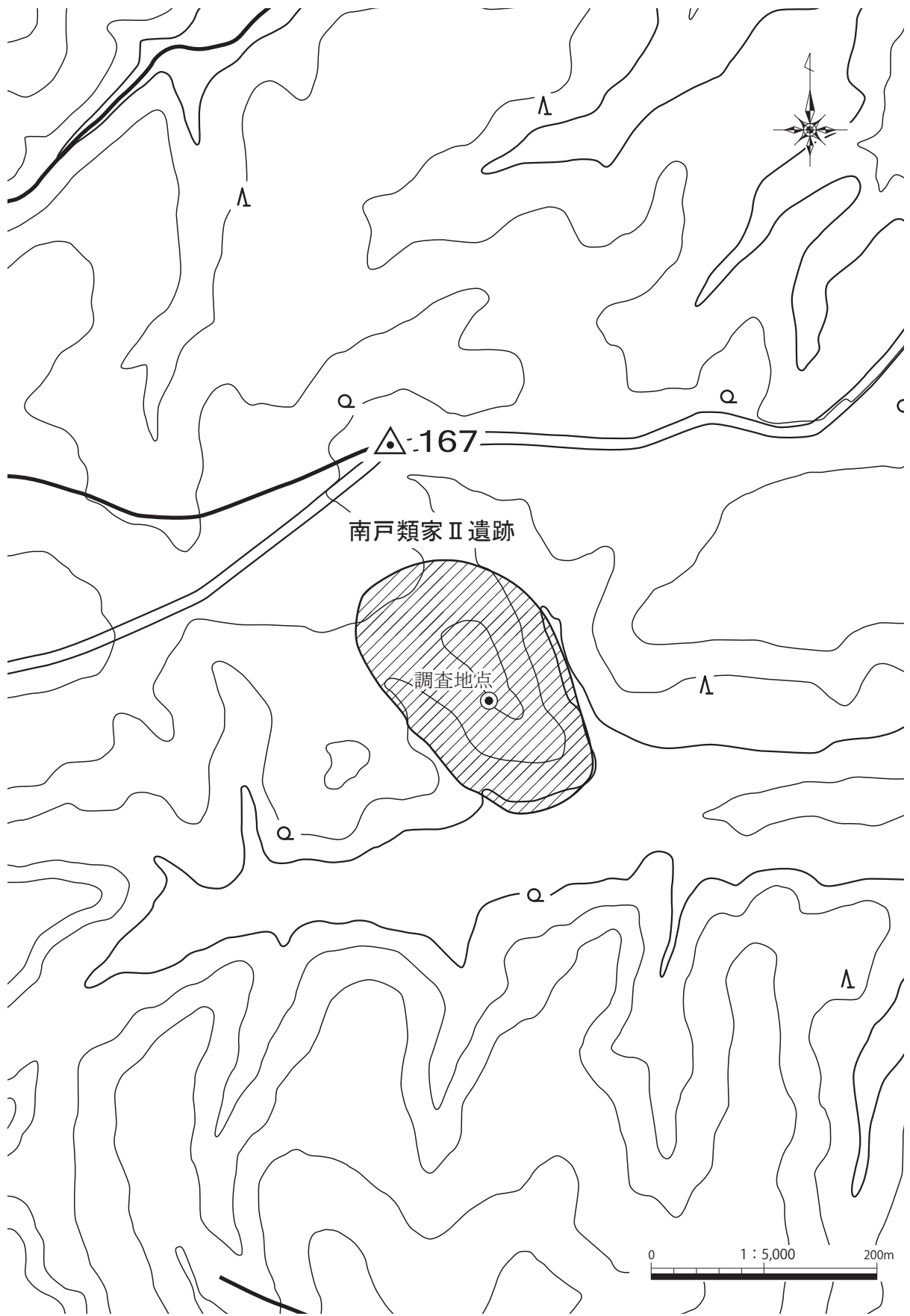
◆ 炭化物



焼土



第1図 遺跡位置図



第2図 遺跡範囲図

I. 試掘調査に至る経緯と遺跡の概要

1. 試掘調査に至る経緯

試掘調査は、洋野風力開発株式会社による風力発電事業に伴い実施されたものである。事業計画では洋野町内の31箇所に風車及び変電所を建設するもので、地形等の状況から全ての建設予定地において埋蔵文化財確認試掘調査が必要であることから、令和元年度から試掘調査に着手した。試掘調査は各風車建設工事箇所の7,000㎡を対象に行ったもので、令和3年度までに第1次から第7次試掘調査を実施し、令和元年度は13箇所、令和2年度は12箇所、令和3年度は8箇所の試掘調査が行われた。

当初3号機建設予定地として実施された試掘調査(令和元年度第1次試掘調査)において、新規発見の遺跡(南玉川Ⅱ遺跡)となったことから、事業者が新たな用地を新3号機建設予定地と選定し、試掘調査が行われた結果(令和3年度第6次試掘調査)、南戸類家Ⅱ遺跡の所在が明らかとなった。

詳細については、下記文献に記載している。

洋野町教育委員会 2021『洋野町内試掘調査報告書(2019年度調査)』洋野町埋蔵文化財調査報告書第10集

洋野町教育委員会 2022『洋野町内試掘調査報告書(2020年度調査)』洋野町埋蔵文化財調査報告書第12集

洋野町教育委員会 2023『洋野町内試掘調査報告書(2021年度調査)』洋野町埋蔵文化財調査報告書第14集

2. 遺跡の概要

南戸類家Ⅱ遺跡は、洋野町種市第8地割字南戸類家地内に所在する。JR八戸線種市駅から南へ7km、宿戸漁港から南西へ5km、北緯40°20′59″、東経141°41′59″を中心に位置し、標高は153m～168mである。前述のとおり未周知の埋蔵文化財包蔵地であったが、風力発電事業に伴い実施された埋蔵文化財確認試掘調査によって新規に発見された遺跡である。本遺跡の西500mの位置に西戸類家Ⅷ遺跡が所在する。同遺跡は令和3年度に発掘調査が実施され、溝状土坑が検出された。また、本遺跡の西2.5kmの位置に松ヶ沢Ⅰ遺跡が所在する。同遺跡は、平成28年度から30年度にかけて太陽光発電事業に伴う埋蔵文化財確認試掘調査が行われた。試掘調査面積は260,000㎡で、検出された遺構には溝状土坑、埋設土器、焼土遺構がある。遺物は縄文時代後期を中心とした土器、石器、石製品などが出土した。本遺跡と同じ時期に所在していた可能性がある遺跡である。

Ⅱ．洋野町内の遺跡

洋野町内に所在する遺跡は、令和4年(2022)4月現在、岩手県遺跡台帳に251遺跡が登録されている。平成23年(2011)以降、三陸沿岸道路建設や再生可能エネルギー事業等に伴う試掘調査により新規発見の遺跡が増加している。

町内遺跡詳細分布調査は、旧種市町が行った平成16年度(2004)の角浜・伝吉・平内・麦沢(姥沢)地区の分布調査のみである。旧大野村分についても実施しておらず、町内には未発見の遺跡が多く所在するものと想定される。町内の発掘調査は岩手大学草間俊一氏により昭和30年(1955)から昭和36年(1961)にかけて遺跡の踏査と発掘調査が行われたのが最初であるが、その後平成25年度(2013)までの調査事例は数件にとどまっていた。平成26年度(2014)以降、三陸沿岸道路建設事業等に伴う発掘調査により調査事例が急激に増加したものの、町内に所在する遺跡の様相については不明な部分が多い。

旧石器時代の遺跡として、中野地区の尺沢遺跡(222)が登録されている。同遺跡は令和元年度(2019)、久慈地区汚泥再生処理センター建設事業に伴う洋野町教育委員会による発掘調査で、ナイフ形石器が出土している。その他にも『角川日本地名大辞典3岩手県』には、`鉄山遺跡、`有家遺跡、と未登録遺跡の記載があり、いずれも高館火山灰層最上部から旧石器が発見されたとあるが、詳細は不明である。

縄文時代の遺跡数は、全体の7割以上を占める。草創期の遺跡として鹿糠浜Ⅰ遺跡(198)、板橋Ⅱ遺跡(221)があり、いずれも爪形文土器が出土している。板橋Ⅱ遺跡では、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(以下岩手県埋蔵文化財センターに略称する)による令和元年度(2019)の発掘調査において出土したものである。爪形文が矢羽根状に並ぶことから、八戸市黄檗遺跡で出土した爪形文土器に近いものとみられる。

早期の遺跡として、ゴッソー遺跡(20)、大宮Ⅱ遺跡(47)、大宮Ⅰ遺跡(48)、宿戸遺跡(199)、中野城内遺跡(203)、尺沢遺跡(222)などがある。旧石器が出土した尺沢遺跡では、日計式の押型文土器が出土し、同時期とみられる石器も出土している。また、岩手県埋蔵文化財センターによる平成6年度(1994)のゴッソー遺跡発掘調査では日計式土器、魚骨回転文土器が出土している。

貝殻文の土器が出土した事例は古く、昭和36年(1961)の草間氏による大宮遺跡の発掘調査時に出土したものが、岩手県で初めて復元された貝殻文の尖底土器と報告がある。宿戸遺跡(199)では、岩手県埋蔵文化財センターによる平成28年度から30年度(2016～2018)の発掘調査で、早期中葉から前期前葉の竪穴住居跡が多数検出され、白浜式から寺の沢式までの土器が多く出土した。白浜式土器は中野城内遺跡(203)の発掘調査でも出土している。

前期の遺跡として、ゴッソー遺跡(20)、上のマッカ遺跡(43)、北ノ沢Ⅰ遺跡(163)、鹿糠浜Ⅰ遺跡(198)、宿戸遺跡(199)、小田ノ沢Ⅰ遺跡(200)、田ノ端Ⅱ遺跡(209)などがある。ゴッソー遺跡では、平成6年度(1994)の発掘調査で、前期初頭のコンパス文土器や押型文土器が出土している。鹿糠浜Ⅰ遺跡では、岩手県埋蔵文化財センターによる平成29年度・30年度(2017・2018)の発掘調査で、前期初頭から前葉にかけての土器が多量に出土した。また、北ノ沢Ⅰ遺跡の発掘調査では、円筒下層d2式から上層b式にかけての土器の捨て場であることが確認された。

中期の遺跡として、千敷平遺跡(4)、ゴッソー遺跡(20)、上のマッカ遺跡(43)、北ノ沢Ⅰ遺跡(163)などがある。平成27年度(2015)洋野町教育委員会によるゴッソー遺跡の発掘調査では、中期初頭の竪穴住居跡が1棟発見され、三重の入れ子にした土器埋設炉と単体の土器埋設炉が並列した状態で出土した。その入れ子の土器埋設炉の中からヒエの胚乳が検出されている。

後期の遺跡として、平内Ⅱ遺跡(65)、上水沢Ⅱ遺跡(92)、西平内Ⅰ遺跡(185)、南川尻遺跡(194)、サンニヤⅠ遺跡(195)、北鹿糠遺跡(196)、下向Ⅰ遺跡(202)、続石遺跡(213)、サンニヤⅢ遺跡(218)などがある。町内では、縄文時代後期の遺跡が最も多く、溝状土坑(陥し穴状遺構)と後期前葉の土器が出土する遺跡が多数を占

める。平内Ⅱ遺跡は洋野町教育委員会により、平成11年度(1999)から平成25年度(2013)の間、延べ6箇年発掘調査が行われた。屋外炉、集石、焼土遺構、溝状土坑が検出されており、出土した土器は主に後期前葉に位置付けられる。上水沢Ⅱ遺跡は平成12年度(2000)の岩手県埋蔵文化財センターによる発掘調査で、後期前葉から後葉の竪穴住居跡が11棟発見された。

西平内Ⅰ遺跡(185)では、平成26年度・27年度(2014・2015)の三陸沿岸道路建設事業に伴う発掘調査において、集石群59基、弧状の石列1基、整地層2枚、掘立柱建物跡5棟、竪穴住居跡5棟、竪穴状遺構1基の他、埋設土器、焼土遺構、炉跡などが発見された。その後、令和元年度(2019)の洋野町教育委員会によるトレンチ発掘調査で、弧状の石列は環状列石であることが明らかになった。同遺跡は平成30年(2018)に町史跡に指定されている。

なお、三陸沿岸道路建設事業に伴い発掘調査が行われた遺跡で、後期に属する竪穴住居跡が検出された遺跡は、上のマッカ遺跡(43)、西平内Ⅰ遺跡(185)、南川尻遺跡(194)、サンニヤⅠ遺跡(195)、北鹿糠遺跡(196)、鹿糠浜Ⅱ遺跡(197)、鹿糠浜Ⅰ遺跡(198)、宿戸遺跡(199)、小田ノ沢Ⅰ遺跡(200)、南鹿糠Ⅰ遺跡(206)、北玉川Ⅰ遺跡(208)、板橋Ⅱ遺跡(221)があり、ほとんどが前葉のものである。宿戸遺跡では前葉の他に中葉・後葉のものも検出されており、南川尻遺跡は後葉のみである。

晩期の遺跡として、たけの子遺跡(21)、大平遺跡(32)、ニサクドウ遺跡(58)、戸類家遺跡(61)、田ノ沢遺跡(63)などがある。特にたけの子遺跡は町内で晩期を代表する遺跡である。昭和36年度(1961)、岩手県遺跡台帳作成調査において、太平洋戦争時開墾の際には多数の土器が出土し、その後植林はされたが包含層は良好で重要な遺跡との報告がある。洋野町立種市歴史民俗資料館収蔵の考古資料の多くはこの遺跡からの出土である。戸類家遺跡は昭和32年(1957)に慶應義塾大学江坂輝彌氏による発掘調査が行われており、土器、石器の他に土偶が出土し、現在、慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室に収蔵されている。また、昭和7年(1932)には岩手県史跡名勝天然記念物調査会委員であった小田島祿郎氏が旧種市町を訪れており、その時に採集された田ノ沢遺跡、八木貝塚(37)の出土遺物が岩手県立博物館に収蔵されている。

なお、貝塚遺跡としてホッキリ貝塚(33)、八木貝塚(37)、小子内貝塚(40)、黒マッカ貝塚(41)がある。ホッキリ貝塚では、洋野町の玉沢重作氏により岩手県で初めて縄文時代の製塩土器が発見された。海岸付近に位置する同貝塚は、昭和24年(1949)に行われた造船所の建設工事によりほぼ壊滅したとみられるが、製塩遺跡であった可能性がある。このほか縄文時代の製塩土器は、ゴッソー遺跡(20)の平成12年度(2000)岩手県埋蔵文化財センターによる発掘調査でコンテナ約1箱分出土している。洋野町立種市歴史民俗資料館には、たけの子遺跡(21)で採集された縄文時代の製塩土器が多数収蔵されている。また、平成16年度(2004)の種市町内遺跡詳細分布調査において、南平内Ⅰ遺跡(182)より製塩土器が縄文晩期の土器とともに発見された。同遺跡は現在の汀線まで約150mの距離であるが、時代によっては汀線付近であった可能性もある。遺跡の残存状況も良くないため詳細は不明であるが、位置から推測すると製塩を行った遺跡であることも考えられる。製塩土器は、鹿糠浜Ⅰ遺跡(198)の発掘調査でも出土している。

弥生時代の遺跡として、大平遺跡(32)、大宮Ⅱ遺跡(47)、大宮Ⅰ遺跡(48)、平内Ⅱ遺跡(65)、上水沢Ⅱ遺跡(92)、北玉川Ⅰ遺跡(208)などがある。先述した平内Ⅱ遺跡では、平成25年度(2013)の発掘調査で弥生時代前期後葉の竪穴住居跡が2棟検出されている。北玉川Ⅰ遺跡の発掘調査では、中期後半の竪穴住居跡が4棟検出された。上水沢Ⅱ遺跡の発掘調査では弥生時代後期の竪穴住居跡が1棟検出され、土器がコンテナ約1箱分出土している。

古墳時代の遺跡については、袖山遺跡(38)において、剣形の石製模造品が表面採集されている。同品も玉沢重作氏により発見されたもので、長さ4.2cm、最大幅1.5cm、厚さは最大で4mm、重さは3.6g、石質は北上山地が産出地の蛇紋岩で、色調は暗緑灰色である。茎の表現が簡略化された二等辺三角形に三角形を付加した形状で、全体が丁寧に研磨されて、頭部には垂下孔とみられる径2mmの穿孔があり、表面は鏝が表現されている。形状か

ら5世紀後葉より古い可能性がある。袖山遺跡は標高約50mの海岸段丘上に立地し、主な時代は縄文時代であるが、石製模造品の他には当該期の遺物は発見されていない。昭和28年(1953)に東北大学伊東信雄氏が東北地方の石製模造品の集成を発表した「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」により同品が紹介され知られるようになった。

古代の遺跡として、城内遺跡(11)、ニサクドウ遺跡(58)、二十一平遺跡(69)、八森遺跡(73)、鹿糠浜Ⅱ遺跡(197)、サンニヤⅡ遺跡(205)、館野遺跡(207)などがある。サンニヤⅡ遺跡では、平成26年度・27年度(2014・2015)の岩手県教育委員会による発掘調査で、8世紀後半から9世紀前半の時期の竪穴住居跡が3棟検出されている。また、国道45号線種市登坂車線整備事業に伴い、岩手県埋蔵文化財センターにより平成28年度(2016)に発掘調査が行われた八森遺跡でも8世紀代の竪穴住居跡が1棟検出されている。城内遺跡からは8世紀代と考えられる土師器の長胴甕、球胴甕、甑、坏が出土している。また、草間氏の『種市の歴史(原始-中世)種市町諸遺跡の調査報告』によるとニサクドウ遺跡で土製支脚、土師器坏が出土している。

なお、上のマッカ遺跡(43)の発掘調査において、土師器と製塩土器を伴う竪穴建物跡が検出されている。また、床面からは2基の炉跡が検出されており、土師器の年代から10世紀後半から11世紀の製塩工房とみられる。

平安時代の製塩土器は、二十一平遺跡(69)でも出土している。同遺跡は岩手県と青森県境を流れる二十一川の南側の汀線付近に位置する。海岸整地に伴う重機での掘削により遺跡の存在が明らかになり、平成15年度(2003)に新規登録された。製塩土器、土製支脚が多量に散布し、被熱したような円礫もみられた。現在までにコンテナで約5箱分が採集されている。遺跡の立地、発見された遺物の状況から製塩を行った可能性が高いが、保存状況は重機での掘削により一部破壊されていると考えられる。また、未登録の遺跡ではあるが、駒木野智寛氏、相原淳一氏による古津波堆積層の調査に伴い海岸付近で採集された製塩土器もある。なお、古代の製塩土器は海岸から6.2kmの館野遺跡(207)でも採集されており、町内には縄文時代や古代の製塩土器、土製支脚を伴う遺跡が多く所在することが予想され、製塩遺跡の発見や製塩土器の資料の増加が見込まれる。

主な中世の遺跡として、城館跡が27遺跡登録されている。城館の分布調査が昭和59年(1984)に岩手県教育委員会により行われているが、ほとんどが城主などの詳細が不明である。

種市の城内地区には種市氏の居城である種市城跡が所在する。種市氏は中世から近世初期に当地方を領有していた三戸南部氏(後の盛岡南部氏)の家臣である。『南部藩参考諸家系図』(以後系図)によれば、種市中務(実名不詳)が三戸南部氏24代晴政から種市村、蛇口村(軽米町)並びに傍村賜り種市村に居住したとある。およそ16世紀半ば頃と推測されるが、それ以前のことは不明である。『奥南旧指録』には、三戸南部氏25代晴継の股肱の臣として中務が久慈備前と名を連ねており、三戸南部氏の有力家臣であったとみられる。系図によると、種市中務の長男光徳は同じく中務と称した。光徳は三戸南部氏26代信直(初代盛岡藩主)から種市村並びに傍村に600石を賜ったとある。『聞老遺事』によると、天正19年(1591)九戸政実の乱の際、信直方に属し18人の部下と鉄砲3挺、弓3張で参陣している。また、2代盛岡藩主利直の時に起きた慶長5年(1600)の岩崎合戦では、部下18人と参陣している。なお、系図には光徳の妻は根城南部氏(後の遠野南部氏)18代八戸政栄の弟新田政盛の娘であることが記されている。

その後光徳の長男孫三郎が家督を継いだ。『聞老遺事』によれば大坂夏の陣に出陣している。光徳と孫三郎父子は、初代盛岡藩主信直、2代盛岡藩主利直父子に仕え活躍した家臣であったが、孫三郎は3代盛岡藩主重直の時、罪ありということで禄を没収され、慶安2年(1649)に没している。

光徳の次男吉広は系図によれば、天正15年(1587)に初代盛岡藩主信直から閉伊口村(久慈市)を賜り住んでいたが、天正17年(1589)に蛇口村に替地を賜り、蛇口氏に姓を変えている。

岩手県遺跡台帳には、平時居住していた平城の種市城跡(16)と非常時に立てこもったとされる山城の種市城跡(17)が登録されている。平城の種市城跡はJR八戸線種市駅より西へ約9kmに所在し、平城跡には現在でも馬

場屋敷、的場、神楽屋敷など当時の名残と思われる地名が存在する。そこから南西へ約1kmに山城の種市城跡が位置する。

天正18年(1590)、豊臣秀吉の朱印状により初代盛岡藩主信直が「南部内七郡」を安堵されると、八戸・九戸地方一帯は信直が直接支配することとなり、寛永4年(1627)に根城南部氏が伊達氏に対する備えを理由に遠野へ転封されると盛岡藩の直轄地になった。八戸には八戸城代が配置され、さらに八戸地方には八戸代官、九戸郡には久慈代官を派遣し支配に当たったようである。

寛文4年(1664)9月、3代盛岡藩主重直が跡継ぎを決めないままに死去した。同年11月、幕府は重直の次弟の重信と末弟の直房を呼び、盛岡藩10万石のうち8万石を重信に相続させ、残り2万石を直房に与え、新規に一藩をおこさせる処置を取った。寛文5年(1665)2月、盛岡藩より領地の配分が行われ、八戸を居城とし、三戸郡41箇村、九戸郡38箇村、志和郡4箇村、都合83箇村が付与された。八戸藩は、各村の支配のため通制という行政区域を用い、三戸郡には八戸廻・名久井通・長苗代通、九戸郡には軽米通・久慈通、志和郡には志和の行政区を設定し、各通には代官所を配置した。種市は八戸廻、大野は久慈通に属していた。

八戸藩の主な産業は、商業、林業、漁業、製塩業、製鉄業、造船業などがあり、特に製鉄は原料である砂鉄と燃料の薪炭材が豊富であったため盛んに行われた。製鉄に関する史料は八戸藩の藩庁の日記である『目付所日記』、『勘定所日記』、民間の史料では『晴山家文書』、『淵沢家文書』、『西町屋(石橋)文書』などがあり、様相を知ることができる。

製鉄の中心地は大野で、鉄山会所として日払所がおかれ、鉄山支配人が詰めて生産方を指揮した。天保9年(1838)には、大野の鉄山として玉川山、金取山、葛柄山、水沢山、大谷山、川井山、滝山の七山があった。『晴山家文書』の天保8年(1837)「寛政年中より拾書」に鉄山支配人の経緯が記されているが、晴山文史郎から安永7年(1778)に初代晴山吉三郎へ受け継がれ、その後数人の支配人を経て、享和2年(1802)からは飛騨の浜谷(屋)茂八郎が引き継いだ。文政6年(1823)には、鉄山は藩営となり、石橋徳右衛門が支配人に就任して、その下支配人に二代目晴山吉三郎が就いた。さらに天保5年(1834)の百姓一揆後は、軽米の淵沢円右衛門が支配人を命じられ、天保9年からは江戸の美濃屋宗(惣)三郎(家臣名金子丈右衛門)へと移った経過が記されている。

近世の遺跡として、町指定史跡の有家台場(46)がある。『目付所日記』によると、八戸藩では幕府から異国船警戒の命を受けて、寛政3年(1791)に鉄砲堅・目付御用掛を任命し、異国船の警戒に当たさせたようである。寛政5年(1793)の中里覚右衛門書き上げの「堅場」には「大堅」として鮫村、麦生、「小堅」として八太郎浦、湊浦、小船渡浦、有家浦、中野浦の名があげられている。藩の日記などには異国船の出没記録がいくつかあるが、『目付所日記』によると文政8年(1825)有家浦の沖合15里に異国船一隻が近寄り、伝馬船二隻を出して上陸の様子を見せたので、弓・鉄砲衆など計34人の藩士が同日に派遣されたことが記されている。その後、安政元年(1854)八太郎・湊場尻・館鼻・塩越・鮫・小船渡・有家・久慈湊に台場が築かれ、有家にも陣屋堅の役人が任命された。有家台場の現況は、八戸線の建設工事などで大部分が破壊されているものの、盛土遺構の一部が残存している。

製鉄関連の遺跡は、21箇所(旧種市町16箇所、旧大野村5箇所)登録されている。先述した七山の一つである大谷鉄山(26)は大谷地区にあり、鉄山操業により形成された集落とみられ、製鉄に関わった人々の子孫が多く居住している。製鉄関連の遺跡調査については、岩手県教育委員会の製鉄関連遺跡の詳細分布調査において、旧種市町5箇所、旧大野村35箇所の遺跡の所在を確認している。また、田村栄一郎氏によるたたら遺跡の踏査によると、旧種市町は鉄山跡12箇所の他、密銭場跡や鍛冶場跡など15箇所、旧大野村については製鉄関連の遺跡42箇所と鍛冶場跡を確認した結果報告がある。鉄滓が採集される遺跡が少なくとも60箇所以上にのぼり、未発見のものも含めると相当数になると考えられる。

なお、南八木遺跡(201)で古代から中世の製鉄関連の遺跡が発見された。少なからず近世以前のものも所在することが予想される。今後製鉄関連の詳細な町内全域の分布調査を行い、製鉄関連遺跡分布図の作成、遺跡の登

録作業が必要である。

製鉄以外の金・銀・銅・鉛鉱山のいわゆる非鉄鉱業については、八戸藩の日記類に僅かにみられるが、盛岡藩領に比べ八戸藩領内には大きな金山はなく、小規模な金山がいくつかあるのみとみられる。『梅内家文書』の慶安2年(1649)の「砂金採取運上金請取状」によると、沢尻、雪畑、小手沢、野そうけ山に金山があったことが記されている。岩手県遺跡台帳には砂金採取跡として、小手野沢金山(14)、ノソウケ金山(23)の2遺跡が登録されている。

<引用・参考文献>

- 伊東信雄 1953「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」『歴史第6輯』東北史学会
- 草間俊一 1963『種市の歴史(原始-中世)種市町諸遺跡の調査報告』種市町役場
- 角川書店 1985『角川日本地名大辞典3 岩手県』
- 岩手県教育委員会 1986『岩手県中世城館分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第82集
- 田村栄一郎 1987『みちのくの砂鉄いまいずこ』
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
1996『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集
- 岩手県教育委員会 1998『岩手の貝塚』岩手県文化財調査報告書第102集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
2001『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集
- 岩手県久慈地方振興局久慈農村整備事務所・(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
2002『上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集
- 岩手県種市町教育委員会 2004『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』種市町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 岩手県種市町教育委員会 2005『種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』種市町埋蔵文化財調査報告書第2集
- 岩手県教育委員会 2006『岩手の製鉄遺跡』岩手県文化財調査報告書第122集
- 洋野町 2006『大野村誌第二巻史料編1』大野村誌編さん委員会
- 洋野町 2006『種市町史第六巻通史編(上)』種市町史編さん委員会
- 岩手県洋野町教育委員会 2013『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 駒木野智寛・相原淳一 2014「岩手県における古津波堆積層と遺跡」『岩手考古学』第25号岩手考古学会
- 岩手県洋野町教育委員会 2015『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集
(公財)岩手県文化振興事業団 2015『平成26年度発掘調査報告書 南川尻遺跡 下向遺跡 沼袋Ⅱ遺跡 沼袋Ⅲ遺跡
八幡沖遺跡 ほか調査概報(39遺跡)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第647集
- 岩手県教育委員会 2016『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成26年度復興関係)』岩手県文化財調査報告書第146集
(公財)岩手県文化振興事業団 2016『平成27年度発掘調査報告書 サンニヤ遺跡 房の沢Ⅳ遺跡 白石遺跡
ほか調査概報(33遺跡)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第661集
- 岩手県洋野町教育委員会 2017『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集
- 岩手県教育委員会 2017『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成27年度復興関係)』岩手県文化財調査報告書第149集
- 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財)岩手県文化振興事業団
2017『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集
(公財)岩手県文化振興事業団 2017『平成28年度発掘調査報告書 岩洞湖Ⅰ遺跡・析洞Ⅳ遺跡・八森遺跡
ほか調査概報(28遺跡)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第676集

岩手県教育委員会 2018『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成28年度復興関係）』岩手県文化財調査報告書第152集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2018『北鹿糠遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第686集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2018『サンニヤⅠ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第687集

（公財）岩手県文化振興事業団 2018『平成29年度発掘調査報告書 岩洞湖Ⅰ・Ⅱ遺跡 和野新壘神社遺跡 北野Ⅱ遺跡

木戸場遺跡 中野城内遺跡 沼里遺跡 根井沢穴田Ⅳ遺跡 耳取Ⅰ遺跡 千厩城遺跡

ほか調査概報（23遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第692集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2019『南鹿糠Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第697集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2019『上のマッカ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第698集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2019『小田ノ沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第699集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2019『鹿糠浜Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第702集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2019『南八木遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第703集

岩手県洋野町教育委員会 2019『西平内Ⅰ遺跡ハンドボーリング調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第4集

岩手県洋野町教育委員会 2019『続石遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第6集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2020『サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第714集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2020『田ノ端Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第715集

久慈広域連合・岩手県洋野町教育委員会 2020『尺沢遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第8集

岩手県洋野町教育委員会 2020『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第9集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2021『北ノ沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第725集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2021『宿戸遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第726集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2021『鹿糠浜Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第727集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2021『北玉川Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第728集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2021『板橋Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第729集



第3図 町内遺跡分布図

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査経歴	備考	文献
1	IF37-1386	角浜	かどのはま	散布地	縄文	縄文土器	種市第42地割		範囲変更(平成23年度)	※4
2	IF37-2396	伝吉I	でんきちいち	散布地	縄文、古代	縄文土器(早・前・後期)、剥片石器、礫石器、土師器等	種市第43～45地割		伝吉遺跡から名称・範囲変更(平成23年度)、範囲変更(平成25年度)	※4
3	IF38-1086	角川目I	かどかわめいち	散布地	縄文	縄文土器(前・中・晩期)、石斧、礫石器	種市第39地割		蛭夷森(アリス森)遺跡から名称・範囲変更(平成23年度)	※4
4	IF47-2334	千歌平	せんじきだいら	集落跡	縄文	縄文土器(前・中・晩期)、石棒、剥片	種市第48地割			
5	IF48-0170	平内I	ひらないいち	散布地	縄文	縄文土器(前・中期)、剥片	種市第34・37地割		平内遺跡から名称・範囲変更(平成23年度)	※4
6	IF48-1276	南館	みなみだて	城館跡	中世	堀跡(破壊)	種市第28地割	昭和59年度調査		
7	IF48-2234	横手	よこて	散布地	縄文、古代	縄文土器(晩期)、土師器	種市第24地割		範囲変更(平成23年度)	
8	IF48-2283	トチの木	とちのき	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	種市第21地割			
9	IF56-0330	荒巻	あらまき	集落跡	縄文、弥生	縄文土器(中期)、弥生土器	種市第59地割			
10	IF56-0370	八幡堂館(八幡観音館)	はちまんどうだて	城館跡	中世	車郭、堀跡	種市第61地割	昭和59年度調査	八幡館より名称変更(平成13年度)	
11	IF57-0086	城内	じょうない	集落跡	古代	土師器	種市第56地割			
12	IF57-0229	荒屋敷館(蝦夷館)	あらかやしきだて	城館跡	中世	堀跡(破壊)	種市第50地割	昭和59年度調査		
13	IF57-0264	館野館	たてのだて	城館跡	中世	車郭、堀跡、竪穴	種市第50地割	昭和59年度調査		
14	IF57-0309	小手野沢金山	こてのさわきんざん	砂金採取跡	近世	石垣	種市第51地割		小手野沢金山より名称変更(平成13年度)	
15	IF57-0317	土橋館	どばしだて	城館跡	中世	屋敷跡、採掘跡	種市第51地割	昭和59年度調査		
16	IF57-1023	種市城(平城)	たねいちじょう	城館跡	中世	堀跡	種市第57・60地割	昭和59年度調査		
17	IF57-2033	種市城(山城)	たねいちじょう	城館跡	中世	堀跡、平場	種市第60地割			
18	IF58-0034	小手野沢館	こてのさわだて	城館跡	中世	堀跡、平場	種市第51地割	昭和59年度調査		
19	IF58-0169	板橋館	いたばしだて	城館跡	中世	車郭、堀跡	種市第21地割	昭和59年度調査		
20	IF58-0341	ゴッソー	ごっそー	集落跡、狩猟場跡	縄文	竪穴住居跡、傾し穴状遺構、礎土遺構、柱穴状小土坑、土坑、縄文土器(早～晩期)、製塩土器、弥生土器、石器	種市第18地割	平成6年度・12年度・27年度本発掘調査	※1 ※10	
21	IF58-1006	たけの子	たけのこ	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)、製塩土器	種市第21地割			
22	IF58-1205	大久保	おおくほ	散布地	縄文、古代	縄文土器(前・後・晩期)、石斧、土師器	種市第19地割			
23	IF66-0156	ノノウケ金山	のそうけきんざん	砂金採取跡	近世	石垣	種市第70地割			
24	IF66-0300	小茅生館(タテッコ)	こがようだて	城館跡	中世		種市第70地割	昭和59年度調査		
25	IF67-1131	和盛館	わさだて	城館跡	中世	車郭、堀跡、平場	種市第71地割	昭和59年度調査		

第1表 町内の遺跡一覧(1)

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査経歴	備考	文献
26	IF67-2146	大谷鉄山	おおやてつざん	製鉄関連	近世	鉄滓	種市第73・74地割		八戸藩大野村鉄山	
27	IF69-1094	西ノ館I	にしのだていち	散布地	縄文	縄文土器(後期)、石器	種市第7・8地割		名称変更(令和元年度)	
28	IF69-1157	宿戸館	しゆくのへだて	城館跡	中世	単郭、堀跡、平場	種市第7地割	昭和59年度調査		
29	IF69-2013	西の館	にしのだて	城館跡	中世	土塁、堀跡、平場	種市第7地割	昭和59年度調査		
30	IF69-2020	西ノ館II	にしのだてに	散布地	縄文	縄文土器(晩期)、石器、土偶	種市第7地割		名称変更(令和元年度)	
31	IF69-2041	上岡谷	かみおおかや	散布地	縄文	縄文土器(後期)	種市第7地割			
32	IF69-2380	大平	おおおだいら	集落跡	縄文、弥生	縄文土器(早・晩期)、弥生土器	種市第3地割		範囲変更(令和元年度)	
33	IF69-2393	ホックリ貝塚	ほっくりかいづか	貝塚	縄文、古代	縄文土器、製塩土器、カキ、ミルクイ、土師器	種市第1地割		範囲変更(令和元年度)	
34	IF77-0201	細沢鉄山	ほそざわてつざん	製鉄関連	近世	鉄滓	種市第74地割			
35	IF77-1027	薄川鉄山	にごりかわてつざん	製鉄関連	近世	鉄滓	種市第73地割、大野第26地割			
36	IF79-0123	小田の沢鉄山	こだのさわてつざん	製鉄関連	近世	鉄滓	種市第3地割			
37	IF79-0351	八木貝塚	やぎかいづか	貝塚	縄文	縄文土器(晩期)、鹿角	種市第1地割			
38	IF79-0373	袖山	そでやま	集落跡	縄文、古墳	縄文土器(中・後期)、石製模造品(古墳時代)	種市第1地割			
39	IF79-1245	長坂I	ながさかいち	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	小子内第1・2地割		名称変更(令和元年度)	
40	IF79-1358	小子内貝塚	おこないかいづか	貝塚	縄文	柴付磁器、鉄片、ミルクイ、イシダタミ	小子内第5地割			
41	IF79-2344	黒マッカ貝塚	くろまっかかいづか	貝塚	縄文、古代	縄文土器(後期)、石器、土師器	有家第2地割			
42	IF89-0339	向折戸	むかいおりど	集落跡	縄文	縄文土器(晩期)、石斧	有家第3地割			
43	IF89-0340	上のマッカ	うえのまっか	集落跡	縄文、古代、中世、近世	竪穴住居跡、竪穴遺構、陥し穴状遺構、土坑、燧土遺構、炭酸跡(近世)、縄文土器(早～晩期)、製塩土器、土師器、石器、古銭	有家第5地割	平成27年度・29年度本発掘調査	範囲変更(平成23年度)	※19
44	IF89-0353	有家館	うげだて	城館跡	中世	単郭、堀跡(破壊)	有家第5地割	昭和59年度調査	範囲変更(平成23年度)	
45	IF99-1153	芦毛渡鉄山	あしげわたりてつざん	製鉄関連	近世	鉄滓	中野第7地割			
46	IG80-0056	有家台場	うげだいば	砲台場跡	近世	土塁	有家第8地割	昭和59年度調査		
47	IG80-1006	大宮II	おおみやに	散布地	縄文、弥生	縄文土器(早期)、弥生土器	中野第2地割			
48	IG80-1008	大宮I	おおみやいち	集落跡	縄文、弥生	縄文土器(早・前・晩期)、石錘、弥生土器	中野第2地割			
49	IG80-1063	長根塚	ながねづか	散布地	縄文	縄文土器	中野第2・4地割			
50	IG80-2004	中野館(館塚・暇夷館)	なかのだて	城館跡	中世	単郭、堀跡(破壊)	中野第4地割	昭和59年度調査		
51	IG90-0005	暇夷塚	えぞづか	集落跡	縄文	縄文土器	中野第11地割		範囲変更(平成23年度)	

第1表 町内の遺跡一覧(2)

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査経歴	備考	文献
52	IG90-0085	藤好沢	ふじよしざわ	縄文	縄文土器(前・晩期)、石刀	中野第7地割				
53	IF38-1072	アイヌ森	あいぬもり	縄文、弥生、古代	縄文土器(前～晩期)、縄文晩期後葉～弥生前期の土器、石器、土師器	種市第39地割			浜通遺跡から名称・範囲変更(平成23年度)	※4
54	欠番	-	-	-	-	-	-	-	北ノ沢遺跡(登録抹消)	
55	IF48-0194	平内Ⅲ	ひらないさん	縄文	縄文土器(中期)、磨石	種市第34地割			範囲変更(平成23年度)	※4
56	IF48-1025	石倉	いしくら	縄文、古代	縄文土器(後期)、敲石、礫器、土師器	種市第37地割			範囲変更(平成23年度)	※4
57	IF48-2023	櫃割	ひつわり	縄文	石棒	種市第46・49地割				
58	IF56-1358	ニサクドウ	にさくどう	縄文、古代	縄文土器(晩期)、土師器、支脚	種市第63地割				
59	IF57-2323	高取Ⅰ	たかとりいち	縄文	縄文土器	種市第21地割				
60	IF57-2279	高取Ⅱ	たかとりに	縄文	縄文土器(中・晩期)	種市第21・72地割				
61	IF69-0042	戸廻家	へるけ	縄文	縄文土器(晩期)、土偶	種市第10・11地割				
62	IF69-2113	向山	むかいやま	縄文	縄文土器	種市第6地割				
63	IF68-2337	田ノ沢	たのさわ	縄文	縄文土器(晩期)	種市第7地割				
64	IF89-0378	向長根	むかいながね	縄文	縄文土器	有家第8地割				
65	IF48-0017	平内Ⅱ	ひらないに	縄文、弥生、近世	竪穴住居跡、縄文土器(早期中葉・中期末～後期前葉)、弥生土器(前期後半)、土製品、石器、石製品、鉄製品、縄管、銭貨、屋外炉、土坑、溝状土坑、集石、溝跡、焼土遺構	種市第39・43地割	平成11～13年度・23～25年度本発掘調査		範囲変更(平成23年度)	※3 ～6
66	IF79-0119	大浜	おおはま	縄文	縄文土器、石器	種市第3地割				
67	IF69-1109	籠	たて	縄文	縄文土器(中期)	種市第7地割				
68	IF56-2350	大沢	おおさわ	縄文	縄文土器	種市第66・68地割			平成13年度新規発見	
69	IF38-0098	二十一平	にじゅういちたい	古代	製塩土器、土製支脚、土師器	種市第41地割			平成15年度新規発見、範囲変更(平成23年度)	※4
70	IF59-2161	玉川Ⅰ	たまがわいち	縄文	縄文土器(早期)	種市第13地割				
71	IF59-2038	玉川Ⅱ	たまがわに	縄文	縄文土器(前期)	種市第13・14地割				
72	IF69-1126	馬場Ⅰ	ばばいち	縄文	縄文土器	種市第7地割			平成16年度新規発見、範囲変更(平成23年度)、名称変更(令和元年度)	
73	IF89-0314	八森	はちもり	縄文、奈良	竪穴住居跡、縄文土器、土師器、石器	有家第3・4地割	平成28年度本発掘調査		平成16年度新規発見、範囲変更(平成23年度)	※13
74	IF86-0118	向田Ⅱ	むかいだに	縄文	縄文土器	大野第20地割				

第1表 町内の遺跡一覧(3)

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査経歴	備考	文献
75	IF86-0137	向田	むかいだ	散布地	縄文	縄文土器(後期)、石器	大野第23地割			
76	IF86-0144	向田I	むかいだいち	散布地	縄文	縄文土器(後期)、石器	大野第20地割			
77	IF87-1082	明戸館	あけとだて	城館跡	中世	単郭、土塁、堀跡、平場	大野第29地割	昭和59年度調査		
78	IF87-2100	森の渡	はぎのわたり	製鉄関連	近世	鉄滓	大野第36・37地割			
79	IF87-2366	沢山館(蝦夷館)	さわやまだて	城館跡	中世	堀跡、単郭	大野第49地割	昭和59年度調査		
80	IF88-2284	牛軋ばし林館	うしろはしばやしだて	城館跡	中世	堀跡、平場	大野第55地割	昭和59年度調査		
81	IF96-0272	たてひら館	たてひらやかた	城館跡	中世	郭跡、堀跡、平場	大野第13地割	昭和59年度調査		
82	IF96-0387	長根	ながね	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)、石器	大野第72地割			
83	IF96-1280	蝦夷森館	えぞもりだて	城館跡	中世	郭跡、堀跡、平場	大野第10地割	昭和59年度調査		
84	IF96-2238	横岸沢II	よこさざわに	散布地	縄文	縄文土器、石器	大野第4地割			
85	IF96-2249	横岸沢I	よこさざわいち	散布地	縄文	縄文土器、石器	大野第5地割			
86	IF96-2316	大野館	おおのだて	城館跡	中世	平場	大野第5地割	昭和59年度調査		
87	IF97-0012	ひとつっこ館	ひとつっこだて	城館跡	中世	単郭、堀跡、平場、竪穴	大野第68・69地割	昭和59年度調査		
88	IF97-2055	金ヶ沢	かねがさわ	散布地	縄文	縄文土器(前期)	大野第59地割			
89	IF98-1299	阿子木館	あこぎだて	城館跡	中世	単郭、堀跡、竪穴	阿子木第4地割	昭和59年度調査		
90	JF07-0168	高森II	たかもり	散布地	縄文	縄文土器	大野第57地割			
91	JF07-2061	上水沢I	かみみずさわいち	散布地	縄文	縄文土器	水沢第5地割			
92	JF07-2188	上水沢II	かみみずさわに	集落跡	縄文、弥生	竪穴住居跡、住居状遺構、土坑、柱穴状土坑、燧土遺構、埋設土器遺構、縄文土器(早～後期)、弥生土器、土製品、石器、鉄製品、銅貨(寛永通宝)、アスファルト塊、陶磁器(近・現代)、遺物包含層	水沢第7地割	平成12年度本発掘調査		※2
93	JF07-2196	上水沢III	かみみずさわさん	散布地	縄文	縄文土器	水沢第5地割			
94	JF07-2204	高森I	たかもりいち	散布地	縄文	縄文土器	水沢第7地割			
95	JF07-2272	上水沢IV	かみみずさわよん	散布地	縄文	縄文土器	水沢第7地割			
96	JF07-2275	上水沢V(蝦夷館)	かみみずさわご	城館跡	中世	単郭	水沢第7地割	昭和59年度調査		
97	JF07-2288	下水沢I	しもみずさわいち	散布地	縄文	剥片	水沢第8地割			
98	JF07-2294	上水沢VI	かみみずさわろく	散布地	縄文	縄文土器	水沢第7地割			
99	JF08-0067	堤内	つつみない	散布地	縄文	縄文土器	大野第57地割、 帯島第11地割			

第1表 町内の遺跡一覧(4)

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査経歴	備考	文献
100	JF08-0129	日当Ⅰ	ひなたいち	散布地	古代	土師器	大野第57地割、阿子木第9地割			
101	JF08-0186	下帯島Ⅰ	しもたいしまいち	散布地	縄文	縄文土器	大野第57地割、帯島第11地割			
102	JF08-0221	日当Ⅱ	ひなたに	散布地	縄文	縄文土器	阿子木第9地割			
103	JF08-0225	阿子木	あこぎ	散布地	縄文	縄文土器	阿子木第7・12地割			
104	JF08-1108	下帯島Ⅱ	しもたいしまに	散布地	縄文	縄文土器	帯島第11地割			
105	JF08-1156	蝦夷館Ⅰ	えぞだていち	城館跡	中世	平場、堀跡	帯島第5地割	昭和59年度調査		
106	JF08-1199	上帯島Ⅰ	かみたいしまいち	散布地	縄文	縄文土器	帯島第8地割			
107	JF08-1225	二ツ屋	ふたつや	散布地	縄文	縄文土器	阿子木第18地割			
108	JF08-1254	下帯島Ⅲ	しもたいしまさん	散布地	古代	土師器	阿子木第18地割			
109	JF08-1272	下帯島Ⅳ	しもたいしまよん	散布地	縄文	縄文土器	帯島第9地割			
110	JF08-1375	二ツ屋向	ふたつやむかい	散布地	縄文	縄文土器	阿子木第12地割			
111	JF08-1398	長塚森Ⅰ	ちやうづかもりいち	散布地	縄文	縄文土器	阿子木第12地割			
112	JF08-2059	高森Ⅲ	たかもりさん	散布地	縄文	縄文土器	帯島第4地割			
113	JF08-2073	大渡Ⅳ	おおわたりよん	散布地	縄文	縄文土器	帯島第1地割			
114	JF08-2081	大渡Ⅴ(蝦夷館)	おおわたりご	城館跡か?	中世	単郭、堀跡	帯島第1地割	昭和59年度調査		
115	JF08-2111	蝦夷館	えぞだて	城館跡	中世	単郭、堀跡	帯島第4地割	昭和59年度調査		
116	JF08-2117	関口Ⅰ	せきぐちいち	散布地	縄文	縄文土器	帯島第6・7地割			
117	JF08-2127	関口Ⅱ	せきぐちに	散布地	縄文	縄文土器	帯島第7地割			
118	JF08-2148	上帯島Ⅱ	かみたいしまに	散布地	縄文	縄文土器	帯島第7地割			
119	JF08-2194	上帯島Ⅲ	かみたいしまさん	散布地	縄文	縄文土器	帯島第7地割			
120	JF08-2211	上帯島Ⅳ	かみたいしまよん	散布地	縄文	縄文土器	帯島第7地割			
121	JF08-2269	弥栄Ⅰ	いやさかいち	散布地	縄文	縄文土器	字弥栄			
122	JF08-2287	弥栄Ⅲ	いやさかさん	散布地	縄文	縄文土器	字弥栄			
123	JF08-2298	弥栄Ⅳ	いやさかよん	散布地	縄文	縄文土器	帯島第7地割			
124	JF08-2301	弥栄Ⅴ	いやさかご	散布地	縄文	縄文土器	帯島第7地割			
125	JF08-2304	弥栄Ⅵ	いやさかろく	散布地	縄文	縄文土器	帯島第7地割			
126	JF08-2318	長塚森Ⅱ	ちやうづかもりに	散布地	縄文	縄文土器(後閉)、壺	阿子木第12地割			

第1表 町内の遺跡一覧(5)

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査経歴	備考	文献
127	JF08-2322	弥栄Ⅶ	いやさかな	散布地	縄文	縄文土器	帯島第7地割			
128	JF08-2353	弥栄Ⅷ	いやさかはち	散布地	縄文	縄文土器	字弥栄			
129	JF08-2357	弥栄Ⅸ	いやさかきゆう	散布地	縄文	縄文土器	字弥栄			
130	JF08-2371	弥栄Ⅹ	いやさかじゆう	散布地	縄文	縄文土器	字弥栄			
131	JF08-2373	弥栄Ⅺ	いやさかじゆういち	散布地	縄文	縄文土器	字弥栄			
132	JF08-2380	弥栄Ⅻ	いやさかじゆうに	散布地	縄文	縄文土器	字弥栄			
133	JF09-1022	長塚森Ⅲ	ちようづかもりさん	散布地	縄文	石葺	阿子木第12地割			
134	JF09-1051	長塚森Ⅳ	ちようづかもりよん	散布地	縄文	縄文土器	阿子木第12地割			
135	JF09-2071	弥栄Ⅱ	いやさかに	散布地	縄文	縄文土器	帯島第7地割			
136	JF17-0140	上水沢Ⅷ	かみみずさわな	散布地	縄文	縄文土器(後期)	水沢第3地割			
137	JF17-0218	下水沢Ⅱ	しもみずさわに	散布地	縄文	縄文土器	水沢第9地割			
138	JF17-0296	金間部Ⅰ	かなまぶいち	製鉄関連	近世	欄の羽口、鉄滓	水沢第12地割			
139	JF17-0297	金間部Ⅱ	かなまぶに	散布地	縄文、古代、近世	縄文土器、土師器、寛永通宝	水沢第12地割			
140	JF17-0337	大渡Ⅰ	おおわたりにいち	散布地	縄文	縄文土器	水沢第10地割			
141	JF17-0339	大渡Ⅱ	おおわたりに	散布地	縄文	縄文土器	水沢第10地割			
142	JF17-1022	生平Ⅰ	おいたいらいち	散布地	縄文	縄文土器	水沢第2地割			
143	JF17-1024	生平Ⅱ	おいたいらに	散布地	縄文	縄文土器	水沢第2地割			
144	JF17-2003	青菜畑Ⅱ	あおなはたに	散布地	縄文	縄文土器(後期)	水沢第14地割			
145	JF17-2027	青菜畑	あおなはた	散布地	縄文	縄文土器、石器	水沢第13地割			
146	JF18-0002	大渡Ⅲ	おおわたりさん	散布地	縄文	縄文土器	帯島第2地割			
147	JF18-0103	帯島開拓地Ⅰ	たいしまかいたくちいち	散布地	縄文	縄文土器	帯島第7地割			
148	JF18-0108	帯島開拓地Ⅱ	たいしまかいたくちに	散布地	縄文	縄文土器	字弥栄			
149	JF18-0116	帯島開拓地Ⅲ	たいしまかいたくちさん	散布地	縄文	縄文土器	帯島第7地割			
150	JF18-1052	大田	おおた	散布地	縄文	縄文土器	水沢第11地割			
151	IF37-1367	堆中山Ⅰ	たいなかやまいち	散布地	縄文	石斧	種市第41地割			※4
152	IF38-1042	堆中山Ⅱ	たいなかやまに	散布地	縄文	縄文土器、礫器	種市第41地割			※4
153	IF38-2001	角川目Ⅱ	かどかわめに	散布地	縄文	縄文土器	種市第39・40地割			※4
154	IF37-2343	田ノ端Ⅰ	たのはたいち	散布地	縄文	縄文土器(後期)	種市第42地割			※4

第1表 町内の遺跡一覧(6)

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査経歴	備考	文献
155	IF37-2356	笹花I	ささはないち	散布地	縄文	縄文土器	種市第43地割			※4
156	IF38-2163	笹花II	ささはなに	散布地	縄文	縄文土器(後期)	種市第43地割			※4
157	IF37-2379	笹花III	ささはなさん	散布地	縄文	縄文土器	種市第43地割			※4
158	IF37-2397	笹花IV	ささはなよん	散布地	縄文	縄文土器、石斧、敲石、礫器	種市第43地割			※4
159	IF37-2392	伝吉II	でんきちに	集落跡、 狩猟場跡	縄文	竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構、縄文土器(前・後期)、石器	種市第42～44地割	令和元年度本発掘調査		※4 ※29
160	IF47-0239	伝吉III	でんきちさん	散布地	縄文	縄文土器	種市第44地割			※4
161	IF47-0238	伝吉IV	でんきちよん	製鉄関連	不明	鉄滓	種市第44地割			※4
162	IF47-0216	伝吉V	でんきちご	製鉄関連	不明	鉄滓	種市第44地割			※4
163	IF47-0345	北ノ沢I	きたのさわいち	集落跡	縄文	埋設土器、焼土遺構、捨て場、縄文土器、石器、土偶、短冊状土裏品	種市第45地割	平成28年度・29年度本発掘調査	範囲変更(平成25年度)	※4 ※33
164	IF47-0383	北ノ沢II	きたのさわに	散布地	縄文、古代	縄文土器、土師器	種市第44・45地割			※4
165	IF47-0258	北ノ沢III	きたのさわさん	散布地	縄文	縄文土器	種市第45地割			※4
166	IF47-0390	北ノ沢IV	きたのさわよん	散布地	縄文、古代	縄文土器(前期)、土師器	種市第45地割			※4
167	IF47-0344	北ノ沢V	きたのさわご	製鉄関連	不明	鉄滓	種市第45地割			※4
168	IF47-0341	北ノ沢VI	きたのさわろく	製鉄関連	不明	鉄滓	種市第45地割			※4
169	IF47-0257	北ノ沢VII	きたのさわなな	製鉄関連	不明	鉄滓	種市第45地割			※4
170	IF47-0299	北ノ沢VIII	きたのさわはち	製鉄関連	不明	鉄滓	種市第45地割			※4
171	IF47-1250	北ノ沢IX	きたのさわきゅう	製鉄関連	不明	鉄滓	種市第45地割			※4
172	IF47-1138	北ノ沢X	きたのさわじゅう	製鉄関連	不明	鉄滓	種市第45地割			※4
173	IF38-2192	北平内I	きたひらなないいち	散布地	縄文	縄文土器、石斧、礫器	種市第38地割			※4
174	IF48-0127	北平内II	きたひらなないに	散布地	縄文、古代	縄文土器、土師器	種市第38地割			※4
175	IF48-0123	北平内III	きたひらなないさん	散布地	縄文	縄文土器	種市第38地割			※4
176	IF48-0121	北平内IV	きたひらなないよん	散布地	縄文	縄文土器(後期)、剥片	種市第38地割			※4
177	IF48-0110	北平内V	きたひらなないご	散布地	縄文、弥生	縄文土器(後・晩期)、縄文晩期後葉～弥生前期の土器	種市第38・39・43地割			※4
178	IF48-0143	北平内VI	きたひらなないろく	散布地	縄文	縄文土器、石斧、敲石	種市第38地割			※4
179	IF48-0158	北平内	はまひらなない	散布地	縄文	縄文土器(早・晩期)、石斧、敲石	種市第35・36地割			※4
180	IF48-0174	北平内IV	ひらなないよん	散布地	縄文、古代	縄文土器(前期)、石斧、敲石、土師器、須恵器	種市第35地割			※4

第1表 町内の遺跡一覧(7)

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査経歴	備考	文献
181	IF48-0197	平内V	ひらなご	散布地	縄文	縄文土器(前期)、石斧、礫器	種市第33・35地割			※4
182	IF48-1200	南平内I	みなみひらなご	散布地	縄文	縄文土器(晩期)、製塩土器	種市第33地割			※4
183	IF48-1119	南平内II	みなみひらなご	散布地	縄文	縄文土器、剥片石器	種市第33地割			※4
184	IF48-1126	南平内III	みなみひらなご	散布地	縄文	縄文土器、剥片	種市第33地割			※4
185	IF48-0041	西平内I	にしひらなご	集落跡、 狩猟場跡	縄文、弥生	竪穴住居跡、竪穴遺構、掘立柱建物跡、陥し穴遺構、土坑、焼土遺構、灰跡、埋設土器、柱穴、配石遺構、集石遺構、整地層、縄文土器(早・前・後期)、弥生土器(後期)、石器、土製品、石製品、環状列石	種市第37地割	平成26年度・27年度本発掘調査、平成28年度ハンドボローイング調査、令和元年度トレンチ発掘調査	範囲変更(平成29年度)	※4 ※8 ※12 ※24 ※32
186	IF48-1040	西平内II	にしひらなご	散布地	縄文	縄文土器(前期)、石器	種市第37地割			※4
187	IF48-1115	東平内I	ひがしひらなご	散布地	縄文	縄文土器、石斧、礫石、礫器、剥片	種市第34地割			※4
188	IF48-1039	東平内II	ひがしひらなご	散布地	縄文	縄文土器	種市第34地割			※4
189	IF48-1080	東平内III	ひがしひらなご	製鉄関連	不明	羽口、鉄滓	種市第46地割			※4
190	IF47-1390	総沢I	うばさわご	散布地	縄文	縄文土器(後期)、石鏡、石斧、剥片	種市第47地割			※4
191	IF47-1288	総沢II	うばさわご	散布地	縄文、古代	縄文土器、石斧、土師器	種市第47地割			※4
192	IF47-1360	総沢III	うばさわご	散布地	縄文	縄文土器(前・後期)、削搔器、石斧、剥片、古銭	種市第47地割			※4
193	IF47-1342	総沢IV	うばさわご	散布地	縄文	縄文土器(中期)、削搔器、ビュースキュー、剥片	種市第47地割			※4
194	IF48-1197	南川尻	みなみかわしり	集落跡、 狩猟場跡	縄文	竪穴住居跡、土坑、陥し穴遺構、焼土、礫器、縄文土器、石器	種市第28地割	平成26年度・28年度本発掘調査	平成25年度新規発見	※7 ※14
195	IF48-2128	サンニヤI	さんにやご	集落跡、 狩猟場跡	縄文	竪穴住居跡、陥し穴遺構、土坑、焼土遺構、縄文土器、石器、鐔形土製品	種市第25地割	平成27年度・28年度本発掘調査	平成25年度新規発見	※9 ※14 ※16
196	IF58-0288	北鹿糠	きたかぬご	集落跡、 狩猟場跡	縄文	竪穴住居跡、陥し穴遺構、土坑、焼土、縄文土器、石器	種市第17地割	平成27年度・28年度本発掘調査	平成25年度新規発見	※15
197	IF58-1354	鹿糠浜II	かぬかはまご	集落跡、 狩猟場跡	縄文、奈良	竪穴住居跡(縄文・奈良)、土坑、陥し穴遺構、柱穴、遺物集中部、溝跡、縄文土器、石器、土製品、石製品、土師器	種市第15地割	平成29年度本発掘調査	平成25年度新規発見	※22
198	IF58-1399	鹿糠浜I	かぬかはまご	集落跡	縄文、弥生、 飛鳥～奈良	配石遺構、捨て場、竪穴建物跡、土坑、陥し穴、竪穴遺構、焼土、溝跡、集石、柱穴状土坑、灰窯、円筒形陥し穴、フラスコ状土坑、縄文土器(草創期・早・前・後・晩期)、製塩土器、弥生土器、土製品、石器、7C後半～8C前半代の土師器・土製品(紡錘車・垂飾品)	種市第15地割	平成29年度・30年度本発掘調査	平成25年度新規発見、範囲変更(平成29年度)	※35

第1表 町内の遺跡一覧(8)

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査経歴	備考	文献
199	IF69-1199	箱戸	しゅくのへ	集落跡	縄文、弥生	竪穴住居跡、土坑、貯蔵穴、陥し穴状遺構、埋設土器、甕土遺構、配石遺構、炭窯、土取り穴、縄文土器、石器、弥生土器、土器、珠状耳飾、線刻石製品、石製垂飾品、土管、煉瓦	種市第4～6地割	平成28年度～30年度本発掘調査	平成25年度新規発見	※34
200	IF69-2273	小田ノ沢I	こたのさわいち	集落跡	縄文	竪穴住居跡、土坑、柱穴、縄文土器、石器	種市第3地割	平成28年度本発掘調査	平成25年度新規発見、名称変更（令和元年度）	※20
201	IF79-1217	南八木	みなみやぎ	製鉄関連、狩猟場跡	縄文、古代、中世	陥し穴状遺構、土坑、鉄生産遺構、廃滓場、製炭遺構、縄文土器、石器、土師器、短刀、鉄滓、羽口、炉壁、砥石	種市第1地割	平成29年度本発掘調査	平成25年度新規発見	※23
202	IF89-1394	下向I	しもむかいいち	狩猟場跡	縄文、弥生	陥し穴状遺構、土坑、縄文土器、弥生土器、石器	中野第1地割	平成26年度本発掘調査	平成25年度新規発見、名称変更（令和元年度）	※7
203	IF89-2323	中野城内	なかのじょうない	狩猟場跡	縄文	陥し穴状遺構、土坑、土器、石器	中野第1地割	平成29年度本発掘調査	平成25年度新規発見	※17
204	IF89-1322	黒坂	くろさか	狩猟場跡	縄文	陥し穴状遺構	有家第9地割	平成26年度本発掘調査	平成26年度新規発見	※8
205	IF48-2231	サンニヤII	さんにやに	集落跡、狩猟場跡	縄文、古代	竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構、土師器、石器	種市第25地割	平成26年度・27年度本発掘調査	平成26年度新規発見	※8 ※11
206	IF58-1333	南鹿糠I	みなみかぬかいち	集落跡、狩猟場跡	縄文、古墳	竪穴住居跡（縄文・7C）、陥し穴状遺構、土坑、焼土遺構、溝状遺構、縄文土器、土師器、土製品、石器、石製品、鏡貨	種市第16地割	平成26年度・27年度・29年度本発掘調査	平成26年度新規発見	※8 ※18
207	IF57-0174	館野	たての	散布地、製鉄関連	古代	製塩土器（古代）、鉄滓	種市第53地割		製鉄関連は時代不明、平成27年度新規発見	
208	IF59-2021	北玉川I	きたまがわいち	集落跡、狩猟場跡、炭焼き場	縄文、弥生、近・現代	竪穴住居跡、貯蔵穴、土坑、陥し穴状遺構、炭窯跡、縄文土器、石器、弥生土器、土製品、素焼きの土管	種市第14地割	平成29年度・30年度・令和元年度本発掘調査	平成27年度新規発見、名称変更（令和元年度）	※36
209	IF37-2343	田ノ端II	たのはたに	集落跡	縄文	竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構、柱穴、縄文土器、縄文石器	種市第42地割	平成29年度・30年度本発掘調査	平成25年度新規発見	※28
210	IF58-0245	荒津内	あらかつない	集落跡、その他	縄文	陥し穴状遺構、フラスコ状土坑、土坑、溝跡、土器、石器、動物遺存体（近世～現代）	種市第20・21地割	平成29年度本発掘調査	平成28年度新規発見	※21
211	IF67-2355	松ヶ沢I	まつがさわいち	散布地	縄文	縄文土器、石器	種市第11・73地割		平成28年度新規発見	
212	IF58-2312	鹿糠浜III	かぬかはまさん	散布地	縄文	陥し穴状遺構	種市第15地割		平成28年度新規発見	
213	IF79-0012	緑石	つづくいし	集落跡、狩猟場跡	縄文、古代	竪穴住居跡、溝状土坑、土坑、性格不明遺構、縄文土器（早・後期）、土製品、石器、製塩土器、土製支脚	種市第4地割	令和元年度本発掘調査	平成29年度新規発見、範囲変更（令和元年度）	※26
214	IF86-2365	新田	しんでん	製鉄関連	近世	鉄滓	大野第14地割		平成29年度新規発見	
215	IF85-2385	一本松向I	いっぽんまつむかいいち	散布地、製鉄関連	縄文、古代、近世	縄文土器、土師器、鉄滓	大野第15地割		製鉄関連は時代不明、平成29年度新規発見	
216	IF86-2053	一本松向II	いっぽんまつむかいいち	散布地、製鉄関連	縄文、近世	縄文土器、鉄滓	大野第15・17地割		製鉄関連は時代不明、平成29年度新規発見	

第1表 町内の遺跡一覧（9）

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査経歴	備考	文献
217	IF58-1170	板橋Ⅰ	いたばしいち	狩猟場跡	縄文	陥し穴遺構	種市第21地割		平成29年度新規発見、名称変更（令和元年度）	
218	IF48-2250	サンニヤⅢ	さんにやさん	狩猟場跡	縄文	陥し穴状土坑、土坑、竪土遺構、炭鏝、縄文土器、石器、弥生土器、近世陶磁器	種市第25地割	平成28年度～30年度本発掘調査		※14 ※27
219	IF67-2265	松ヶ沢Ⅱ	まつがさわに	製鉄場跡	不明	鉄滓	種市第74地割		平成29年度新規発見	
220	IF99-0251	下向Ⅱ	しもむかいに	狩猟場跡	縄文	溝状土坑、土坑	中野第1地割	令和元年度本発掘調査	範囲変更（令和元年度）	※25
221	IF58-0234	板橋Ⅱ	いたばしに	集落跡、 狩猟場跡	縄文	堅穴住居跡、陥し穴状遺構、土坑、縄文土器（草創期・前・後期）、弥生土器、石器、土偶、鐙形土製品、円盤状土製品、石刀、円盤状石製品、陶磁器、鉄貨、水晶、琥珀	種市第21地割	平成30年度・令和元年度本発掘調査	平成30年度新規発見	※37
222	IF99-0384	尺沢	しゃくざわ	狩猟場跡、 散布地	旧石器、縄文、 弥生	溝状土坑、土坑、ピット、縄文土器（早・後期）、弥生土器、石器、剥片	中野第7地割	令和元年度本発掘調査	令和元年度新規発見	※31
223	IF68-0395	南玉川Ⅰ	みなみたまがわいち	狩猟場跡	縄文	溝状土坑、土坑、ピット	種市第11地割	令和元年度本発掘調査	令和元年度新規発見	※30 ※38
224	IF68-0306	南玉川Ⅱ	みなみたまがわに	狩猟場跡、 散布地	縄文、弥生	溝状土坑、土坑、不明遺構、縄文土器、弥生土器、石器	種市第11・14地割		令和元年度新規発見	※38
225	IF68-1386	西戸類家Ⅰ	にしへるけいち	集落跡	縄文、弥生	堅穴住居跡、土坑、ピット、縄文土器、弥生土器	種市第10地割	令和3年度本発掘調査	令和元年度新規発見	※38 ※41
226	IF68-2394	馬場Ⅱ	ばばに	狩猟場跡	縄文	溝状土坑、土坑、不明遺構	種市第7地割		令和元年度新規発見	※38
227	IF68-1045	南玉川Ⅲ	みなみたまがわさん	集落跡	古代	堅穴住居跡、炭鏝、土坑、溝状土坑、ピット、縄文土器、石器、土師器	種市第11地割	令和3年度本発掘調査	令和元年度新規発見	※38 ※41
228	IF78-1351	小田ノ沢Ⅱ	このだのさわに	狩猟場跡	縄文	溝状土坑	種市第3地割	令和元年度本発掘調査	令和元年度新規発見	※30 ※38
229	IF58-1139	板橋Ⅲ	いたばしさん	散布地	縄文	溝状土坑、縄文土器、石器	種市第21地割		令和元年度新規発見	
230	IF78-2269	長坂Ⅱ	ながさかに	狩猟場跡	縄文	溝状土坑	小子内第7地割		令和元年度新規発見	※38
231	IF68-0347	南玉川Ⅳ	みなみたまがわよん	散布地	縄文	土坑、縄文土器	種市第11地割	令和2年度本発掘調査	令和元年度新規発見	※38 ※39
232	IF58-2380	北玉川Ⅱ	きたたまがわに	狩猟場跡	縄文	溝状土坑	種市第14地割	令和2年度本発掘調査	令和元年度新規発見	※38 ※39
233	IF58-0105	板橋Ⅳ	いたばしよん	散布地	縄文	土坑	種市第21地割		令和元年度新規発見	
234	IF68-2339	南玉川Ⅴ	みなみたまがわご	狩猟場跡、 散布地	縄文	溝状土坑、不明遺構、縄文土器、石器	種市第11地割		令和2年度新規発見	※40
235	IF68-0213	南玉川Ⅵ	みなみたまがわろく	狩猟場跡、 散布地	縄文	溝状土坑、不明遺構、縄文土器	種市第11地割		令和2年度新規発見	※40
236	IF68-1209	南玉川Ⅶ	みなみたまがわなな	狩猟場跡	縄文、 近・現代	溝状土坑、不明遺構、炭鏝跡	種市第11地割		令和2年度新規発見	※40

第1表 町内の遺跡一覧（10）

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査経歴	備考	文献
237	IF68-1096	南玉川Ⅲ	みなみたまがわはち	散布地	縄文	不明遺構、縄文土器、石器	種市第11地割		令和2年度新規発見	※40
238	IF68-2121	南玉川IX	みなみたまがわきゅう	狩猟場跡、 散布地	縄文	土坑、溝状土坑、縄文土器、石器	種市第11地割	令和3年度本発掘調査	令和2年度新規発見	※40 ※41
239	IF68-1368	西戸類家Ⅱ	にしへるけに	狩猟場跡、 散布地	縄文	溝状土坑、石器	種市第10地割		令和2年度新規発見	※40
240	IF68-2321	南戸類家Ⅰ	みなみへるけいち	狩猟場跡、 散布地	縄文	土坑、溝状土坑、縄文土器	種市第8地割	令和3年度本発掘調査	令和2年度新規発見	※40 ※41
241	IF78-0045	西戸類家Ⅲ	にしへるけさん	狩猟場跡、 散布地	縄文	溝状土坑、土坑、縄文土器	種市第10地割	令和3年度本発掘調査	令和2年度新規発見	※40 ※41
242	IF77-0378	西戸類家Ⅳ	にしへるけよん	狩猟場跡	縄文	溝状土坑、不明遺構	種市第10地割		令和2年度新規発見	※40
243	IF69-1022	西戸類家Ⅴ	にしへるけご	狩猟場跡、 散布地	縄文	土坑、溝状土坑、ピット	種市第10地割	令和3年度本発掘調査	令和2年度新規発見	※40 ※41
244	IF78-0227	馬場Ⅲ	ばばさん	狩猟場跡	縄文	溝状土坑、不明遺構	種市第7地割		令和2年度新規発見	※40
245	IF68-2175	西戸類家Ⅵ	にしへるけろく	散布地	縄文	土坑、縄文土器、石器	種市第10地割		令和3年度新規発見	
246	IF68-2251	西戸類家Ⅶ	にしへるけなな	散布地	縄文	土坑、炭窯跡、縄文土器、石器	種市第10地割		令和3年度新規発見	
247	IF78-0104	西戸類家Ⅷ	にしへるけはち	狩猟場跡、 散布地	縄文	土坑、溝状土坑、溝跡、縄文土器、石器	種市第10地割	令和3年度本発掘調査	令和3年度新規発見	※41
248	IF78-0013	西戸類家Ⅸ	にしへるけきゅう	狩猟場跡	縄文	溝状土坑	種市第10地割		令和3年度新規発見	
249	IF68-2153	西戸類家Ⅹ	にしへるけじゅう	散布地	縄文	縄文土器、石器	種市第10地割		令和3年度新規発見	
250	IF68-1021	南玉川Ⅹ	みなみたまがわじゅう	狩猟場跡	縄文	溝状土坑	種市第11地割		令和3年度新規発見	
251	IF78-1018	南戸類家Ⅱ	みなみへるけに	散布地	縄文	配石遺構、埋設土器、嵌土遺構、土坑、縄文土器、石器、石製品	種市第8地割		令和3年度新規発見	
252	IF77-1125	松ヶ沢Ⅲ	まつがさわさん	狩猟場跡、 散布地	縄文	溝状土坑、縄文土器	種市第74地割	令和3年度本発掘調査	令和3年度新規発見	※41

第1表 町内の遺跡一覧(11)

〈文献について、それぞれ次のように略した〉

〔※1〕(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996・2001『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集・第357集

〔※2〕岩手県久慈地方振興局久慈農村整備事務所・(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002『上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集

〔※3〕岩手県種市町教育委員会 2004『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』種市町埋蔵文化財調査報告書第1集

〔※4〕岩手県種市町教育委員会 2005『種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』種市町埋蔵文化財調査報告書第2集

〔※5〕岩手県洋野町教育委員会 2013『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集

〔※6〕岩手県洋野町教育委員会 2015『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集

〔※7〕(公財)岩手県文化振興事業団 2015『平成26年度発掘調査報告書 南川尻遺跡 下向遺跡 沼袋Ⅱ遺跡 沼袋Ⅲ遺跡 八幡沖遺跡ほか調査概報(39遺跡)』

- 〔※8〕 岩手県教育委員会 2016 『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成26年度 復興関係)』 岩手県文化財調査報告書第146集
- 〔※9〕 (公財) 岩手県文化振興事業団 2016 『平成27年度発掘調査報告書 サニヤ遺跡 房の沢IV遺跡 白石遺跡ほか調査概報(33遺跡)』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第661集
- 〔※10〕 岩手県洋野町教育委員会 2017 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集
- 〔※11〕 岩手県教育委員会 2017 『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成27年度 復興関係)』 岩手県文化財調査報告書第149集
- 〔※12〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2017 『西平内I遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集
- 〔※13〕 (公財) 岩手県文化振興事業団 2017 『平成28年度発掘調査報告書 岩洞湖I遺跡 板洞IV遺跡 八森遺跡ほか調査概報(28遺跡)』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第676集
- 〔※14〕 岩手県教育委員会 2018 『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成28年度 復興関係)』 岩手県文化財調査報告書第152集
- 〔※15〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2018 『北鹿糠遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第686集
- 〔※16〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2018 『サニヤI遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第687集
- 〔※17〕 (公財) 岩手県文化振興事業団 2018 『平成29年度発掘調査報告書 岩洞湖I・H遺跡 和野新聖神社遺跡 北野XI遺跡 木戸場遺跡 中野城内遺跡 沼里遺跡 根井沢六田IV遺跡 耳取I遺跡 千蔵城遺跡(23遺跡)』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第692集
- 〔※18〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2019 『南鹿糠I遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化財調査報告書第697集
- 〔※19〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2019 『上のマツカ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第698集
- 〔※20〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2019 『小田ノ沢遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第699集
- 〔※21〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2019 『荒津内遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第701集
- 〔※22〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2019 『鹿糠浜II遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第702集
- 〔※23〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2019 『南八木遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第703集
- 〔※24〕 岩手県洋野町教育委員会 2019 『西平内I遺跡ハンドボーリング調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第4集
- 〔※25〕 岩手県洋野町教育委員会 2019 『下向II遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第5集
- 〔※26〕 岩手県洋野町教育委員会 2019 『続石遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第6集
- 〔※27〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2020 『サニヤIII遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第714集
- 〔※28〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2020 『田ノ端II遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第715集
- 〔※29〕 (公財) 岩手県文化振興事業団 2020 『令和元年度発掘調査報告書 沼里遺跡 根井沢六田IV遺跡 伝吉II遺跡 岩洞湖E遺跡 上矢次I遺跡 米崎城跡 ほか調査概報(10遺跡)』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第721集
- 〔※30〕 岩手県洋野町教育委員会 2020 『南玉川I遺跡・小田ノ沢II遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第7集
- 〔※31〕 久慈広域連合・岩手県洋野町教育委員会 2020 『尺沢遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第8集
- 〔※32〕 岩手県洋野町教育委員会 2020 『西平内I遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第9集
- 〔※33〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2021 『北ノ沢I遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第725集
- 〔※34〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2021 『宿戸遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第726集
- 〔※35〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2021 『鹿糠浜I遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第727集
- 〔※36〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2021 『北玉川遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第728集
- 〔※37〕 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団 2021 『板橋I遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第729集
- 〔※38〕 岩手県洋野町教育委員会 2021 『洋野町内試掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第10集
- 〔※39〕 岩手県洋野町教育委員会 2021 『北玉川II遺跡・南玉川IV遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第11集
- 〔※40〕 岩手県洋野町教育委員会 2022 『洋野町内試掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第12集
- 〔※41〕 岩手県洋野町教育委員会 2022 『洋野町内遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第13集

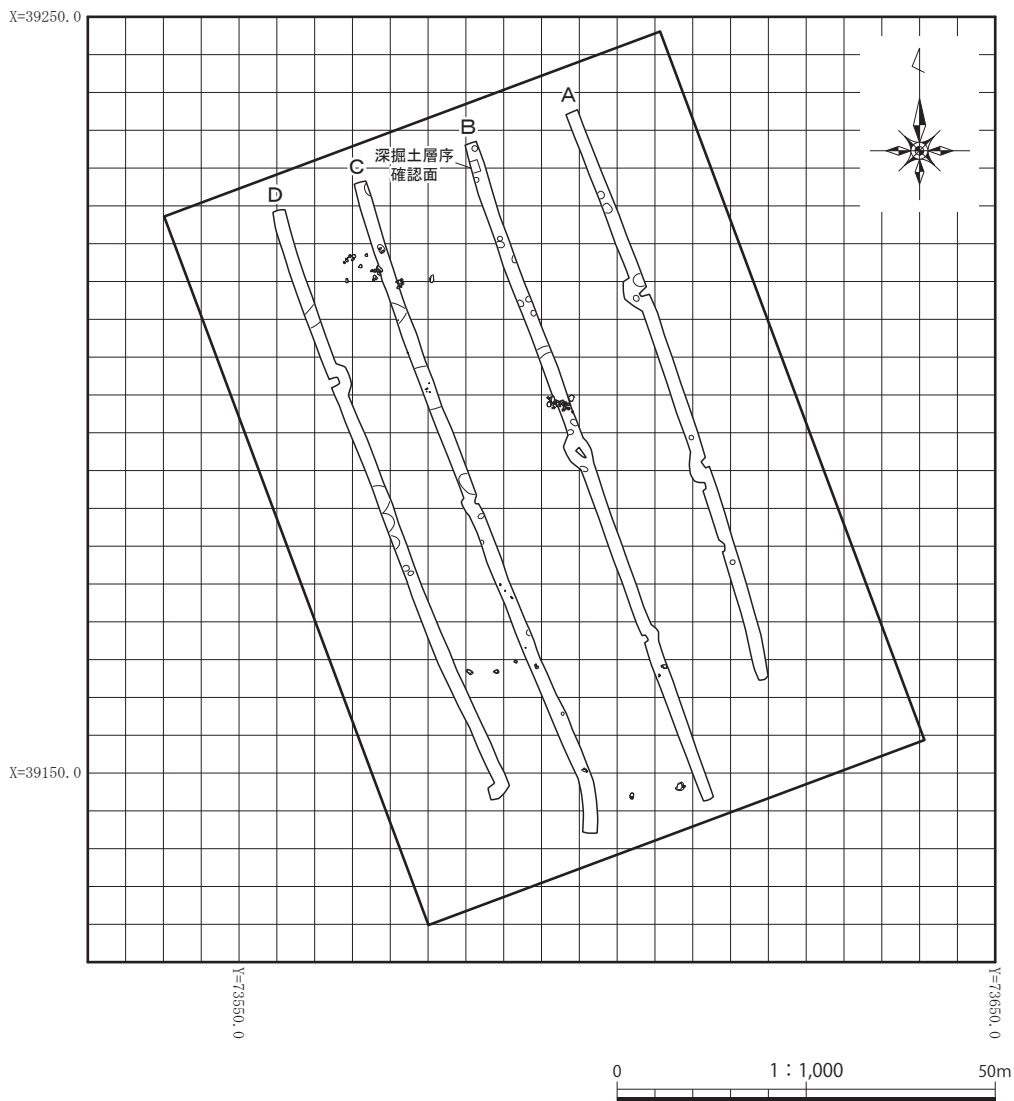
Ⅲ. 試掘調査の概要

1. トレンチの設定

試掘調査は、事業対象面積7,000㎡に対し、南北方向に4本のトレンチを設定し実施した(第4図)。トレンチは1.5m幅とし、長さについては現況に応じて設定した。

トレンチは東側よりA、B、C、Dと呼称した。グリッドの設定は行わず、遺物の取り上げは、北側、中央、南側と区分し、おおよその地点が把握できるように行った。調査面積は、Aトレンチ143㎡、Bトレンチ167㎡、Cトレンチ166㎡、Dトレンチ149㎡の合計625㎡である。

また、遺跡内の土層序観察のため、Bトレンチ北側に深掘区を設定した。



第4図 トレンチ配置図

2. 野外調査について

調査は令和3年6月28日～同年7月2日の日程で実施した。調査の手順は、バックホー(バケット土量0.45 m³)によりⅠ層(表土)及びⅡ層を除去し、スコップや縦鋤簾で壁面成形後、剪定鋏・根切り鋏を用い、草木根の除去を行った。その後、Ⅲ層上面において精査し、遺構の所在の確認を行った。

確認された遺構は46基であり、その内訳は礫群が13基、住居跡とみられるプランや埋設土器などが33基である。遺構には通し番号を付与した。遺物は、遺構確認面については番号を付与し、平面図作成とともにトータルステーションによる測量を行い、取り上げた。なお試掘調査のため、遺構覆土の掘削は行わず、一部の遺物については現地保存とした。また、遺構覆土から放射性炭素年代測定のため、試料の採取を行った(第Ⅴ章参照)。

記録写真については、デジタルカメラにて撮影を行い、作業状況とともに台帳に記録した。

トレンチ調査の結果を受け令和3年7月13日～同年8月5日に追加調査を実施した。期間中7月13日・14日には写房の稲野彰子氏による礫群の写真撮影を実施した(写真図版1～5)。また、14日には株式会社ラングの横山真氏による検出礫の加工痕等の確認を、19日には花崗岩研究会の柳澤忠昭氏による検出礫の石質鑑定を実施した(第2表)。20日・21日にはトレンチ周辺のハンドボーリング調査を実施し、礫群の広がりについて確認を行った(第19図)。また、21日には盛岡大学名誉教授熊谷常正氏にご来跡いただき、知見を賜った。

7月2日、15日、8月4日には、無人航空機(ドローン)による空中写真撮影を行った。

調査終了後は埋戻しを行い、8月5日調査を完了した。

3. 室内整理について

野外調査終了後、検出された遺物を含む記録を整理し、試掘調査報告書の編集作業を行った。

土器は報告書掲載資料の抽出及び観察表の作成を行い、随時図化作業を実施した。石器は石器観察及び石質鑑定と観察表の作成をでじたる工房の山本克氏に依頼した。

野外調査で撮影したデジタル写真についてはファイル名のリネームを行った。図面については「A-Survey」(エースプロジェクト)で第一原図を編集し、データ変換後、報告書掲載用の図として第二原図の編集を行った。

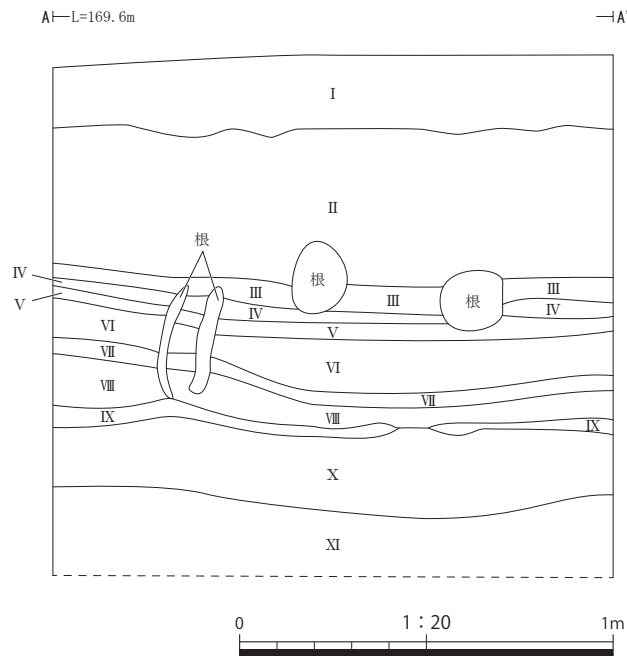
これらの作業と並行して原稿執筆・挿表作成を行い、完成した個々の挿図や調整済の画像等を併せて報告書を編集した。なお、図化・編集作業に使用したソフトは下記のとおりである。

Adobe 社製 「Illustrator CC」	遺物図トレース・遺構第二原図編集
「Photoshop CC」	掲載用各写真画像調整
「InDesign CC」	組版・編集

IV. 遺跡の地形と土層序

南戸類家Ⅱ遺跡は、南に土釜川を臨む標高153m～168mの段丘上に立地する。遺跡の東西には南から谷が入り込んでおり、南に張り出す幅100m程の丘陵上に位置する(第2図)。調査地点は南西方向への緩斜面地となっている。

土層断面図は、Bトレンチ北側西壁で作成した(第5図)。Ⅰ層は暗褐色土、Ⅱ層はにぶい黄褐色土、Ⅲ層は明黄褐色土で、遺構はⅢ層上面で検出した。以下、Ⅳ層はにぶい黄橙色土、Ⅴ～Ⅷ層は明黄褐色を呈する締まりの強い土層である。Ⅸ層は褐灰色土、Ⅹ層はにぶい褐色土、Ⅺ層は橙色土である。



深掘土層序 (Bトレンチ西壁)

Ⅰ	10YR3/3	暗褐色土	粘性やや中	締まり粗	草根入る	現表土
Ⅱ	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性やや中	締まり中	草根入る	10YR8/4浅黄橙色小～中粒5%入る
Ⅲ	10YR6/6	明黄褐色土	粘性やや中	締まり密		10YR8/4浅黄橙色小～中粒10%入る
Ⅳ	10YR6/4	にぶい黄橙色土	粘性中	締まり密		10YR8/4浅黄橙色小粒3%入る
Ⅴ	10YR6/8	明黄褐色土	粘性やや中	締まり極めて密		10YR8/4浅黄橙色小～中粒20%入る 7.5YR7/8黄橙色中粒15%入る
Ⅵ	10YR6/8	明黄褐色土	粘性中	締まり極めて密		10YR8/4浅黄橙色小～中粒2%入る
Ⅶ	10YR6/8	明黄褐色土	粘性中	締まり極めて密		10YR8/4浅黄橙色小～中粒20%入る 7.5YR7/8黄橙色中粒10%入る
Ⅷ	10YR6/8	明黄褐色土	粘性中	締まり極めて密		10YR8/4浅黄橙色小～中粒3%入る
Ⅸ	10YR6/1	褐灰色土	粘性強	締まり密		
Ⅹ	7.5YR5/4	にぶい褐色土	粘性強	締まり中		10YR6/1褐灰色ブロック5%入る
Ⅺ	7.5YR6/6	橙色土	粘性強	締まり中		10YR6/1褐灰色ブロック5%入る 10YR6/6明黄褐色ブロック10%入る

第5図 深掘土層序

V. 南戸類家Ⅱ遺跡の自然科学分析

—土坑出土炭化物、土器付着炭化物の年代測定—

株式会社加速器分析研究所

1. 測定対象試料

南戸類家Ⅱ遺跡は、太平洋に面する段丘上に立地する。測定対象試料は、調査地内から検出された土器(第29図5、写真図版A)の外面粉着炭化物、Cトレンチ内のSX25及びBトレンチ内のSX7の遺構確認面から出土した炭化物試料2点である(第A表)。

2. 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA : Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1 M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と第A表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3. 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOxⅡ)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4. 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(第A表)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age : yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第A表に、補正していない値を参考値として第B表、第C表に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい(¹⁴C

が少ないほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第A表に、補正していない値を参考値として第B表、第C表に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.3\%$)あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線及び較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20較正曲線 (Reimer et al. 2020)を用い、OxCalv4.4較正プログラム (Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第B表、第C表に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」又は、「cal BP」という単位で表される。

5. 測定結果

測定番号	試料名	採取場所	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
					Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-210794	縄文土器外面付着炭化物 (第29図5、写真図版A)	調査地内	AaA	-25.98 ± 0.21	3,420 ± 30	65.33 ± 0.21
IAAA-210795	炭化物試料①	Cトレンチ SX25	AAA	-25.71 ± 0.19	3,510 ± 30	64.59 ± 0.2
IAAA-210796	炭化物試料②	Bトレンチ SX7	AAA	-24.21 ± 0.19	3,580 ± 30	64.03 ± 0.2

第A表 放射性炭素年代測定結果① ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲		2 σ 暦年代範囲	
	Age (yrBP)	pMC (%)					
IAAA-210794	3,440 ± 30	65.2 ± 0.21	3,419 ± 25	3698calBP - 3625calBP (60.8%)		3818calBP - 3798calBP (5.7%)	
				3603calBP - 3590calBP (7.5%)		3720calBP - 3575calBP (89.7%)	
IAAA-210795	3,520 ± 30	64.5 ± 0.2	3,511 ± 25	3835calBP - 3820calBP (11.3%)		3868calBP - 3860calBP (1.4%)	
				3796calBP - 3723calBP (56.9%)		3852calBP - 3696calBP (94.0%)	
IAAA-210796	3,570 ± 30	64.13 ± 0.2	3,581 ± 25	3908calBP - 3839calBP (68.3%)		3973calBP - 3942calBP (11.7%)	
						3932calBP - 3829calBP (82.2%)	
						3787calBP - 3778calBP (1.5%)	

第B表 放射性炭素年代測定結果② ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代 cal BP)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲		2 σ 暦年代範囲	
	Age (yrBP)	pMC (%)					
IAAA-210794	3,440 ± 30	65.2 ± 0.21	3,419 ± 25	1749calBC - 1676calBC (60.8%)		1869calBC - 1849calBC (5.7%)	
				1654calBC - 1641calBC (7.5%)		1771calBC - 1626calBC (89.7%)	
IAAA-210795	3,520 ± 30	64.5 ± 0.2	3,511 ± 25	1886calBC - 1871calBC (11.3%)		1919calBC - 1911calBC (1.4%)	
				1847calBC - 1774calBC (56.9%)		1903calBC - 1747calBC (94.0%)	
IAAA-210796	3,570 ± 30	64.13 ± 0.2	3,581 ± 25	1959calBC - 1890calBC (68.3%)		2024calBC - 1993calBC (11.7%)	
						1983calBC - 1880calBC (82.2%)	
						1838calBC - 1829calBC (1.5%)	

第C表 放射性炭素年代測定結果③ ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代 cal BC/AD)

<文献>

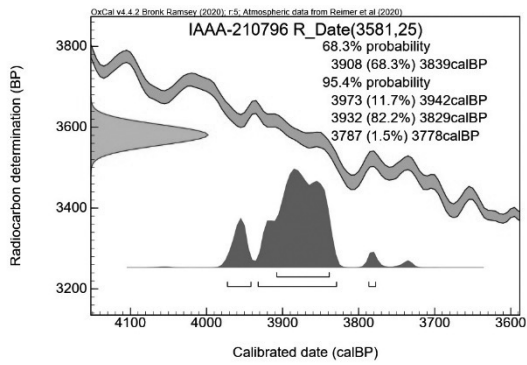
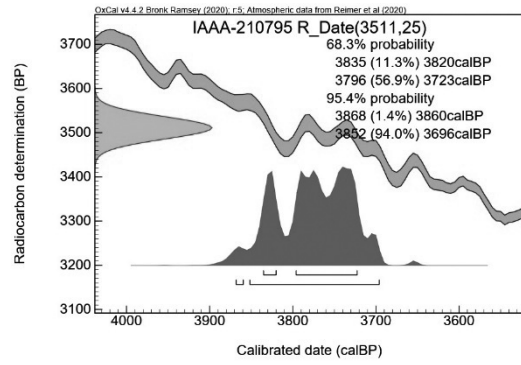
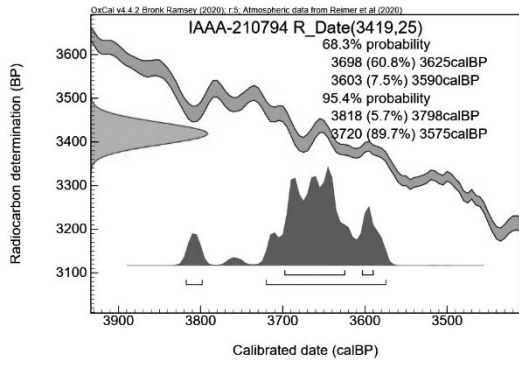
Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP), Radiocarbon 62(4), 725-757

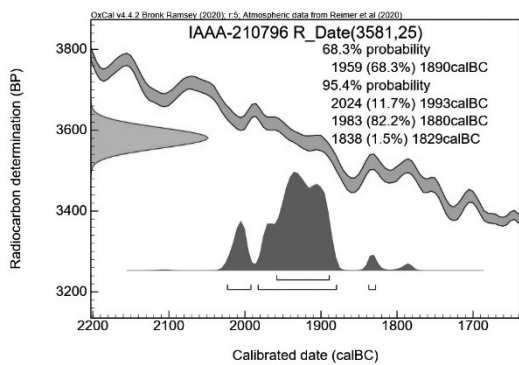
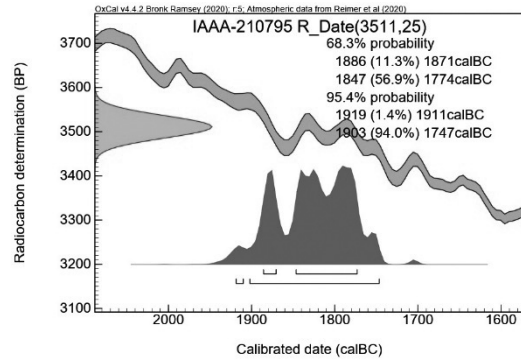
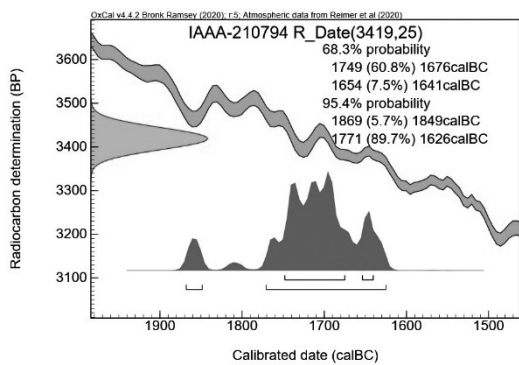
Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363



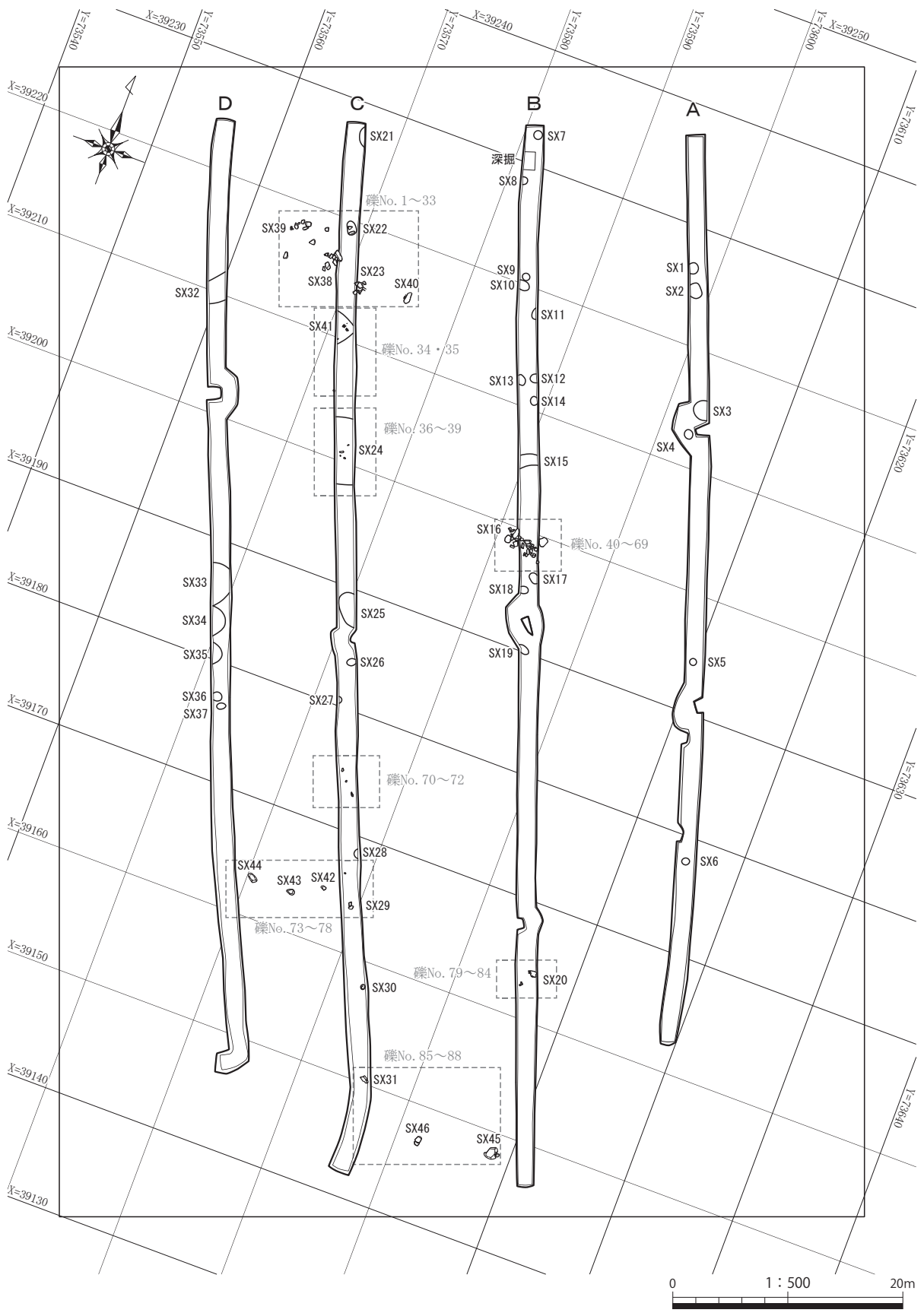
写真図版A 分析対象土器



第A図 暦年較正年代グラフ (cal BP、参考)



第B図 暦年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)



第6図 遺構配置図

VI. 試掘調査の成果

1. 検出された遺構

A～Dの4本のトレンチを掘削し、検出された遺構について各トレンチごとに記載した。

(1) A トレンチ (第7図、写真図版9)

調査地東側に、1.5m×80mのトレンチを設定して掘削を行った。遺構確認面までの深さは22cm～49cmである。トレンチ内からは遺構プランが6基(SX1～6)検出された。

遺構プランの規模は、大きいもので長軸178cm×短軸147cm以上(SX3)、小さいもので長軸61cm×短軸60cm(SX5)を測る。平面形状は円形ないし楕円形を呈する。

またトレンチの南側で長辺80cmほどの大型の礫が検出された。石質は花崗閃緑岩で、被熱や加工の痕跡はない。重機掘削時に原位置から大きく動いたため、図化及び遺構番号の付与はしていない。

(2) B トレンチ (第8図、写真図版10・11)

調査地中央東側に、1.5m×92mのトレンチを設定して掘削を行った。遺構確認面までの深さは7cm～40cmである。トレンチ内からは遺構プランが12基(SX7～15・17～19)、礫群が2基(SX16・20)検出された。

遺構プランの規模は、大きいもので長軸93cm以上×短軸81cm(SX10)、小さいもので長軸66cm×短軸62cm(SX9)を測る。平面形状は概ね円形ないし楕円形を呈する。SX15は、長軸159cm以上×短軸113cmの溝状を呈し、両端はトレンチ外へ延びる。SX12は焼土を多量に含む。

礫群SX16は、長軸363cm×短軸235cmの範囲に30点の礫が集中する。礫集中範囲はトレンチ外にさらに続く可能性がある。礫は大型のもので長辺88cmを測る。石質は大半が花崗閃緑岩で、花崗閃緑斑岩を1点含む。礫8点に被熱による褐色ないしその可能性が認められ、2点に加工の痕跡が確認された。そのうち1点は欠損した石棒と考えられるもので、確認できた部分で径30cm以上を測る。また、礫群中央西寄りからは厚さ8cm、幅42cmを測る扁平な板状の礫3点がまとまって検出された(第15図50～52)。これらは同一個体とみられ、うち1点が直立する向きで地中に埋まっていることから、立石の上方が折れて横倒しになったものと考えられる。

礫群SX20は、大型の礫1点の周辺に小型の礫5点が散在する。大型の礫は長辺83cmを測る。石質はすべて花崗閃緑岩で、そのうち1点は被熱による褐色が認められた。

トレンチ内の各所で炭化物が確認された。SX7の覆土には多くの炭化物が認められたため、試料採取して放射性炭素年代測定を実施した(炭化物試料②)。

(3) C トレンチ (第9～11図、写真図版12～14)

調査地中央西側に、1.5m×92mのトレンチを設定して掘削を行った。遺構確認面までの深さは12cm～28cmである。トレンチ内からは遺構プランが9基(SX21・22・24～28・30・41)、礫群が4基(SX23・29・31・38)検出された。

遺構プランの規模は、大きいもので長軸585cm×短軸144cm以上(SX24)、小さいもので長軸44cm×短軸29cm(SX30)を測る。平面形状は概ね円形ないし楕円形を呈するが、SX24・41は大部分がトレンチ外へ延びると考えられるため全体の形状は不明である。SX22は、大型の礫2点を含む土坑状のプランである。2点の礫は長辺56cm、39cmを測り、石質は花崗閃緑岩である。いずれも被熱による褐色が認められた。SX26～28は焼土を多量に含む。SX30・41では、ほぼ完形とみられる深鉢形土器が検出された(第11図)。今回の調査では遺構掘削調査未実施の

ため、これらの土器は現地保存とし、詳細な観察及び実測は行っていない。

礫群SX23は、長軸144cm×短軸114cmの範囲に8点の礫が集中する。礫集中範囲は、トレンチ外にさらに続く可能性がある。礫は大型のもので長辺49cmを測る。石質は花崗閃緑岩と花崗岩で、被熱及び加工の痕跡はない。礫群SX29は、2点の礫からなり、いずれも長辺38cmを測る。石質は花崗閃緑岩で、1点には被熱の可能性が認められた。礫SX31は、大型の礫1点で、長辺65cmを測る。石質は花崗岩で、被熱の可能性が認められた。礫群SX38は、長軸215cm×短軸144cmの範囲に10点の礫が集中する。礫は大型のもので長辺95cmを測る。石質はすべて花崗閃緑岩で、そのうち1点に被熱による褐色が認められた。

トレンチ内の各所で炭化物が確認された。SX25・41の覆土には多くの炭化物が認められたため、SX25で試料採取して放射性炭素年代測定を実施した(炭化物試料①)。

(4) Dトレンチ (第12図、写真図版14)

調査地西側に、1.5m×83mのトレンチを設定して掘削を行った。遺構確認面までの深さは26cm～35cmである。トレンチ内からは遺構プランが6基(SX32～37)検出された。

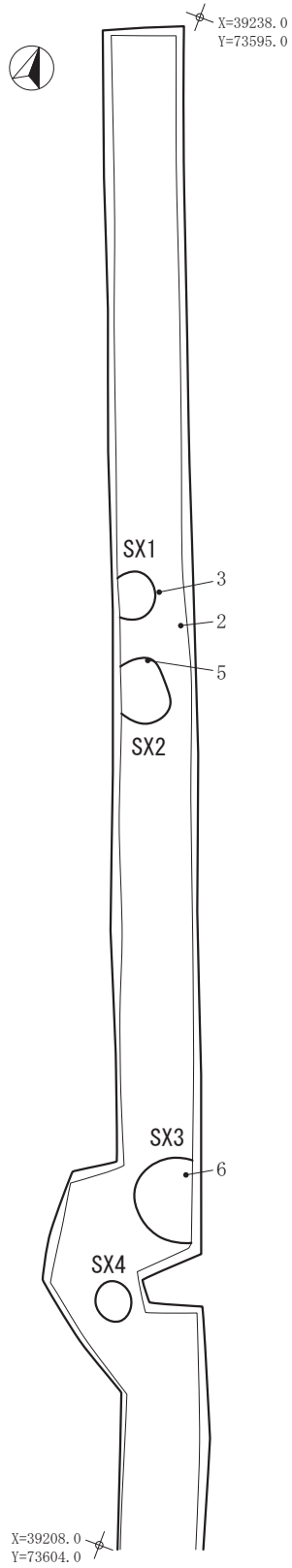
遺構プランの規模は、大きいもので長軸375cm×短軸143cm以上(SX33)、小さいもので長軸80cm×短軸54cm(SX37)を測る。平面形状は概ね円形ないし楕円形を呈するが、SX32は大部分がトレンチ外へ延びると考えられるため全体の形状は不明である。すべての遺構プランの覆土で炭化物が確認された。

(5) トレンチ外 (第8～10図、写真図版11・13・14)

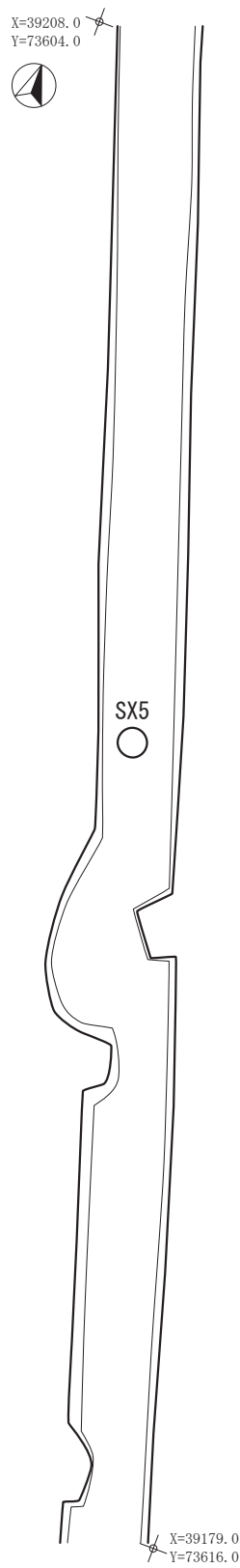
トレンチ外でも各所で地表面に露出する礫が散見されたため、調査及び記録を行った。B・Cトレンチ間で礫及び礫群が3基(SX40・45・46)、C・Dトレンチ間で礫及び礫群が4基(SX39・42～44)検出された。

礫群SX39は、長軸193cm×短軸87cmの範囲に7点の礫が集中する。礫は大型のもので長辺54cmを測る。石質は大半が花崗閃緑岩で、ホルンフェルスを含み、そのホルンフェルスは加工が認められ、石棒と考えられるもので一部欠損しているとみられ、残存部分で径14cm、長さ28cmを測る。被熱による褐色がみられる。礫群SX40は、大型の礫1点の周辺に小型の礫2点が散在する。大型の礫は、長辺105cmを測る。石質は、花崗閃緑岩2点とチャート1点で、被熱や加工の痕跡はない。礫SX42～46は、それぞれ単独の礫で長辺44～117cmを測る。石質はいずれも花崗閃緑岩で、SX44のみ被熱の可能性が認められた。また、遺構番号は付していないが、SX38・39間からも大型の礫3点が検出された。長辺34～60cmを測り、いずれも花崗閃緑岩で、被熱や加工の痕跡はない。

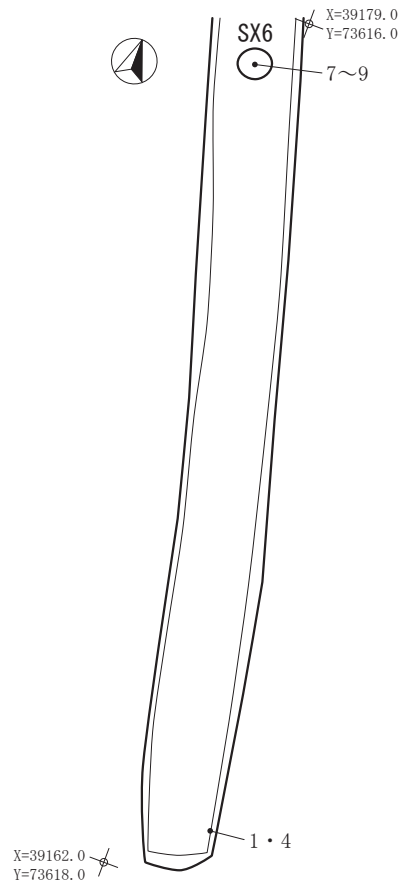
A レンチ北側



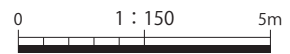
A トレンチ中央



A トレンチ南側

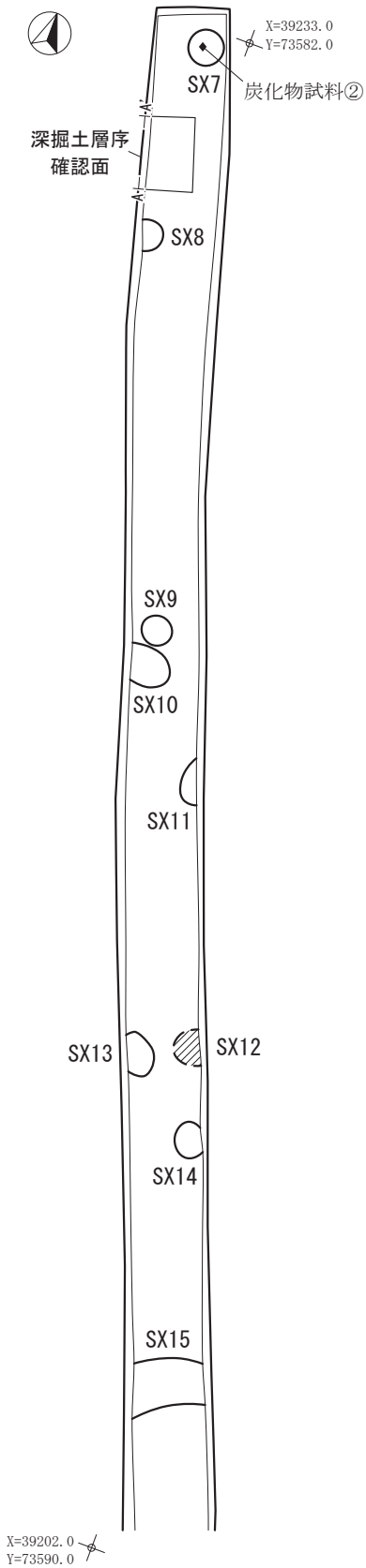


• : 第21・22図掲載遺物検出位置
(第21・22図10~37は遺構内一括、
トレンチ内一括)

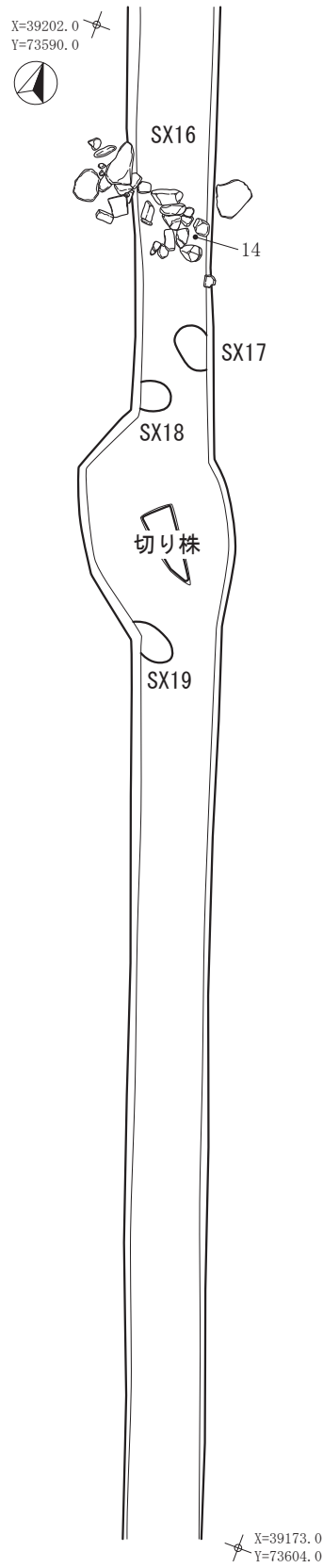


第7図 A トレンチ

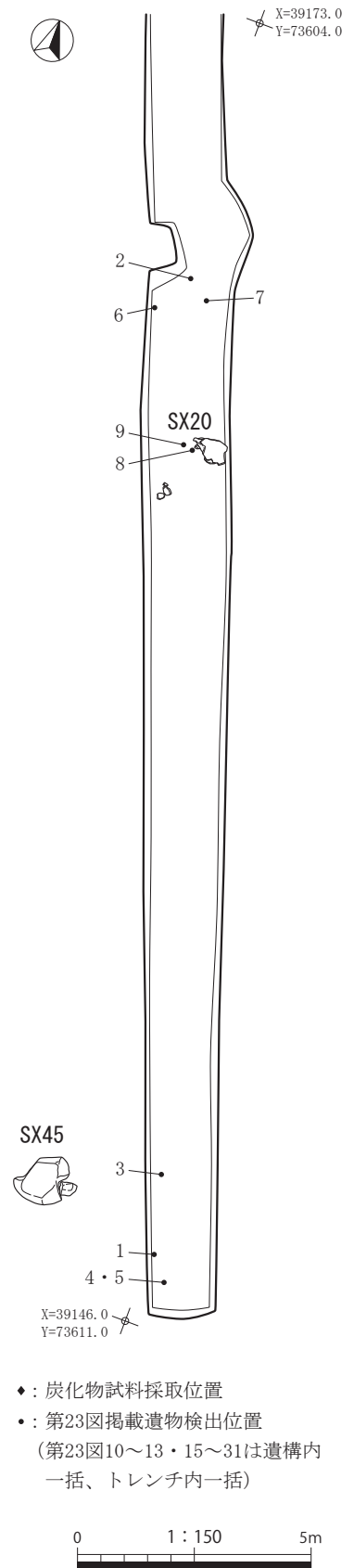
Bトレンチ北側



Bトレンチ中央



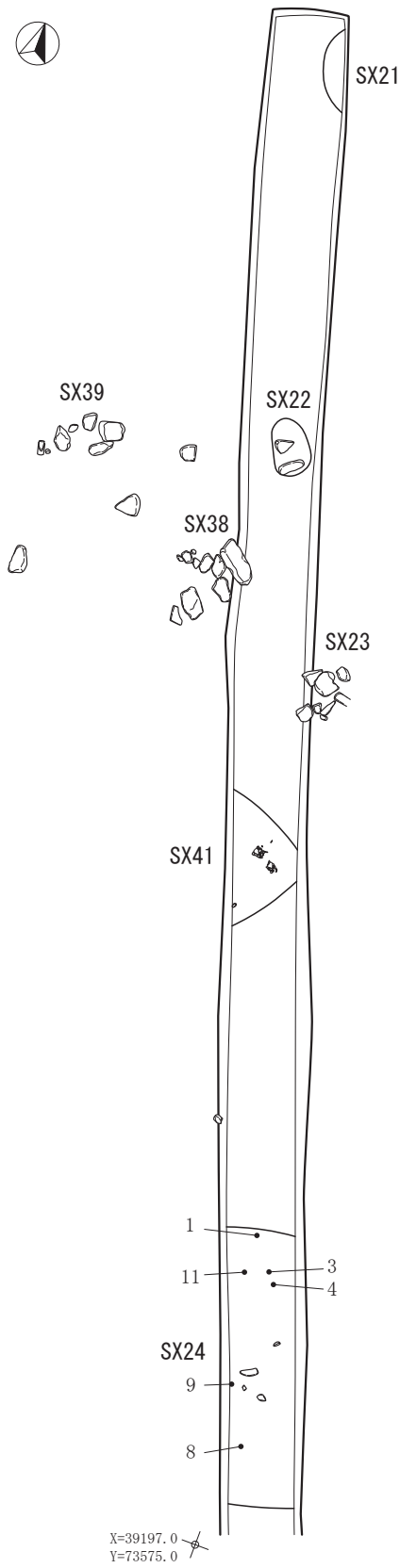
Bトレンチ南側



- ◆ : 炭化物試料採取位置
- : 第23図掲載遺物検出位置
(第23図10~13・15~31は遺構内一括、トレンチ内一括)

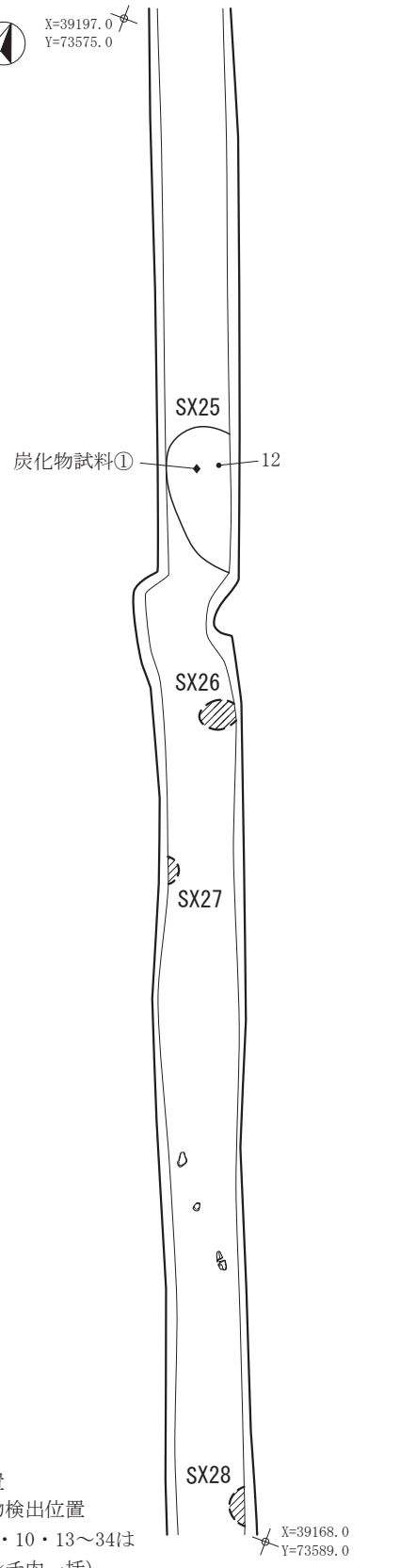
第8図 Bトレンチ

Cトレンチ北側



X=39229.0
Y=73570.0

Cトレンチ中央



X=39197.0
Y=73575.0

- ◆: 炭化物試料採取位置
- : 第24・25図掲載遺物検出位置
(第24・25図2・5~7・10・13~34は遺構内一括、トレンチ内一括)



第9図 Cトレンチ (1)

Cトレンチ南側



SX44



SX43



SX42



SX29



SX30



SX31



SX46



X=39142.0
Y=73595.0

X=39168.0
Y=73589.0



第10図 Cトレンチ (2)

SX30



Cトレンチ

X=39158.5
Y=73593.5

X=39157.0
Y=73591.0



SX30

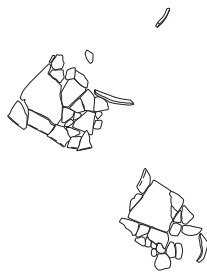
SX41



Cトレンチ

X=39213.0
Y=73572.0

SX41



X=39209.5
Y=73570.5

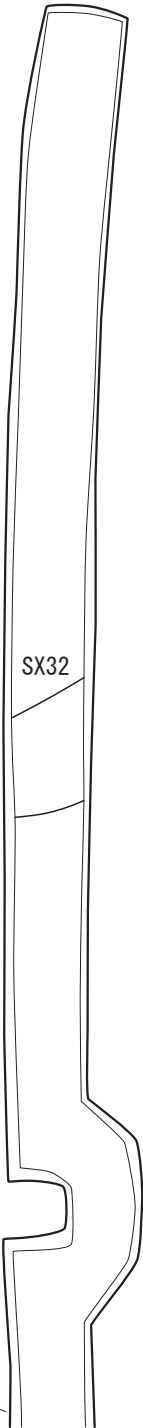
0 1 : 20 1m

第11図 Cトレンチ SX30・41 土器検出図

Dトレンチ北側



X=39223.0
Y=73558.0

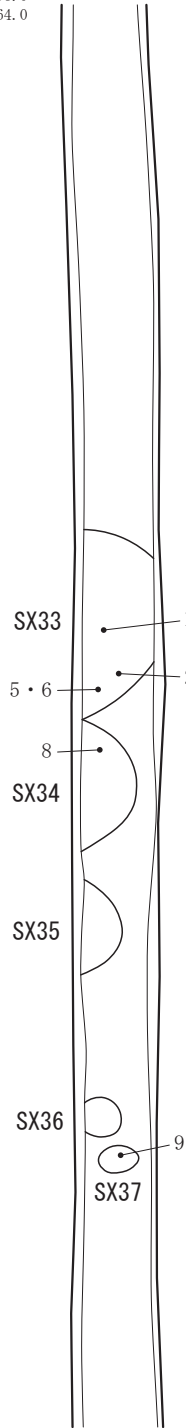


X=39196.0
Y=73564.0

Dトレンチ中央



X=39196.0
Y=73564.0

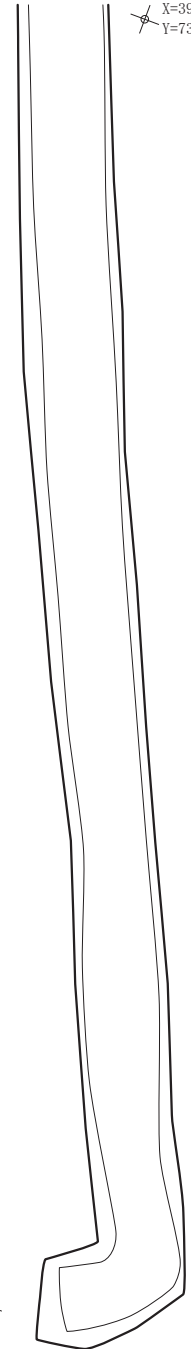


X=39170.0
Y=73577.0

Dトレンチ南側

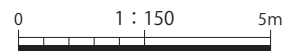


X=39170.0
Y=73577.0



X=39145.0
Y=73583.0

• : 第26・27図掲載遺物検出位置
(第26・27図3・4・7・10~25は
遺構内一括、トレンチ内一括)

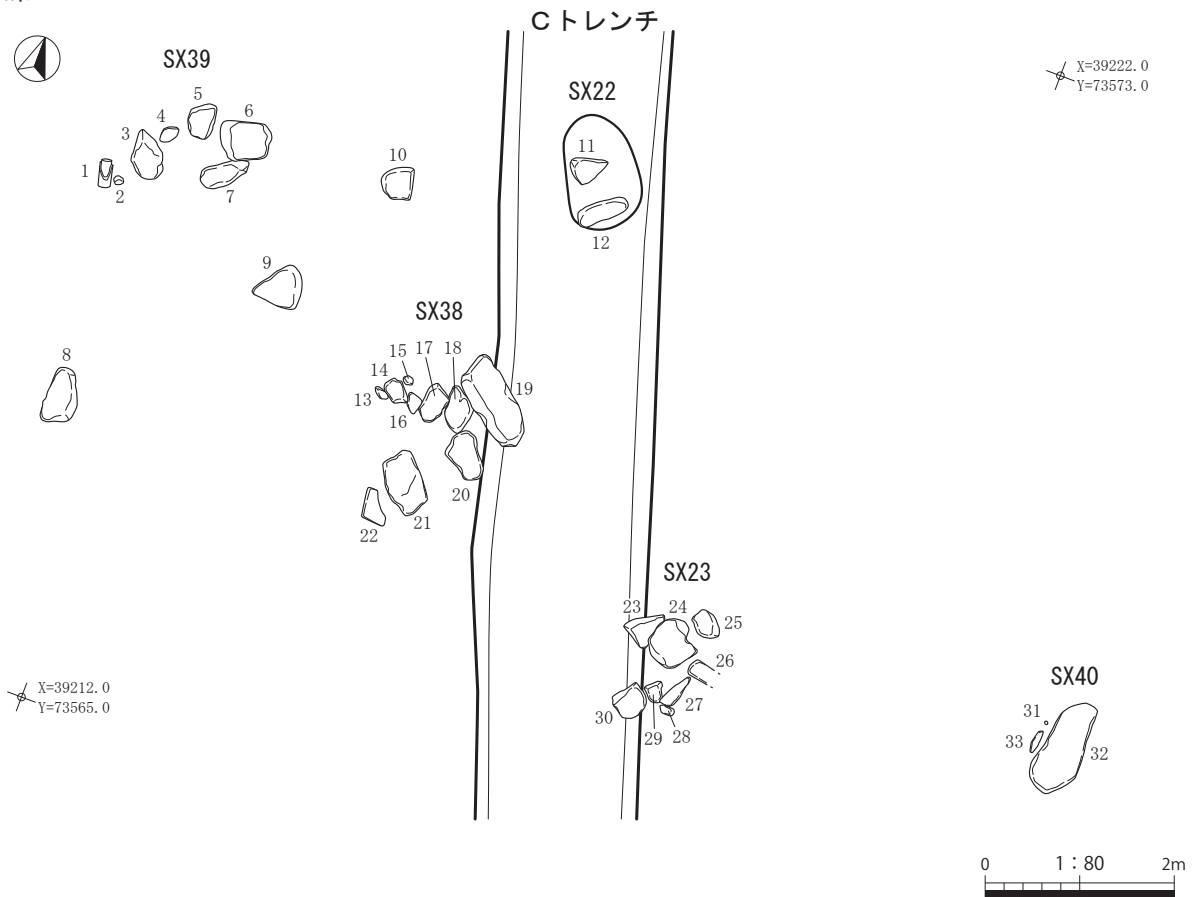


第12図 Dトレンチ

2. 礫の石質について

検出された礫群の石質については観察表に記した。花崗閃緑岩が最も多く、近辺の礫が多用されたようであるが、河口周辺から持ち込まれたとみられる礫もある。また、磨り痕跡が確認された礫、被熱の痕跡とみられる褐色部分を有する礫もある。

礫No. 1～33

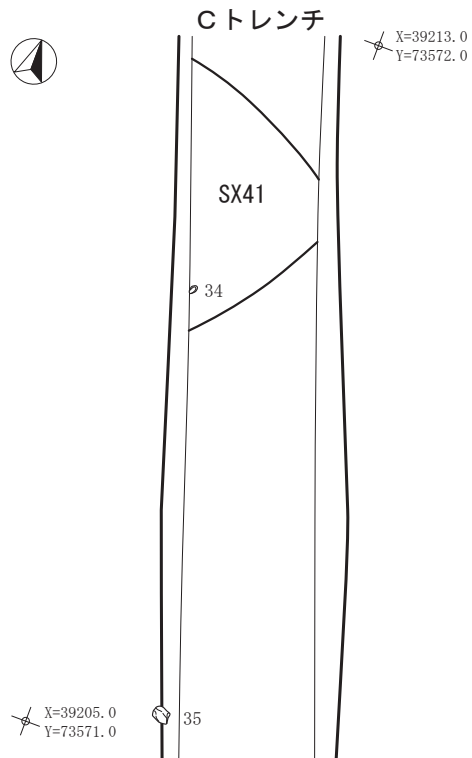


第13図 礫No. 1～33

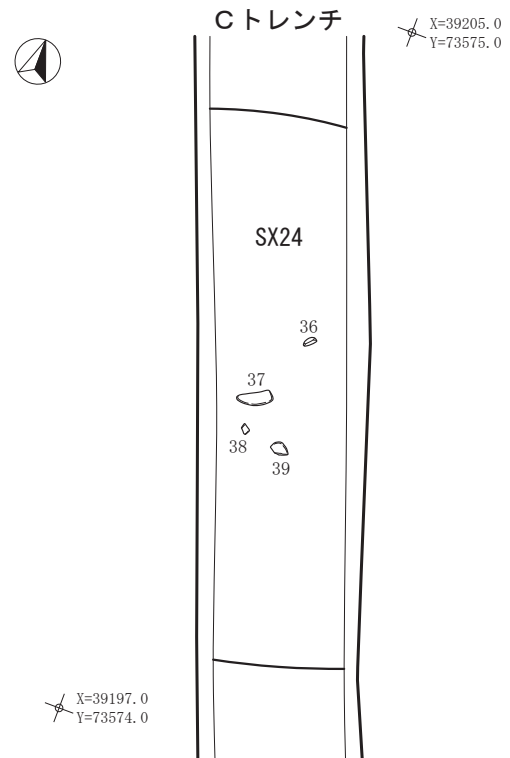
礫No.	トレンチ	遺構	石質	産地	備考
1	C・D間	SX39	ホルンフェルス	八戸～種市/ 海岸付近	石棒 被熱の痕跡あり
2	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
3	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
4	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
5	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
6	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
7	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
8	C・D間		花崗閃緑岩	北上山地	
9	C・D間		花崗閃緑岩	北上山地	
10	C・D間		花崗閃緑岩	北上山地	
11	C	SX22	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
12	C	SX22	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
13	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
14	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
15	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
16	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
17	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
18	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
19	C	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
20	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
21	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
22	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
23	C	SX23	花崗閃緑岩	北上山地	
24	B・C間	SX23	花崗閃緑岩	北上山地	
25	B・C間	SX23	花崗閃緑岩	北上山地	
26	B・C間	SX23	花崗岩	北上山地	
27	B・C間	SX23	花崗閃緑岩	北上山地	
28	B・C間	SX23	花崗閃緑岩	北上山地	
29	B・C間	SX23	花崗岩	北上山地	
30	C	SX23	花崗閃緑岩	北上山地	
31	B・C間	SX40	チャート	種市西部	
32	B・C間	SX40	花崗閃緑岩	北上山地	
33	B・C間	SX40	花崗閃緑岩	北上山地	

第2表 礫の観察表（1）

礫No. 34・35



礫No. 36~39

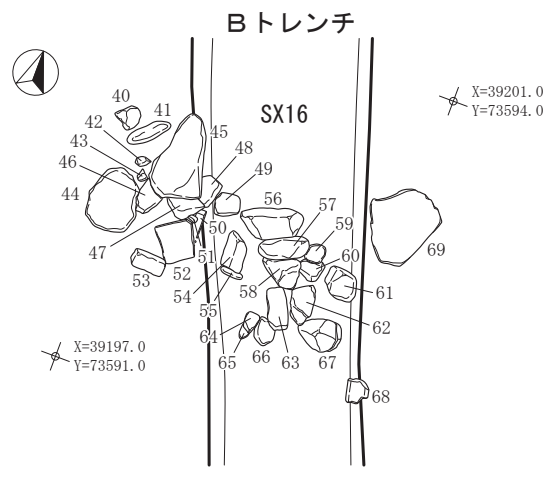


第14図 礫No. 34~39

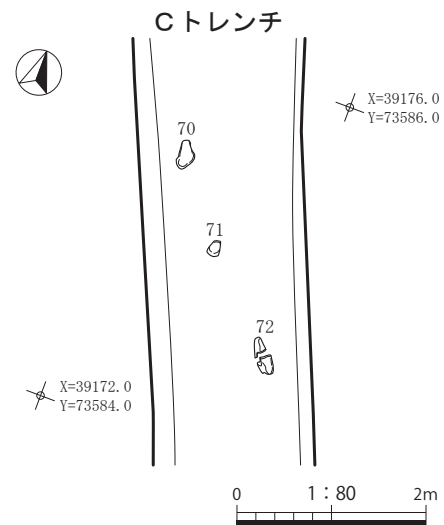
礫 No.	トレンチ	遺構	石質	産地	備考
34	C	SX41	砂岩	海岸付近	
35	C		花崗岩	北上山地	
36	C	SX24	花崗岩	北上山地	
37	C	SX24	砂岩	海岸付近	
38	C	SX24	花崗閃緑岩	北上山地	
39	C	SX24	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の可能性あり

第2表 礫の観察表(2)

礫No. 40～69



礫No. 70～72



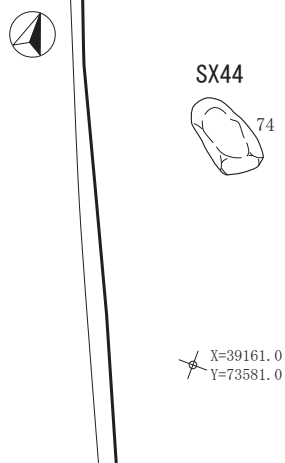
第15図 礫No. 40～72

礫No.	トレンチ	遺構	石質	産地	備考
40	B・C間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
41	B・C間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	河口周辺で採取か
42	B・C間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
43	B・C間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
44	B・C間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
45	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
46	B・C間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
47	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
48	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
49	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
50	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり 51・52と同一個体か
51	B・C間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり 52と同一個体
52	B・C間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり 51と同一個体
53	B・C間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
54	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
55	B	SX16	花崗閃緑斑岩	北上山地	磨り痕跡あり
56	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
57	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
58	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の可能性あり
59	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
60	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
61	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
62	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
63	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
64	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
65	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
66	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の可能性あり
67	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
68	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	石棒の可能性あり
69	A・B間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
70	C		花崗閃緑岩	北上山地	被熱の可能性あり
71	C		花崗閃緑岩	北上山地	
72	C		花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり

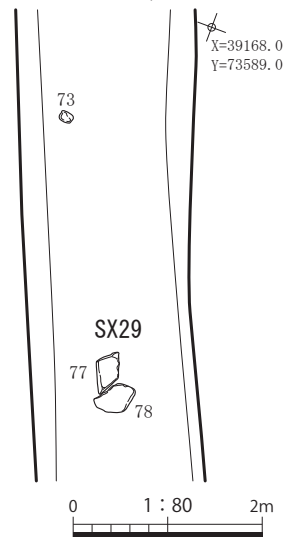
第2表 礫の観察表（3）

礫No. 73~78

Dトレンチ



Cトレンチ



第16図 礫No. 73~78

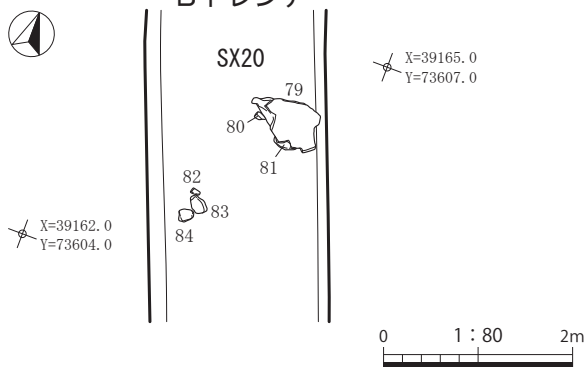
礫No.	トレンチ	遺構	石質	産地	備考
73	C		花崗閃緑岩	北上山地	
74	C・D間	SX44	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の可能性あり
75	C・D間	SX43	花崗閃緑岩	北上山地	
76	C・D間	SX42	花崗閃緑岩	北上山地	
77	C	SX29	花崗閃緑岩	北上山地	
78	C	SX29	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の可能性あり

第2表 礫の観察表(4)

礫No. 79~84



Bトレンチ



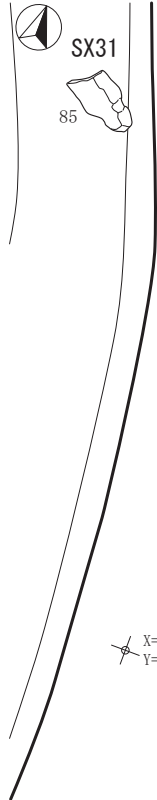
第17図 礫No. 79~84

礫No.	トレンチ	遺構	石質	産地	備考
79	B	SX20	花崗閃緑岩	北上山地	
80	B	SX20	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
81	B	SX20	花崗閃緑岩	北上山地	
82	B	SX20	花崗閃緑岩	北上山地	
83	B	SX20	花崗閃緑岩	北上山地	
84	B	SX20	花崗閃緑岩	北上山地	

第2表 礫の観察表(5)

礫No. 85～88

Cトレンチ



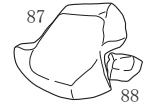
X=39154.0
Y=73606.0

SX46



X=39145.0
Y=73598.0

SX45



第18図 礫No. 85～88

礫No.	トレンチ	遺構	石質	産地	備考
85	C	SX31	花崗岩	北上山地	被熱の可能性あり
86	B・C間	SX46	花崗閃緑岩	北上山地	
87	B・C間	SX45	花崗閃緑岩	北上山地	
88	B・C間	SX45	花崗閃緑岩	北上山地	

第2表 礫の観察表(6)

3. ハンドボーリング調査

A～Dの4本のトレンチ調査の結果、既述のとおり礫群の存在が確認された。また、礫は地表面での確認でもさらに調査区周辺に広がることが考えられたため、礫の存在確認のためハンドボーリング棒を使用して調査を行った。調査はA～Dトレンチの間の範囲にて行い、トレンチ内で確認された礫の傾向性から直線的に数条存在することが想定されたため、その延長線上を集中的に調査した。ことにBトレンチ中央のSX16とCトレンチ北側のSX38を結ぶライン上には、多くの礫の存在が考えられた。

調査に当たっては、A・Bトレンチ間を①区域、B・Cトレンチ間を②区域、C・Dトレンチ間を③区域と区分けした。また、礫が想定された各トレンチに斜交するラインを北から④区域、⑤区域、⑥区域とした。そして、ハンドボーリング棒の刺突間隔を礫の直線的な配置が考えられた④・⑤・⑥区域は30cm間隔、その他の場所は50cm間隔として調査した。また、Cトレンチに沿った北側部分は、15cm間隔とした。

それぞれの区域でその定めた間隔ごとにハンドボーリング調査を行い、礫の感触があった場合数度の刺突を繰り返して礫の存在を確認した。また、礫の存在が確認された場合その周辺も集中的に探査した。なお、Aトレンチの東側及びDトレンチの西側は急傾斜地となっており作業の危険性があるためハンドボーリング調査の対象外とした。

A・Bトレンチ間の①区域では、北側部分の礫の存在は希薄であった。①区域と④区域が重なる部分から南側では礫の存在を比較的多く把握した。

B・Cトレンチ間の②区域では、北側部分の礫の存在は希薄であるが、④区域と交差する部分では多くの礫の存在を把握した。②区域中央部、④区域と⑤区域の間ではやや多くの礫の存在を把握した。②区域の南端部分では非常に多くの礫の存在を把握した。

C・Dトレンチ間の③区域では、④区域との交差する部分において非常に多くの礫の存在を把握した。その南の⑤区域までの間は、若干希薄にはなるものの礫の存在は認められた。③区域と⑤区域の交差する部分においては、非常に多くの礫の存在を把握した。さらに、③区域の南端部分においても多くの礫を把握した。

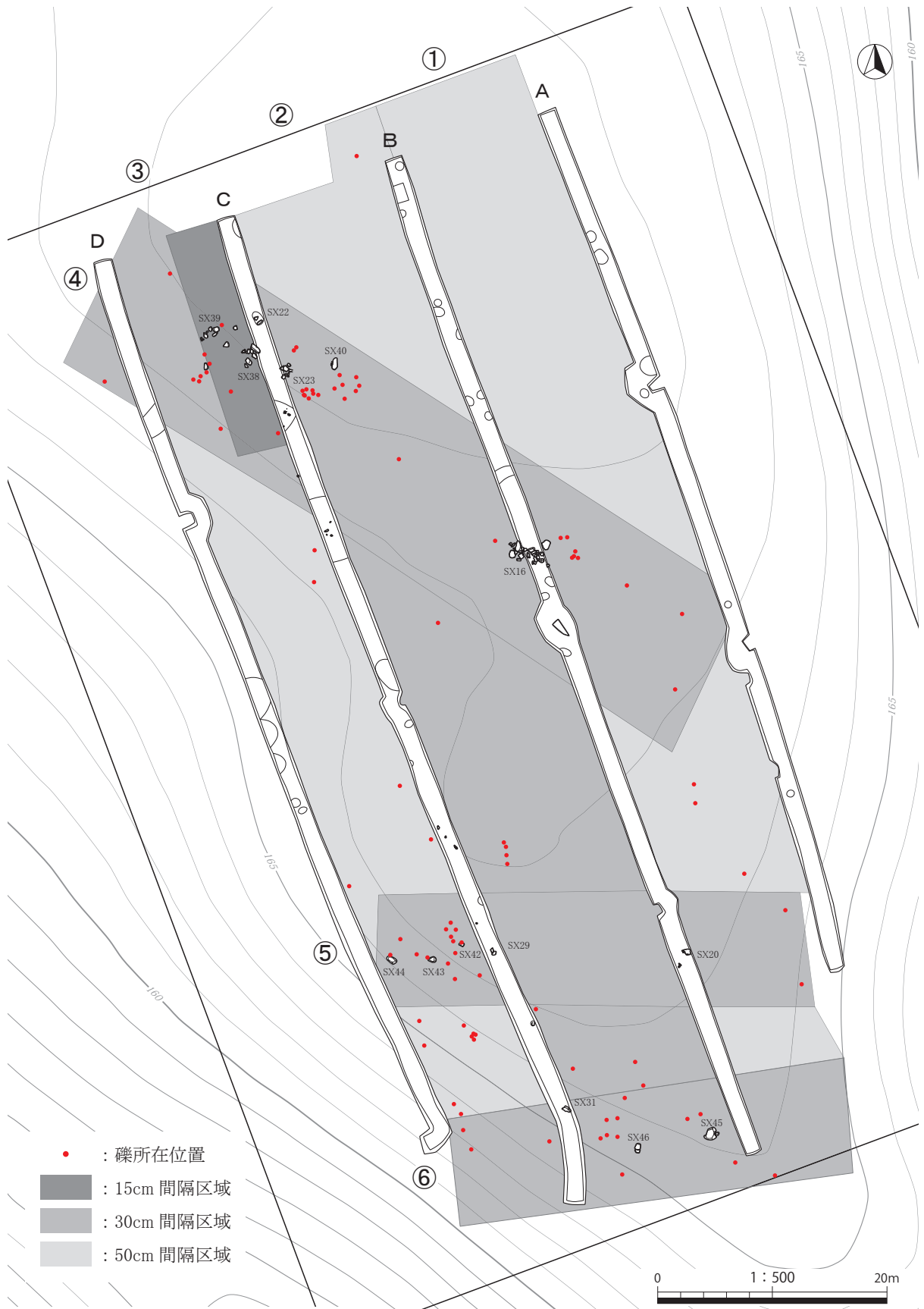
斜行する④区域では、北西部分で非常に多くの礫の存在が把握され、南東側でも多くの礫を把握した。②区域と交差する中央部分は礫の存在がやや希薄となる。

⑤区域では、北西部分で極めて多くの礫を把握した。②区域と交差する部分では、礫の存在が希薄となる。南東部分では数箇所礫の存在を把握した。

⑥区域では、①区域と交差する部分で礫の存在は把握されていないが、中央から北西側では非常に多くの礫が把握された。

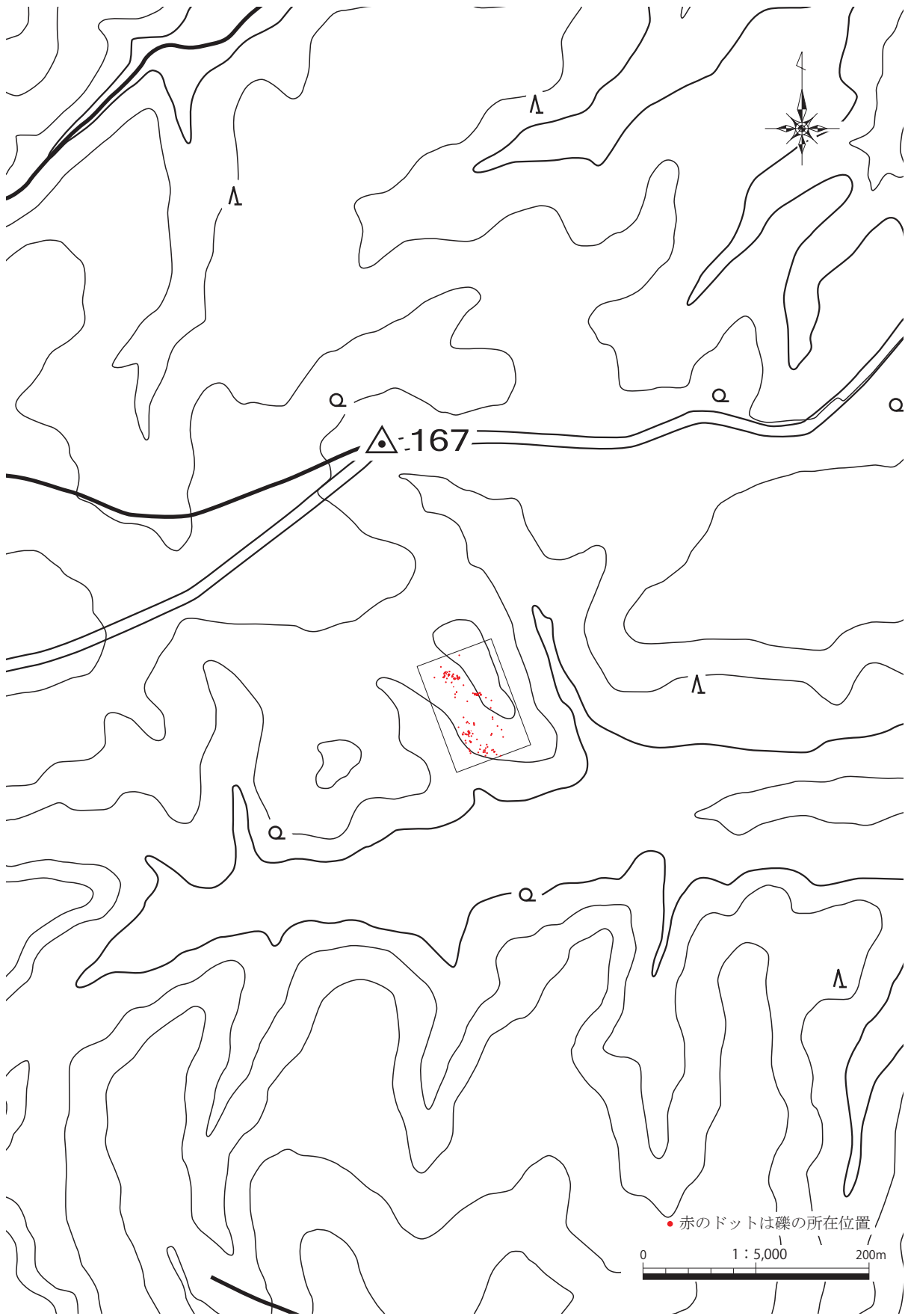
全体的な傾向としては、②区域で非常に表土が薄く、また土壌の硬化も進んだ状況であった。尾根の頂部では、土壌流出が進んでいるものと思われた。また、④区域全体、⑤区域北西側、⑥区域中央部が特に礫の存在が顕著な場所として注目される。

結果として、ハンドボーリング調査では地表面に露頭しているものを除き合計83箇所から礫と考えられるものの感触を得、その分布にも一定の傾向があることが想定された。



※等高線は国土地理院基盤地図情報をもとに作成

第19図 ハンドボーリング調査成果図



第 20 図 地中及び地表の礫の位置

4. 検出された遺物

(1) 土器、土製品

検出された土器、土製品の総数は2,784点である。試掘調査であり、遺構の掘削を伴わないため、遺物は表土若しくは遺構確認面から検出された。調査区西側での検出量が多い。

①Aトレンチ (第21・22図、写真図版15・16)

トレンチ内からは縄文土器558点、土製品3点が検出された。第21図1～4は遺構確認面で検出された。1は2本の沈線による三角形の区画文である。4は深鉢形土器の胴下半部である。6はSX3から検出された磨消縄文である。7～9はSX6から検出された。8は沈線と撚紐の押捺によって格子目状の文様が施文される。10は波状口縁を呈する。口縁に並行する隆線が波頂部で円形をなす。11～13は2ないし3本を単位とする渦状、弧状の沈線文である。14・15は細い沈線による文様である。18は浮線的な帯縄文である。第22図23・24は波状入組み文である。25は撚紐の押捺による区画をもつ半粗製の深鉢形土器である。26は撚紐を2条横位に押捺する。27は羽状縄文である。28・29は撚糸文、横位の沈線が施文される。31～34は網目状撚糸文である。36は内面文様が施文される。沈線は曲線を主体とし、円形刺突文が沿う。異形の鉢形土器と考えられる。37は円盤状土製品である。

②Bトレンチ (第23図、写真図版16)

トレンチ内からは縄文土器244点、土製品2点が検出された。第23図1～9は遺構確認面で検出された。1は外反する口縁部の内外面に、縦位に沈線が施文される。さらに外面では縦位に、内面では口縁に並行する沈線に沿う円形刺突文が施文される。円形刺突文は、口唇部にも加えられる。5は地文縄文に3本一単位の沈線によって入組文が施文される。8は輪積み痕の残る深鉢形土器である。10～16はSX16から検出された。10は格子目状沈線文、13は櫛歯状沈線文である。17には縦位の隆線が貼付される。18～21は帯縄文である。22・23は撚紐の押捺によって口縁部に無文帯をもつ。胴部には、22はLR縄文が、23は網目状撚糸が施文される。24～26は網目状撚糸文、27～29は縄文が施文される深鉢形土器である。31は鐸形土製品である。鈕部分は欠損する。

③Cトレンチ (第24・25図、写真図版17)

トレンチ内からは縄文土器568点、土製品2点が検出された。第24図1～11はSX24から検出された。1は3本一単位の沈線で文様が施文される。2～7は帯縄文である。8～11は撚糸文、網目状撚糸文、縄文が施文される深鉢形土器である。12・13はSX25から検出された。13には横位の隆線が貼付される。14～17は2ないし3本を単位とする沈線で文様が施文される。18は逆S字状の沈線文である。20～22は、地文縄文に沈線による文様が施文される。20は沈線による区画の内側に渦巻き状の文様を縦位に配している。25・26は撚紐が押捺される。第25図27は口縁部の内外面に縦位に撚紐が押捺される。28は撚紐を押捺する。29は網目状撚糸文、30は撚糸文である。31は折り返し口縁をもつ深鉢形土器であり、口縁部と胴部で羽状に縄文が施文される。32は底部に木葉痕が残る。33は円盤状土製品である。34は不明土製品である。早期の深鉢形土器の尖底部の可能性もある。

④Dトレンチ (第26・27図、写真図版18)

トレンチ内からは縄文土器864点、土製品3点が検出された。第26図1～7はSX33から検出された。4～7は粗製深鉢形土器である。8はSX34から検出された網目状撚糸文である。9はSX37から検出された。2本の沈線間がやや浮線化している。13は格子目状沈線文である。14は口縁部に緩やかな波状の突起をもつ。第27図15は波頂部に縦長の瘤を貼付し、撚紐を押捺する。16は折り返し状の口縁に羽状の縄文が、口縁内面にも縄文が施文される。17は撚糸文、18・19は縄文が施文される深鉢形土器である。20・21は撚紐の押捺によって口縁部に無文帯をもつ。24・25は網目状撚糸文である。

⑤トレンチ外（第28図、写真図版19）

トレンチ外からは縄文土器7点が検出された。第28図1・2はSX39から検出された。1は帯縄文が波状に施文される。2は網目状撚糸文である。

⑥調査地内（第29図、写真図版19）

調査地内からは縄文土器517点、土製品16点が採集された。第29図1～5は帯縄文である。3はクランク状の帯縄文である。6～9は無文地に沈線で文様が施文される。9は平行沈線に蛇行沈線が垂下する。13は折り返し口縁である。14～16は土製品である。14・15はミニチュアの壺形土器である。16はキノコ形土製品又はスタンプ形土製品と考えられ、軸（柄）の部分が欠損している。傘部分は比較的平らな形状であり、上面には円形刺突文を五角形に配し、中心の円形刺突文とそれぞれを結ぶように沈線が施文されている。

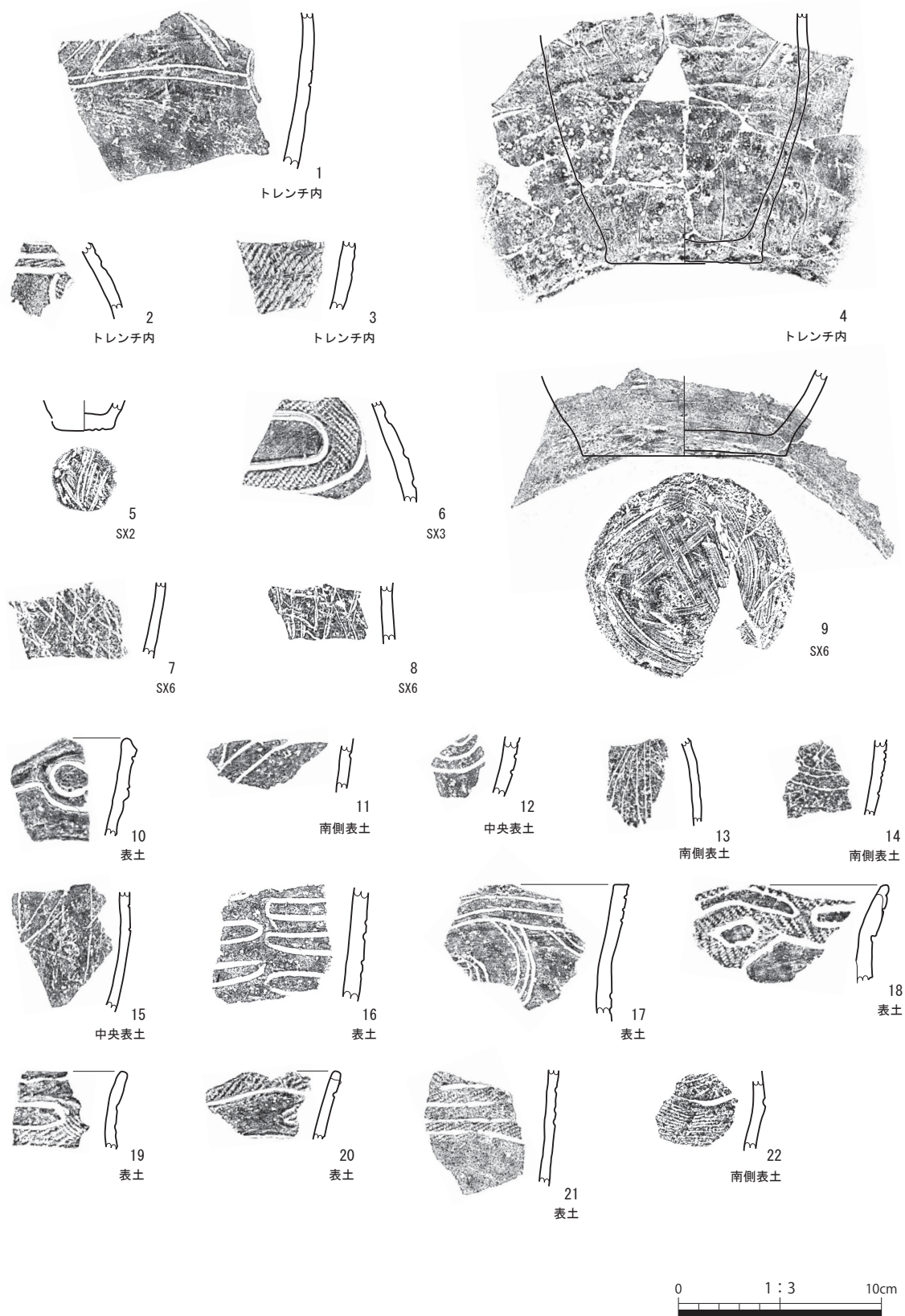
以上、今回の試掘調査で検出、採集された縄文土器は後期前葉から中葉に位置づけられるものが多い。

(2) 石器、石製品（写真図版20～22）

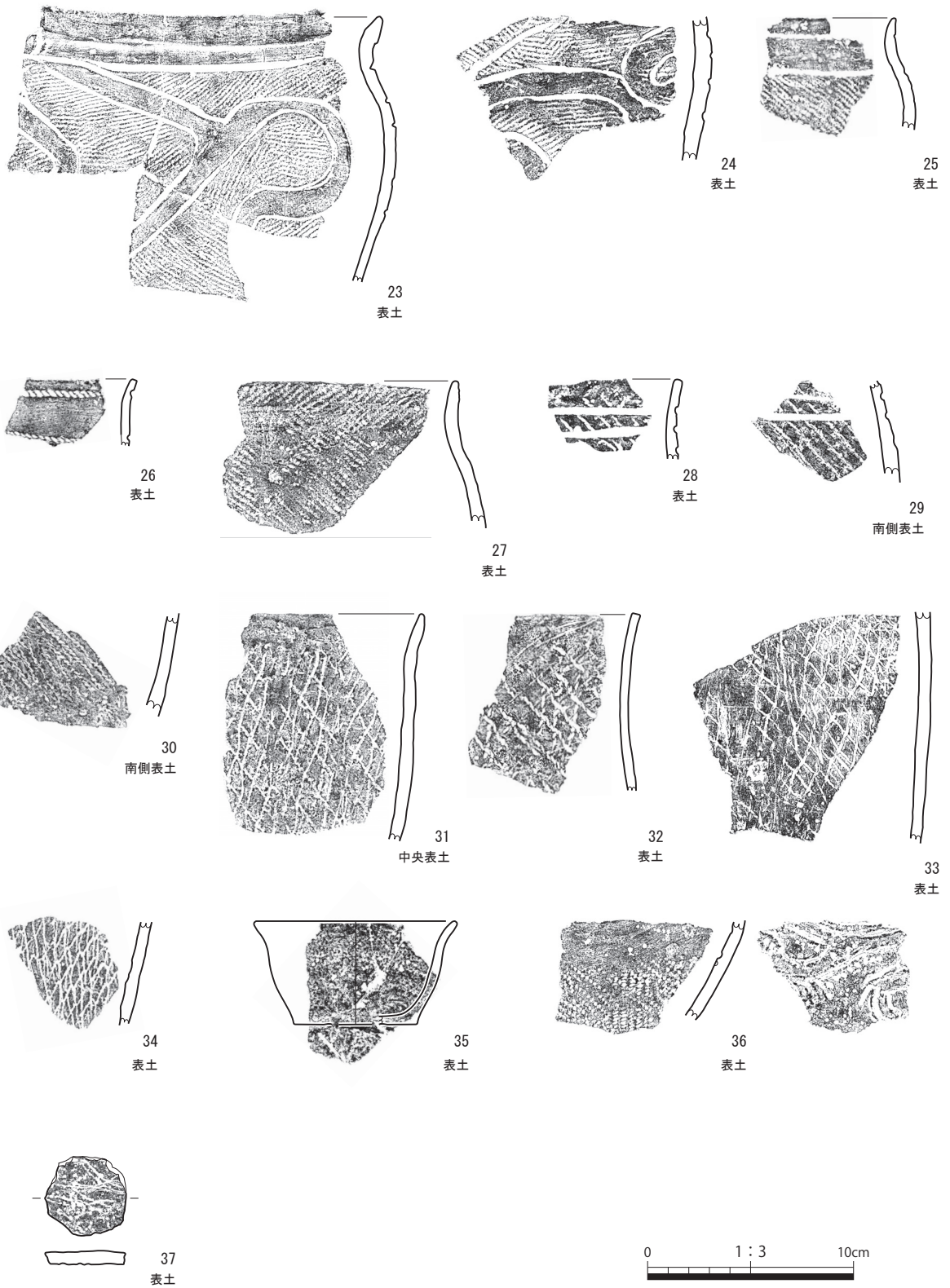
検出、採集された石器、石製品の総数は147点である。Aトレンチからは打製石斧4点、磨製石斧11点、敲石9点、磨石5点、石皿1点、礫器2点、模形石器1点、石核1点、石刀1点が検出された。Bトレンチからは打製石斧1点、磨製石斧4点、敲石3点、磨石2点、礫器1点が検出された。Cトレンチからは打製石斧2点、磨製石斧7点、敲石7点、磨石5点、模形石器4点、石核2点が検出された。Dトレンチからは打製石斧6点、磨製石斧13点、敲石19点、磨石3点、台石1点、礫器1点、楔形石器1点、石核4点、石刀1点が検出された。

トレンチ外のSX39からは磨製石斧1点が検出された。また、調査地内からは打製石斧5点、磨製石斧3点、磨石1点、楔形石器1点、石鏃の未製品1点が検出された。そのほか加工痕を有する礫1点が表面採集された。

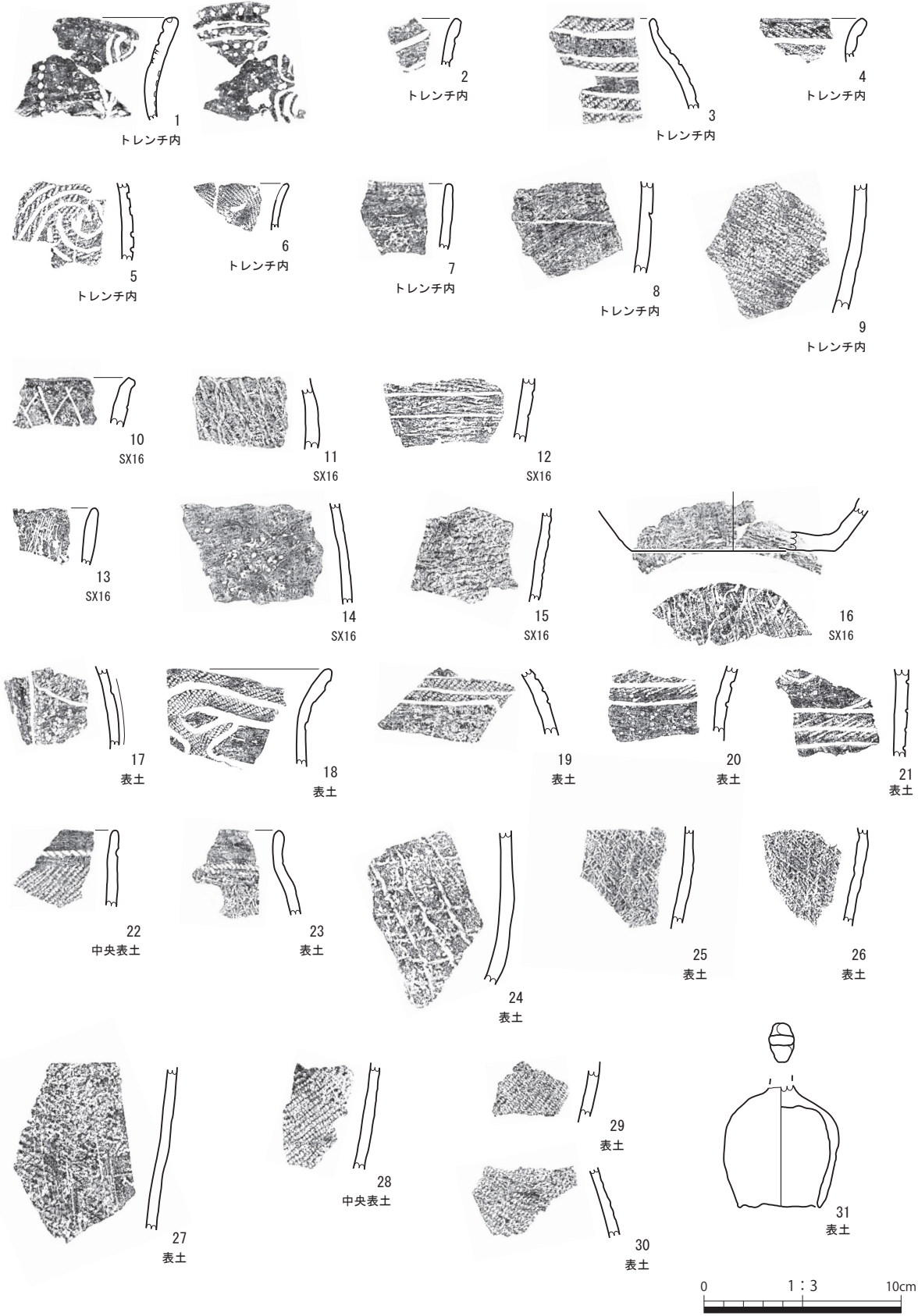
器種毎の点数は打製石斧18点、磨製石斧43点、敲石46点、磨石16点、礫器4点、石皿と台石が各1点と礫石器が多い。また剥片石器は、楔形石器7点、石鏃の未製品1点、石核7点と少ない。



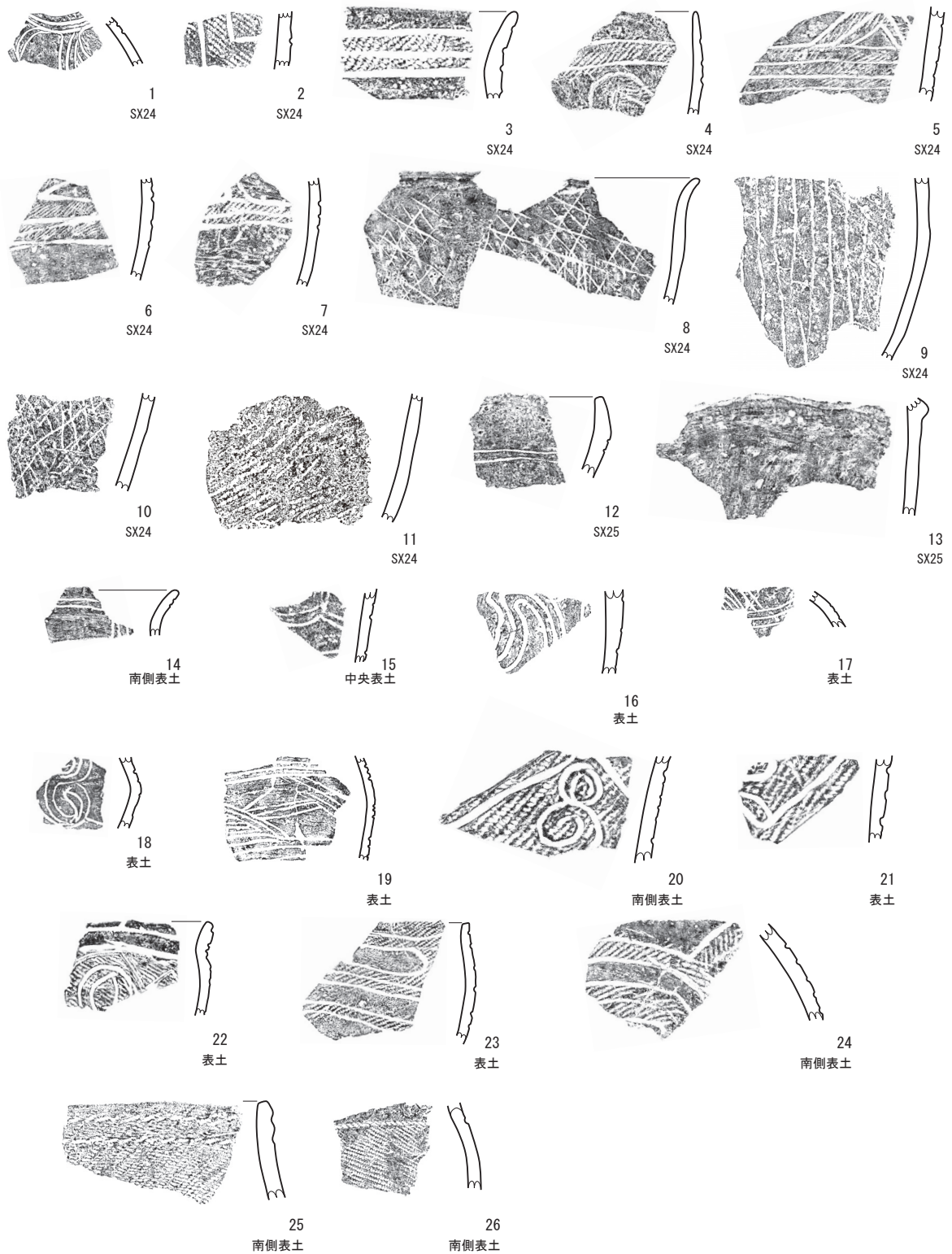
第21図 Aトレンチ 検出土器



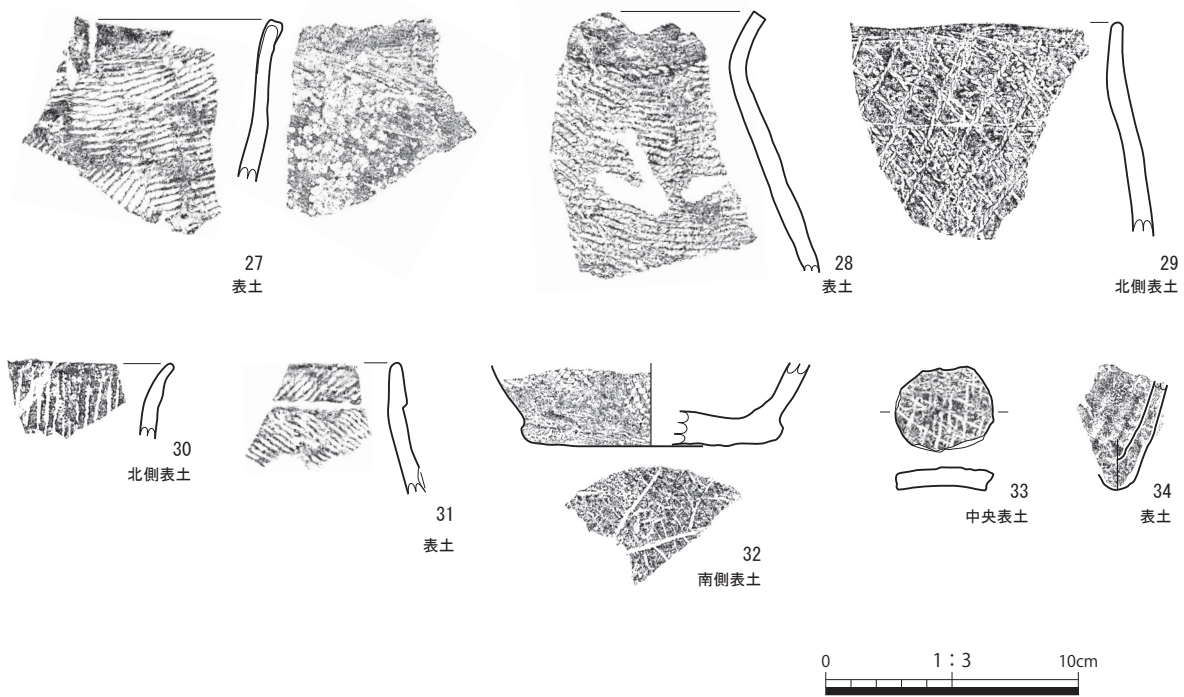
第22図 Aトレンチ 検出土器・土製品



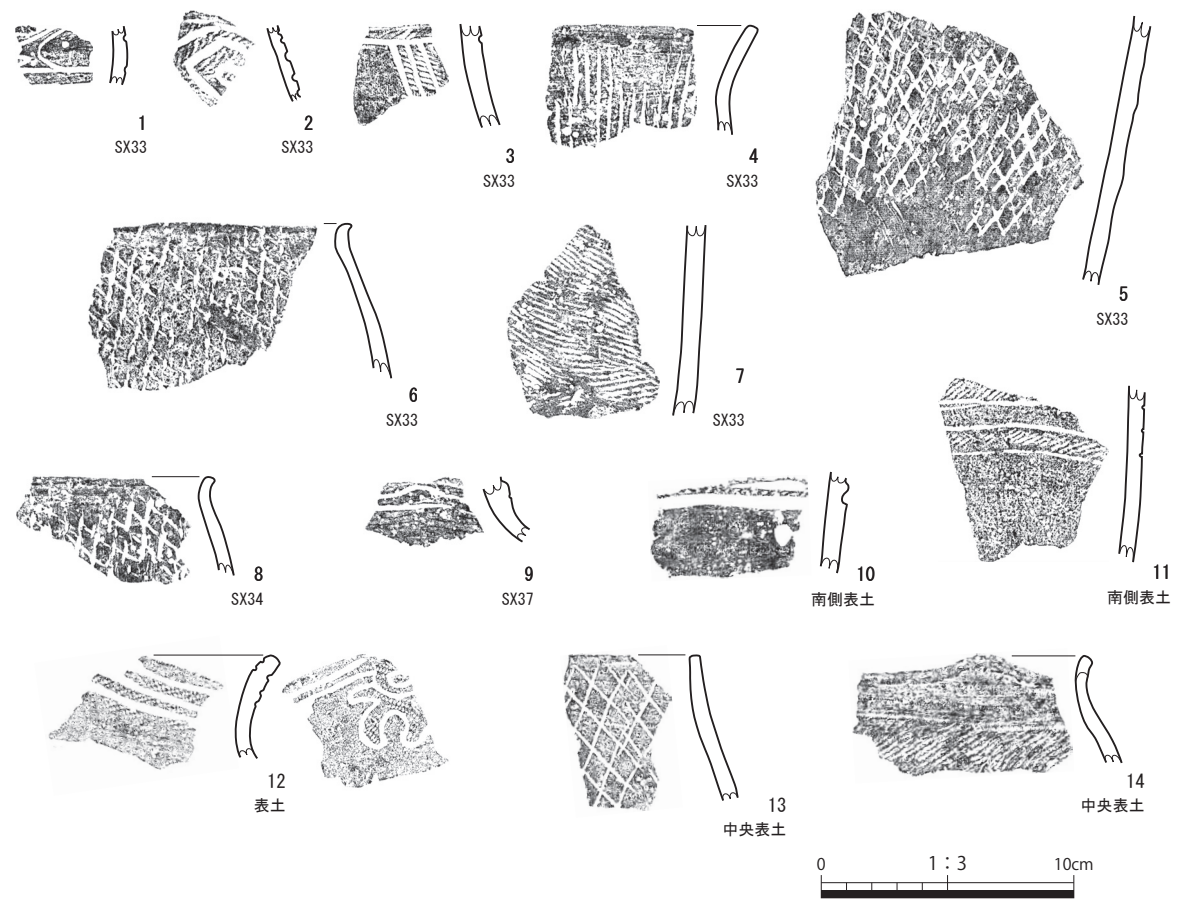
第23図 Bトレンチ 検出土器・土製品



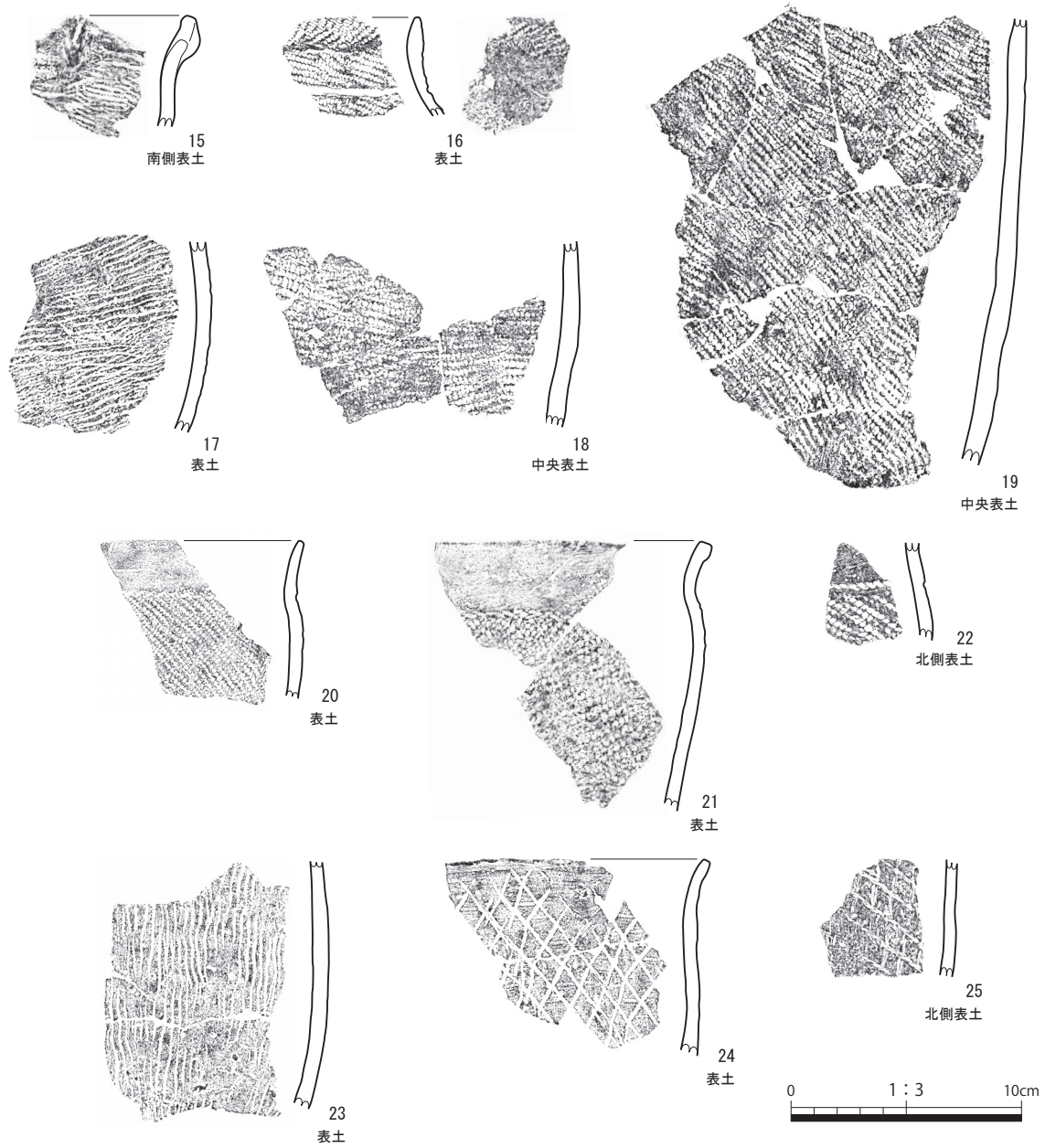
第24図 Cトレンチ 検出土器



第25図 Cトレンチ 検出土器・土製品



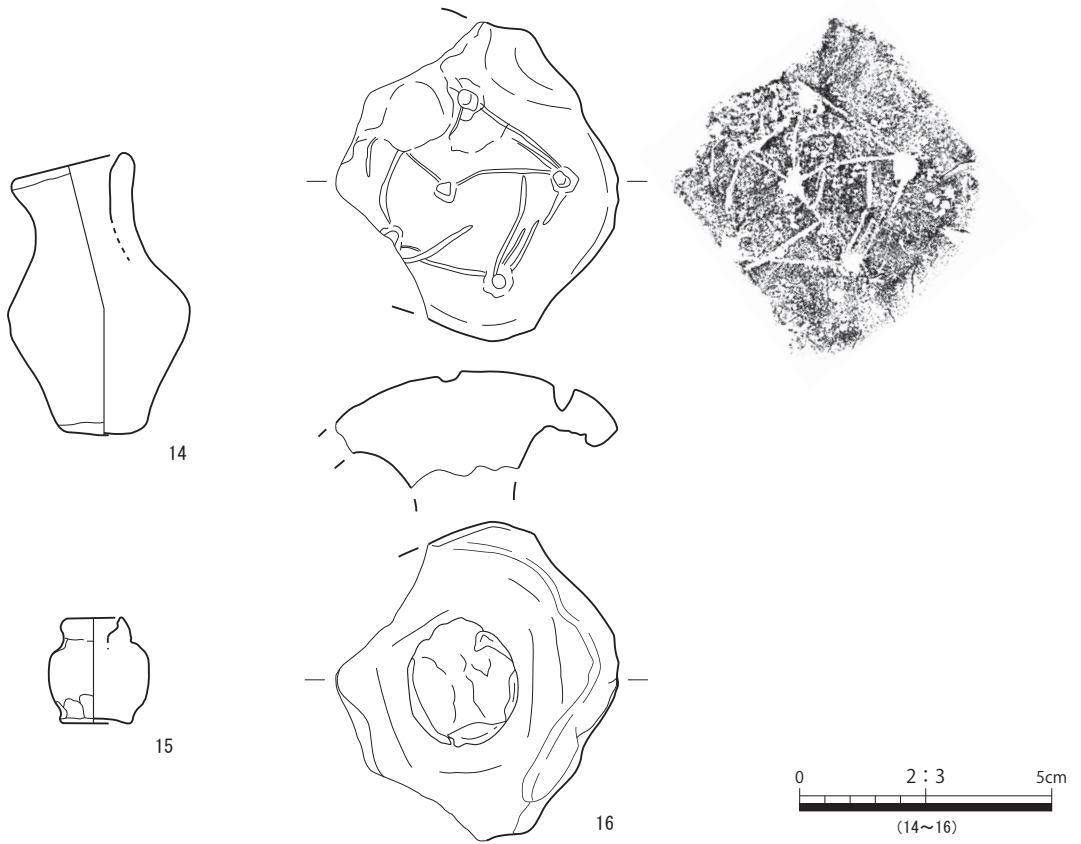
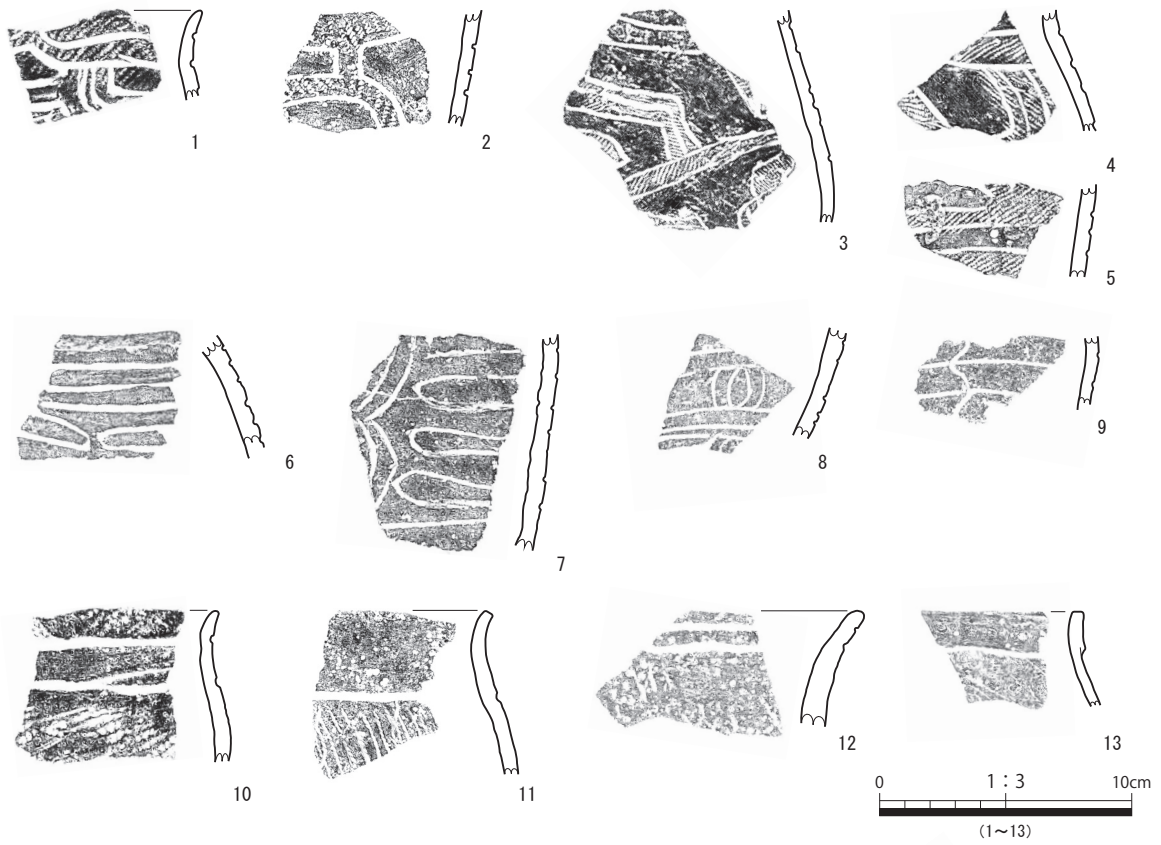
第26図 Dトレンチ 検出土器 (1)



第27図 Dトレンチ 検出土器 (2)



第28図 トレンチ外 検出土器



第29図 調査地内 検出土器・土製品

番号	検出位置	器種 部位	文様等	胎土	遺存 状況	器厚 (mm)	色調		備考
							外面	内面	
A トレンチ (第 21・22 図、写真図版 15・16 上)									
1	トレンチ内	深鉢 胴部	2本の沈線による三角形の区画文 横位の 沈線を切る弧線	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	
2	トレンチ内	壺 胴部	3本の横位の沈線、縦位の2本の弧線 沈線 間にはRL? 縄文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	
3	トレンチ内	深鉢 胴部	L無節横位	堅緻 砂粒含む	良好	7.0	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	
4	トレンチ内	深鉢 胴部～底部		緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	11.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	内外面炭化物付着 輪積み痕
5	SX2	深鉢か 底部		緻密 砂粒含む	良好	8.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	底面に整形痕
6	SX3	壺 胴部	LR 横位・縦位、沈線、磨消	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	8.0	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR2/1 黒色	
7	SX6	深鉢 胴部	網目状燃糸文	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	5.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	外面炭化物付着 内面一部剥離
8	SX6	深鉢 胴部	沈線 燃紐の押捺	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR4/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	
9	SX6	深鉢か 底部		緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	9.5	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR6/2 灰黄褐色	底面に整形痕
10	表土	深鉢 口縁部	緩やかな波状 口縁に沿った隆線が波頂部下 で円形を呈する 隆線に沿う沈線	堅緻 砂粒含む	良好	5.5	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	
11	南側表土	深鉢か 胴部	横位に2本の弧状の沈線、縦位の1本の弧線	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/2 灰黄褐色	10YR3/1 黒褐色	
12	中央表土	深鉢か 胴部	3本の弧状の沈線	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.5	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
13	南側表土	深鉢か 胴部	3本の縦位の沈線の左右に3本一単位の沈線 による弧線文	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	4.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
14	南側表土	深鉢か 胴部	2本の沈線	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	5YR5/6 明赤褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	
15	中央表土	深鉢か 胴部	2本の沈線	堅緻 砂粒含む	良好	5.0	7.5YR6/6 橙色	10YR7/4 にぶい黄褐色	内面一部剥離
16	表土	深鉢 胴部	互い違いの窓枠状の区画文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	8.5	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/8 明黄褐色	
17	表土	深鉢 口縁部	緩やかな波状 3本一単位の口縁に並行する 沈線と弧状の沈線	堅緻 砂粒含む	良好	8.0	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	
18	表土	深鉢 口縁部	緩やかな波状 沈線、RL 横位・斜位	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	9.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	
19	表土	深鉢 口縁部	沈線、LR 横位	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	
20	表土	深鉢か 口縁部	押捺により双頭状を呈する緩やかな波状 口 縁に沿った沈線、LR 横位	緻密 砂粒含む	良好	5.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
21	表土	深鉢 胴部	4本の横位の沈線、LR 横位	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	5.0	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	外面炭化物付着 内面一部剥離
22	南側表土	深鉢か 胴部	沈線 LR? 縄文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	
23	表土	深鉢 口縁部～胴部	折り返し口縁 胴部：LR 横位・縦位・斜位、 沈線、磨消	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	8.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	輪積み痕
24	表土	深鉢 胴部	LR 横位・縦位・斜位、沈線、磨消	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	9.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	輪積み痕
25	表土	深鉢 口縁部～胴部	口縁部：2条の燃紐の押捺 胴部：LR 縦位	堅緻 砂粒含む	やや 磨滅	6.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
26	表土	深鉢 口縁部	2条の燃紐の押捺	堅緻 砂粒含む	良好	4.5	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	
27	表土	深鉢 口縁部～胴部	LR 横位・縦位	緻密 砂粒含む	良好	6.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	
28	表土	深鉢 口縁部	燃糸文、3本の横位の沈線	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	外面炭化物付着
29	南側表土	深鉢 胴部	燃糸文、3本の横位の沈線	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	
30	南側表土	深鉢か 胴部	燃糸文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.5	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	輪積み痕
31	中央表土	深鉢 口縁部～胴部	網目状燃糸文	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR5/1 褐灰色	輪積み痕
32	表土	深鉢 口縁部～胴部	網目状燃糸文	堅緻 砂粒含む	良好	5.0	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	
33	表土	深鉢 胴部	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
34	表土	深鉢 胴部	網目状燃糸文	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	外面炭化物付着 内面一部剥離
35	表土	鉢 口縁部～底部	無文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	5.5	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	
36	表土	鉢 胴部	外面：RL 横位 内面：沈線に沿った円形刺突文	堅緻 砂粒含む	良好	6.0	7.5YR5/6 明褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	外面炭化物付着

第3表 土器・土製品観察表(1)

番号	検出位置	器種 部位	文様等	胎土	遺存 状況	器厚 (mm)	色調		備考
							外面	内面	
37	表土	円盤状土製品	燃糸文	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	6.5	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	
Bトレンチ (第23図、写真図版16下)									
1	トレンチ内	深鉢 口縁部	外面：縦位の円形刺突列 縦位の沈線に斜位の短い沈線 内面：口縁に沿う2本の沈線、2本の縦位の沈線 沈線に沿う円形刺突文 口唇部：円形刺突文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	7.0	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
2	トレンチ内	深鉢か 口縁部	斜位に並行する2本の沈線	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	5.5	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	
3	トレンチ内	深鉢か 口縁部	緩やかな波状 横位の沈線、LR横位	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	5.5	2.5YR6/3 にぶい橙色	2.5YR5/2 灰赤色	
4	トレンチ内	深鉢か 口縁部	LR縦位、2本の横位の沈線	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	6.0	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
5	トレンチ内	深鉢か 胴部	LR横位、3本一単位の渦巻き状の沈線	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	6.0	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/6 明褐色	
6	トレンチ内	深鉢か 口縁部	RL横位	緻密 砂粒含む	良好	3.5	10YR5/6 黄褐色	10YR5/6 黄褐色	
7	トレンチ内	深鉢 口縁部		緻密 砂礫・砂粒含む	良好	5.0	10YR4/1 褐灰色	10YR6/3 にぶい黄褐色	輪積み痕
8	トレンチ内	深鉢 胴部		堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	7.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	輪積み痕
9	トレンチ内	深鉢 胴部	LR縦位	緻密 砂粒含む	良好	7.0	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR5/4 にぶい褐色	
10	SX16	深鉢 口縁部	格子目状沈線文	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	7.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	
11	SX16	深鉢か 胴部	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	7.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	
12	SX16	深鉢か 胴部	3本の横位の沈線、LR斜位	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	6.5	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
13	SX16	深鉢か 口縁部	櫛歯状沈線文	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	6.0	7.5YR4/1 褐灰色	7.5YR6/6 橙色	
14	SX16	深鉢 胴部		緻密 砂粒含む	良好	5.0	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR5/4 にぶい褐色	
15	SX16	深鉢 胴部	RL横位・斜位	堅緻 砂粒含む	良好	5.0	7.5YR6/6 橙色	10YR3/2 黒褐色	外面炭化物付着
16	SX16	深鉢か 底部		緻密 砂礫・砂粒含む	良好	9.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐灰色	底面に整形痕
17	表土	壺 胴部	垂下する2本の沈線の間に隆線 2本の弧状の沈線	堅緻 砂粒含む	良好	5.5	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
18	表土	深鉢 口縁部	緩やかな波状 沈線、LR横位	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	6.0	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	
19	表土	深鉢 胴部	3本の横位の沈線、LR横位 下端の沈線は下方に屈折	緻密 砂粒含む	良好	6.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	
20	表土	深鉢 胴部	2本の横位の沈線、LR横位	堅緻 砂粒含む	良好	6.0	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	内外面一部剥離
21	表土	深鉢 胴部	3本の横位の沈線、LR横位 上部に斜位・弧状の沈線	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	6.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	
22	中央表土	深鉢 口縁部～胴部	口縁部：燃紐の押捺 胴部：LR横位	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	5.5	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	
23	表土	深鉢 口縁部～胴部	口縁部：燃紐の押捺 胴部：網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	6.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	外面炭化物付着
24	表土	深鉢 胴部	網目状燃糸文	緻密 砂粒含む	やや 磨滅	7.0	7.5YR6/6 橙色	10YR6/6 明黄褐色	
25	表土	深鉢 胴部	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	5.5	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	外面炭化物付着
26	表土	深鉢 胴部	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	6.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	外面炭化物付着 内面一部剥離
27	表土	深鉢 胴部	LR縦位	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	6.0	10YR5/1 褐灰色	10YR6/6 明黄褐色	輪積み痕
28	中央表土	深鉢 胴部	LR横位	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	6.0	7.5YR6/6 橙色	7.5YR4/1 褐灰色	
29	表土	深鉢 胴部	LR横位	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	5.5	7.5YR6/6 橙色	10YR6/6 明黄褐色	
30	表土	壺か 胴部	LR縦位	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	5.5	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	
31	表土	鐔形土製品	無文	堅緻 砂粒含む	良好	4.5	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	鈕部分は欠損
Cトレンチ (第24・25図、写真図版17)									
1	SX24	深鉢か 胴部	上下2段の3本一単位の横位の沈線間に弧状の沈線	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	5.0	10YR4/1 褐灰色	10YR5/3 にぶい黄褐色	
2	SX24	深鉢 胴部	LR縦位、沈線で方形区画文、磨消	緻密 砂粒含む	良好	7.0	10YR4/1 褐灰色	10YR4/2 灰黄褐色	輪積み痕

第3表 土器・土製品観察表(2)

番号	検出位置	器種・部位	文様等	胎土	遺存状況	器厚 (mm)	色調		備考
							外面	内面	
3	SX24	深鉢 口縁部	3本の横位の沈線、LR横位	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	7.5	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄褐色	輪積み痕
4	SX24	深鉢 口縁部	2本の横位・曲線的沈線、L無節?縄文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	5.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	
5	SX24	深鉢 胴部	5本の横位の沈線、3本の山状の沈線 L無節横位	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	7.0	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄褐色	外面炭化物付着
6	SX24	深鉢 胴部	4本の横位・斜位の沈線、LR横位	堅緻 砂礫・砂粒含む	やや磨減	6.0	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	
7	SX24	深鉢 胴部	3本の横位の沈線、縦位の弧状の沈線 LR横位	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	5.5	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/6 明褐色	
8	SX24	深鉢 口縁部～胴部	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	6.0	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/6 褐色	輪積み痕
9	SX24	深鉢 胴部	燃糸文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	6.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	
10	SX24	深鉢 胴部	網目状燃糸文	堅緻 砂粒含む	良好	7.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	
11	SX24	深鉢 胴部	L無節横位	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	7.0	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	
12	SX25	深鉢か 口縁部	横位に並行する2本の沈線	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	8.5	10YR6/6 明黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	
13	SX25	深鉢 胴部	横位の隆線	堅緻 砂粒含む	良好	6.5	7.5YR6/6 褐色	10YR5/6 黄褐色	
14	南側表土	壺 口縁部	口縁に並行する2本の沈線、3本の縦位の沈線	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	5.0	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	
15	中央表土	深鉢か 胴部	3本一単位の横位に連続する弧線	緻密 砂粒含む	良好	5.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
16	表土	深鉢か 胴部	3本一単位の曲線的沈線	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	10.0	10YR6/6 明黄褐色	7.5YR6/6 褐色	
17	表土	壺 胴部	3本の横位の沈線、6本の斜位の沈線	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	5.0	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	
18	表土	深鉢 胴部	逆S字状の2本の沈線	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	5.0	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	
19	表土	深鉢 胴部	3ないし4本一単位の横位の沈線間に斜位の沈線	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	4.5	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	
20	南側表土	深鉢 胴部	RL縦位、左右斜方向への2本の沈線による区画 2段の渦巻き状沈線文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	8.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	
21	表土	深鉢 胴部	RL縦位、2本の斜位の沈線と曲線的な沈線	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	7.0	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	
22	表土	深鉢か 口縁部～胴部	胴部：LR縦位、重円状の沈線	堅緻 砂粒含む	良好	7.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	
23	表土	深鉢か 口縁部	口縁部：沈線、LR横位 口唇部：撚紐の押捺	堅緻 砂粒含む	良好	5.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	
24	南側表土	壺 胴部	2本、3本一単位の弧状の沈線、L無節横位・斜位	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	8.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
25	南側表土	深鉢 口縁部	RL縦位、2条の撚紐の押捺	堅緻 砂粒含む	良好	9.0	7.5YR6/6 褐色	10YR6/6 明黄褐色	
26	南側表土	深鉢 胴部	撚紐の押捺 LR縦位	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	7.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	補修孔
27	表土	深鉢 口縁部～胴部	外面：L無節横位・斜位 口縁外端部に撚紐を縦位に1cm間隔で押捺 内面：縦位に撚紐を押捺	堅緻 砂粒含む	良好	7.5	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	外面炭化物付着 輪積み痕
28	表土	壺 口縁部～胴部	口縁部：撚紐の押捺 胴部：L無節縦位・斜位	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	8.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	外面一部剥離 輪積み痕
29	北側表土	深鉢 口縁部～胴部	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	8.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	輪積み痕
30	北側表土	深鉢 口縁部	燃糸文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	6.0	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	外面ガジリ痕
31	表土	深鉢 口縁部	口縁部：折り返し口縁 LR横位・縦位	堅緻 砂礫・砂粒含む	やや磨減	7.5	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	外面炭化物付着 外面一部剥離
32	南側表土	深鉢か 底部	LR縦位	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	14.0	7.5YR4/6 褐色	7.5YR5/8 明褐色	底面に木葉痕
33	中央表土	円盤状土製品	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	7.5	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
34	表土	不明土製品		堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	8.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	尖底部の可能性あり
Dトレンチ (第26・27図、写真図版18)									
1	SX33	深鉢か 胴部	横位・斜位・曲線的な沈線	堅緻 砂粒含む	良好	6.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	
2	SX33	深鉢か 胴部	縄文、菱状の沈線	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	5.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	

第3表 土器・土製品観察表(3)

番号	検出位置	器種 部位	文様等	胎土	遺存 状況	器厚 (mm)	色調		備考
							外面	内面	
3	SX33	深鉢か 胴部	2本の横位の沈線、4本の斜位の沈線 L無 節横位・斜位	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	
4	SX33	深鉢 口縁部	燃糸文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	5YR5/6 明赤褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
5	SX33	深鉢 胴部	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	外面炭化物付着
6	SX33	深鉢 口縁部	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	
7	SX33	深鉢 胴部	L無節縦位・斜位	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	8.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	
8	SX34	深鉢 口縁部	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	
9	SX37	深鉢か 胴部	2本の横位の沈線	堅緻 砂粒含む	良好	9.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	
10	南側表土	深鉢か 胴部	2本の横位の沈線	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.5	5YR6/8 橙色	7.5YR6/6 橙色	
11	南側表土	深鉢 胴部	2本の横位の沈線、L無節?縄文、一部磨消	堅緻 砂礫・砂 粒含む	やや 磨滅	6.5	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
12	表土	深鉢か 口縁部	緩やかな波状 外面:LR横位、3本の沈線 内面:沈線、LR縦位	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	6.5	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	
13	中央表土	深鉢 口縁部	格子目状沈線文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	7.5YR5/6 明褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	外面炭化物付着
14	中央表土	深鉢か 口縁部~胴部	緩やかな波状 胴部:RL?縄文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	
15	南側表土	深鉢か 口縁部	緩やかな波状 波頂部下に縦長の瘤を貼付、 燃紐の押捺 L無節斜位	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.5	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR6/6 橙色	
16	表土	深鉢 口縁部~胴部	外面:折り返し状口縁 LR横位・縦位、2本 の横位の沈線 内面:口縁部にLR横位	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	
17	表土	深鉢 胴部	燃糸文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR7/6 明黄褐色	
18	中央表土	深鉢 胴部	LR縦位・斜位	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	9.0	7.5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	外面炭化物付着
19	中央表土	深鉢 胴部	LR縦位	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	9.0	7.5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	外面炭化物付着 輪積み痕
20	表土	深鉢 口縁部~胴部	口縁部:燃紐の押捺 胴部:LR横位	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	
21	表土	深鉢 口縁部~胴部	口縁部:燃紐の押捺 胴部:LR横位	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.5	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	
22	北側表土	深鉢 口縁部~胴部	燃紐の押捺 LR縦位	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	
23	表土	深鉢 胴部	燃糸文	緻密 砂礫・砂 粒含む	良好	8.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	
24	表土	深鉢 口縁部	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	輪積み痕
25	北側表土	深鉢 胴部	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	5.5	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	
トレンチ外 (第28図、写真図版19上)									
1	SX39・トレンチ 外	深鉢 胴部	2本の横位の沈線による上端の区画 横位に 3本の波状の沈線、L無節横位	堅緻 砂粒含む	良好	5.0	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	
2	SX39・トレンチ 外	深鉢 口縁部	網目状燃糸文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	内面一部剥離
その他 調査地内 (第29図、写真図版19下)									
1	調査地内	深鉢か 口縁部	LR横位、沈線	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	5.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	
2	調査地内	深鉢か 胴部	沈線、RL縦位・斜位	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	7.5YR6/6 橙色	10YR6/4 にぶい黄褐色	輪積み痕
3	調査地内	深鉢か 胴部	沈線、LR横位・縦位	堅緻 砂粒含む	良好	6.5	7.5YR6/6 橙色	10YR6/4 にぶい黄褐色	輪積み痕
4	調査地内	深鉢 胴部	横位・曲線的な沈線、LR横位・縦位	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	7.5YR6/6 橙色	10YR6/4 にぶい黄褐色	外面炭化物付着
5	調査地内	深鉢 胴部	沈線、LR横位	堅緻 砂粒含む	良好	6.5	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	外面炭化物付着 年代測定試料
6	調査地内	深鉢 胴部	横走る2本の低位の隆線 横位に連続する 窓枠状の沈線文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	
7	調査地内	深鉢 胴部	重層的な窓枠状の沈線文 縦位に連続する重 弧線文	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	
8	調査地内	深鉢か 胴部	3本一単位の横位の沈線間に対向する弧線文	堅緻 砂粒含む	良好	7.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	
9	調査地内	深鉢か 胴部	3本の横位の沈線、垂下する蛇行沈線	堅緻 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	
10	調査地内	深鉢 口縁部~胴部	口縁部・胴部:LR横位	堅緻 砂粒含む	良好	7.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	

第3表 土器・土製品観察表(4)

番号	検出位置	器種・部位	文様等	胎土	遺存状況	器厚 (mm)	色調		備考
							外面	内面	
11	調査地内	深鉢 口縁部～胴部	胴部：燃糸文	堅緻 砂礫・砂粒含む	良好	7.0	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	
12	調査地内	深鉢 口縁部	口縁に並行する2本の沈線	堅緻 砂粒含む	良好	10.0	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	
13	調査地内	深鉢 口縁部	折り返し口縁	堅緻 砂粒含む	良好	7.0	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	
14	調査地内	ミニチュア 土器・壺	無文	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	4.5	7.5YR6/8 橙色	-	
15	調査地内	ミニチュア 土器・壺	無文	緻密 砂粒含む	良好	3.0	7.5YR6/6 橙色	-	
16	調査地内	土製品	傘に円形刺突文を五角形に配置、中心の円形刺突文と各刺突文とを結ぶ沈線	緻密 砂礫・砂粒含む	良好	22.0	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	キノコ形土製品又はスタンプ形土製品 軸は欠損

第3表 土器・土製品観察表(5)

番号	検出位置	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
A トレンチ (写真図版 20 上)								
1	表土	楔形石器	チャート	39.1	46.6	16.4	27.6	一对の両極敲打痕がみられる。側縁は二次的剥離が加えられる。被熱赤化がみられる。
2	表土	磨製石斧	砂岩	116.1	52.2	41.9	369.0	一部に面的敲打痕がみられる。剥離により刃部を作出する。
3	表土	磨製石斧	凝灰岩	71.5	46.6	26.4	129.0	側面敲打により成形される。全面に亘り敲打痕が残る。
4	表土	磨製石斧	凝灰岩	82.7	55.3	45.5	293.1	側面敲打により成形する。左側面は特殊磨石の敲打痕にも見えるが、相対する辺に敲打による成形痕が認められるため、磨製石斧製作過程と考えられる。
5	表土	磨製石斧	凝灰岩	85.0	61.8	34.2	274.4	側面敲打により成形する。ほぼ全面に亘り敲打痕が残る。
6	表土	磨製石斧	凝灰岩	63.6	48.4	26.4	126.4	側縁敲打により成形する。全面に敲打痕残る。
7	表土	磨製石斧	輝石安山岩	72.9	42.0	31.2	132.4	表面は刃部付近を除く全面に敲打痕が残る。
8	表土	磨製石斧	変質安山岩	64.3	55.6	35.3	184.8	全面に敲打痕が残る。
9	表土	磨製石斧	凝灰岩	65.6	44.8	29.8	130.0	側縁は剥離を伴う強い敲打と多面体敲打で一对をなす(両極敲打)。裏面の剥離稜にやや面的な敲打がみられる。
10	中央表土	打製石斧	砂岩	134.0	73.3	42.3	584.5	表面に研磨面がみられる。両側縁は台石とハンマーの側を入れ替えた両極剥離。磨製石斧製作過程か。
11	表土	敲石	硬質砂岩	84.2	60.1	36.5	313.0	下端に多面体敲打がみられる。その他の辺に剥離を伴う強い敲打がみられる。
12	南側表土	敲石	変質安山岩	102.8	92.8	44.3	626.5	端部の一部、側面の一部に限定的な敲打痕がみられる。
13	表土	敲石	硬質砂岩	46.2	45.3	37.8	139.1	表面の一部を除く全面に亘って多面体敲打。
14	表土	敲石	硬質砂岩	49.6	41.9	11.9	39.1	両端部に多面体敲打。
15	表土	敲石	硬質砂岩	61.8	62.4	35.3	260.9	側縁の一部を除くほぼ全面に亘り敲打痕がみられる。主体は上下両端で多面体敲打。
16	表土	敲石	硬質砂岩	54.0	63.4	35.6	146.2	おもに下端から側縁にかけての多面体敲打。破損後対応辺に敲打が加えられる(稜敲打)。
17	表土	敲石	硬質砂岩	86.8	87.1	33.8	385.5	各端部に剥離を伴う強い敲打痕がみられる。
18	表土	敲石	ホルンフェルス	81.0	58.5	39.0	343.5	両端部多面体敲打。
19	SX1	磨石	輝石安山岩	105.4	67.3	42.4	458.0	表裏面に顕著な研磨痕がみられる。被熱赤化がみられる。
20	トレンチ内	磨石	輝石安山岩	141.0	97.1	65.2	1,287.5	表裏面に顕著な研磨痕がみられる。被熱赤化がみられる。
21	南側表土	磨石	硬質砂岩	73.2	54.6	35.3	201.5	表裏面に研磨痕。それぞれの頂部に弱い敲打痕がみられる。
22	表土	磨石	輝石安山岩	52.1	40.6	62.4	86.4	表面に研磨がみられる。
23	トレンチ内	礫器	砂岩	109.8	50.3	32.5	257.3	下端から両側縁にかけて剥離により成形される。一側縁は円刃状である。打製石斧あるいは磨製石斧の製作過程か。
24	中央表土	礫器	砂岩	110.1	52.4	49.4	319.0	下端を中心に側縁及び上端の一部は剥離により成形される。磨製石斧製作過程か。
25	表土	石皿	輝石安山岩	165.7	88.0	62.1	1,410.0	両面に研磨が認められる。表面は中央に向かってやや凹む。板状をなす。
26	表土	石刀	粘板岩	93.4	39.8	11.9	64.8	刃部の一側縁は角丸の峰が成形される。一側縁は片刃の刃部が成形される。基部は断面四角形状に成形される。基部近くの破片と考えられる。
B トレンチ (写真図版 20 下)								
27	表土	磨製石斧	輝石安山岩	113.4	46.1	25.5	192.0	底角式に近い角丸長方形の断面形状をなす。基部は尖る(乳棒状に近い)。刃部は剥離による再生がみられる。
28	表土	磨製石斧	凝灰岩	75.9	41.6	30.0	132.4	ほぼ全面に亘り敲打痕が残る。乳棒状。
29	トレンチ内	敲石	硬質砂岩	84.3	74.8	28.5	329.5	縁辺に部分的な敲打痕。それぞれの痕跡の頻度は少ない(3箇所)。
30	SX15	敲石	硬質砂岩	75.8	67.4	42.1	400.5	両端敲打。一端に多面体敲打。相対する一端の一部に敲打。
31	表土	敲石	硬質砂岩	53.5	49.8	36.2	162.6	表面中央を除く全面に亘る多面体敲打(敲打稜あり)。
32	SX15	磨石	砂岩	109.1	87.1	47.3	662.5	表裏面に顕著な研磨痕がみられる。
33	トレンチ内	礫器	変質安山岩	112.1	69.3	42.9	423.0	剥離により縁辺が成形される。剥離を伴う敲打による縁辺成形が認められる。打製石斧あるいは磨製石斧の製作過程か。

第4表 石器・石製品観察表(1)

番号	検出位置	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
Cトレンチ（写真図版 21 上）								
34	表土	楔形石器	チャート	34.7	36.2	12.5	15.7	複数の対をなす両極敲打痕がみられる。
35	南側表土	磨製石斧	凝灰岩	64.2	32.3	18.2	42.9	右側縁に剥離を伴う強い敲打痕がみられる。小型磨製石斧。礫斧に近い。
36	表土	磨製石斧	凝灰岩	67.5	48.3	25.4	122.4	表裏面に原礫面残す。側面は敲打により作出する。
37	表土	磨製石斧	凝灰岩	62.5	37.4	26.5	99.1	表裏面に一部研磨された原礫面残す。側面敲打による作出。乳棒状。
38	SX24	磨製石斧	砂岩	56.1	42.0	25.2	94.0	表面は敲打により成形する。側面を剥離を伴う強い敲打により成形する。
39	SX24	磨製石斧	砂岩	60.2	47.8	24.7	129.5	表面刃部、側面敲打により成形する。
40	SX25	打製石斧	凝灰岩	121.4	72.3	55.6	626.0	甲高の形状である。裏面に原礫面残す。側面敲打により作出される。磨製石斧未製品の可能性あり。
41	表土	打製石斧	凝灰岩	110.5	52.0	31.1	243.2	表面の一部（一部研磨）及び裏面全体に原礫面を残す。裏面側から基部を残す周縁に剥離される。
42	SX25	敲石	硬質砂岩	96.0	75.9	40.5	450.0	両端部に剥離を伴う強い敲打痕がみられる。
43	南側表土	敲石	硬質砂岩	60.9	56.4	40.9	274.3	表裏面に原礫面残す。周縁に多面体敲打。
44	北側表土	敲石	輝石安山岩	64.3	35.3	31.3	92.2	一部を除く全面に多面体敲打（稜線は認められない）。
45	表土	敲石	硬質砂岩	74.6	73.0	40.1	375.0	端部に敲打痕がみられる。
46	表土	敲石	硬質砂岩	29.1	52.1	16.9	31.6	両端部に多面体敲打。
47	SX25	磨石	輝石安山岩	106.9	83.3	46.8	666.0	側縁に敲打痕、表裏面に顕著な研磨痕（研磨に先行する敲打あり）がみられる。
48	表土	磨石	輝石安山岩	117.4	88.5	59.8	995.0	表裏面に顕著な研磨痕（研磨に先行する敲打あり）がみられる。周縁は緩い敲打による。
49	南側表土	磨石	輝石安山岩	91.9	90.1	43.9	521.0	表裏面に研磨痕（研磨に先行する敲打あり）がみられる。周縁は部分的な敲打による。
50	表土	磨石	輝石安山岩	112.2	74.7	48.6	668.0	表裏面に顕著な研磨痕がみられる。側面は緩く弱い敲打、一部研磨で成形される。上下端に敲打痕がみられる。
Dトレンチ（写真図版 21 下・22 上左）								
51	表土	石核	硬質頁岩	49.8	46.9	24.6	58.2	原礫面打面。求心状をなす。
52	SX35	磨製石斧	凝灰岩	120.5	63.8	64.3	611.5	剥離及び側縁の剥離を伴う強い敲打等で甲高の形状に成形したのち全面を敲打で成形する。
53	南側表土	磨製石斧	凝灰岩	65.8	43.9	32.2	100.4	側縁部を剥離を伴う敲打。剥離稜を中心に全体的な敲打により成形される。
54	表土	磨製石斧	輝石安山岩	69.5	50.6	37.6	169.3	表裏面に緩い敲打、側面の集中的な敲打により成形される。甲高の形状である。乳棒状。
55	SX34	磨製石斧	凝灰岩	93.6	49.6	42.9	237.67	表面中央の一部を除く全面を敲打により成形する。
56	表土	磨製石斧	変質安山岩	67.6	58.0	35.4	203.6	裏面に研磨された原礫面を残す。側面敲打により成形する。表面に敲打痕が残る。
57	表土	磨製石斧	変質安山岩	103.9	63.8	34.3	376.5	裏面全面、両側面に敲打による成形痕がみられる。
58	表土	磨製石斧	変質安山岩	80.2	65.1	32.7	230.5	側縁は右側縁が多面的敲打、左側縁が剥離を伴う敲打による（両極剥離と考えられる）。
59	表土	打製石斧	砂岩	119.3	50.7	41.1	304.5	裏面から表面上半に原礫面を残す。縁辺の成形はおもに急角度剥離により、その後には敲打（両極敲打）が加えられる。甲高の形状となる。
60	表土	打製石斧	粘板岩	149.1	49.3	16.3	162.8	素材を斜めに据えた両極敲打が考えられる。
61	表土	打製石斧	変質安山岩	118.5	70.2	37.7	332.0	表面のごく一部に研磨面と裏面に一部研磨された原礫面を広く残す。縁辺の成形はおもに急角度剥離により、甲高の形状となる。
62	中央表土	打製石斧	砂岩	96.0	59.5	37.1	184.3	剥離と潰れを伴う敲打で一对をなす（両極敲打）。
63	SX32	敲石	硬質砂岩	85.8	97.4	51.3	656.0	端部及び破断面の稜に対する敲打が加えられる。
64	表土	敲石	輝石安山岩	139.0	68.6	48.4	581.5	上下面に剥離を伴う強い敲打。剥離稜が研磨される。
65	表土	敲石	砂岩	92.9	54.0	52.8	391.5	小形の礫の上半に限定的な敲打痕がみられる。
66	表土	敲石	ガラス質安山岩	104.1	87.5	47.0	517.5	上下面に剥離を伴う強い敲打が加えられる。

第4表 石器・石製品観察表（2）

番号	検出位置	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
67	SX35	敲石	硬質砂岩	52.6	36.8	16.3	40.5	端部敲打の敲石破片と考えられる。
68	表土	敲石	硬質砂岩	47.0	42.9	47.1	125.1	角を中心に集中した敲打、縁辺部に散漫な敲打が加えられる。
69	表土	敲石	頁岩	49.5	58.4	20.5	84.6	下辺剥離を伴う敲打、敲打面の研磨あるいは弱く緩いストロークの敲打が加えられる。
70	表土	敲石	硬質砂岩	45.0	41.2	16.9	36.6	端部に敲打が加えられる（剥離を伴う）。
71	表土	敲石	硬質砂岩	62.1	61.0	42.0	206.5	角を中心に集中した敲打、縁辺部に剥離を伴うやや強い敲打が加えられる。
72	表土	磨石	輝石安山岩	112.1	83.2	44.5	636.0	面的敲打、研磨。その後上下面に敲打。
73	中央表土	礫器	砂岩	92.3	64.2	21.4	169.4	扁平礫素材。一縁辺に連続的な剥離を加えて鋸歯状の直線的な縁辺が成形される。
74	表土	台石	輝石安山岩	134.3	83.4	95.2	1,293.0	断面が甲高三角形をなす。うち2辺の稜部に潰れ状の痕跡あり。被熱赤化がみられる。
75	表土	石刀	粘板岩	50.5	25.7	5.7	11.3	石刀の刃部破片。一側縁は角丸の峰が成形される。一側縁は片刃の刃部が成形される。
トレンチ外（写真図版 22 上右）								
76	SX39・トレンチ外	磨製石斧	輝石安山岩	51.6	46.3	23.8	82.8	側面敲打により成形される。裏面に敲打痕が残る。
その他 調査地内（写真図版 22 中）								
77	調査地内	楔形石器	頁岩	41.5	51.7	10.2	26.9	広い剥離を伴う敲打と細かい剥離を生じる敲打で一对をなす。
78	調査地内	石鏃未製品	硬質頁岩	23.0	20.4	8.0	3.2	裏面に原礫面及び節理面を残す楔形石器を素材とする。おもに表面側に周縁に亘る二次的剥離を加え、滴状に成形される。
79	調査地内	磨製石斧	凝灰岩	106.5	56.0	22.6	213.5	刃部は剥離により作出する。側縁は剥離を伴う強い敲打ののち面的敲打。
80	調査地内	磨製石斧	凝灰岩	114.9	61.5	39.7	412.0	側面敲打により成形される。表裏面に緩く弱い敲打痕が残る。
81	調査地内	磨製石斧	凝灰岩	64.5	56.7	27.3	154.5	側面敲打により成形される。表裏面に敲打痕が残る（刃部除く）。
82	調査地内	打製石斧	凝灰岩	110.3	61.1	45.8	412.0	表面の一部、裏面中央に一部研磨された原礫面を残す。側面は剥離を伴う強い敲打による。剥離稜に敲打痕あり。磨製石斧製作過程の可能性あり。
83	調査地内	打製石斧	凝灰岩	57.3	53.3	27.4	91.8	両側縁ともに剥離を伴う強い敲打痕（両極敲打）がみられる。右：ハンマー 左：台石。
84	調査地内	打製石斧	凝灰岩	75.4	60.3	38.2	254.1	表裏面の中央に一部研磨された原礫面を残す。側面は面的敲打と剥離を伴う強い敲打で一对をなす（両極敲打）。右：ハンマー 左：台石。
85	調査地内	打製石斧	凝灰岩	91.2	56.8	43.0	287.3	表面に一部研磨された原礫面を残す。側面は剥離を伴う強い敲打と多面体敲打で一对をなす（両極敲打と考えられる）。
86	調査地内	打製石斧	変質安山岩	65.2	57.0	24.0	120.4	刃部及び側縁の成形は剥離による。とくに右側縁は平坦な原礫面からの稜上正方向剥離による。
87	調査地内	磨石	花崗岩	113.7	97.1	63.8	1,020.0	表裏面に顕著な研磨。ほぼ全面に亘る緩い研磨がみられる。表面の一部に凹み。
表面採集（写真図版 22 下）								
88	表面採集	加工痕を有する礫	花崗閃緑岩	155.0	215.0	160.0	5,950.0	磨り痕をもつ。石棒か。

第4表 石器・石製品観察表（3）

Ⅶ. 南戸類家Ⅱ遺跡の考古学的観察所見

盛岡大学名誉教授 熊谷常正

風力発電事業のため、洋野町教育委員会が試掘調査を実施している南戸類家Ⅱ遺跡で検出された配石と考えられる遺構に関し、現地確認を行った。本地点では、縄文時代後期の遺物と配石と考えられる遺構などが確認されており、その性格や意義に関し考察する。

まず、トレンチ断面の土層を観察すると、表層近くにはにぶい黄橙色ないし黄褐色を呈する砂質土が堆積している。この下位には八戸火山灰に相当する土層が堆積していると思われ、これらはその風化堆積層と思われる。このような堆積状況は、北部三陸地域の高位海岸段丘面に多く見られるものである。

検出された石列(注1)は、表層直下の砂質土上面に形成され、また土器などの遺物もこの土層に包含されている。石列の周囲や土器などが集中して出土する場所には、やや黒味の強い土壌が広がっており、遺構の存在を示す可能性がある。

配石と考えられる遺構に関連する遺構は三例である(第6図)。まず、Cトレンチ北端から10m付近で数基の配石と考えられる遺構を検出している(SX38ほか)。大まかにこれらはN-120°-Eほどの軸線上に並び、それを南東に延長するとBトレンチ中間部周辺で検出された配石と考えられる遺構(SX16ほか)やAトレンチまで続くと推定できる。全体では50mほどになるうか。これを1号石列と仮称する。また、Cトレンチ南端から35m周辺のSX29とその西側に隣接して検出されたSX42~44は、単独あるいはふたつの礫からなるものだが、ほぼ東西に連なり、BトレンチのSX20に関連すると想定できる。これを2号石列とする。さらにB・C両トレンチ南端部付近で検出したSX31・45・46も列状の配列が想定でき、これを3号石列とする。

このうち1号石列北西部のSX38は、30~50cmほどの花崗岩のやや扁平な亜角礫7~8個を用いて半円状に並べている。それに隣接して長軸1mほどの礫が横たわっている。これが立石に相当する可能性があるが、隣接するSX23、SX39では礫が円形に配置されるものの立石と見なせるような石は確認できない(第13図)。1号石列中間部にあるSX16は、おそらく円形に置かれた配石が二基重複していると思われるが、その一方に長軸1mを超える石が含まれ立石と思われる(第15図)。

これらは①円形配列をとる置石の存在、②立石の可能性のある大形の石をもつものがあること、③下部土坑の存在が想定でき、配石はその上部に造られていること、④海岸段丘上面には本来分布しない花崗岩の巨礫が用いられていること、⑤礫には被熱の痕跡とみられる褐色部分が認められるものが含まれていること(第2表参照)、などの点を指摘できる。一方で、2号・3号石列のように単独ないし構成礫が2・3個のものがあるなど、いくつかの形が併存している。いずれにしろこれらは人為的な活動により造営された遺構であることは疑いなく、土坑を有するものは配石墓壙となる可能性が高い。

土坑を伴う配石遺構が列状に連なる例は、北部三陸地域では田野畑村の館石野Ⅰ遺跡や同村菅窪の和野新墾神社遺跡などが知られている。ただし個々の遺構での石配列には大きな違いがある。館石野Ⅰ遺跡では立石の裾に置石を巡らすよう配置し、置石の手前側と立石の背後との間に段差を設けるなどの特徴がある。館石野Ⅰ遺跡では、このような石列が二条あるいは三条あると思われ、長さも最長で70mを測る。また和野新墾神社遺跡では方形ないし楕円形に配列した石の内側に、十字形に石を置き、それらを連続して配置している。これらに比べると本遺跡例は平面的で配列も疎である。また、2・3号石列のように単独あるいは2・3個の石を連ね、特段の下部遺構を伴わない例として、洋野町の鹿糠浜Ⅰ遺跡がある。

次に検出された遺物を概観する。土器には原位置を保った状態で検出された例が複数あり、集中して検出される地点もある。また、破片も磨耗や風化痕跡がほとんど確認できないことから、この場が生活空間であったことには疑いない。検出された資料のすべてを確認してはいないが、土器は縄文後期前葉の十腰内Ⅰ式ないしはその

前後の段階が主体を占める。それ以外ではミニチュア土器も検出されている。石器には、石斧類・磨石・剥片類などが検出されている。石斧・磨石は在地産の石質を用いていると思われる。剥片類もチャート系石質が目立ち、海岸段丘構成礫層に含有される石質である。

このほか調査トレンチ断面などを観察した際、少数だがチャート類の小円礫が表層近くに散布していることを確認できた。同様の小円礫は洋野町の西平内 I 遺跡でも環状列石・集石遺構周辺で多数検出されており、土坑への埋納事例もあった。本遺跡の小円礫が西平内 I 遺跡と同義のものかは即断できないが、配石に用いている花崗岩の巨礫と同様に、海岸段丘表層の火山灰層には本来含まれないものであることから、やはり人為的な所産にかかるものと思われる。

以上のように、本調査地点には配石が列状に連なる遺構が三条想定でき、特に 1 号石列は確実な配石遺構が複数検出されており、間断はあるものの 50m 近くの規模を有する。これほどの長さのある石列遺構は、前述の田野畑村館石野 I 遺跡などで知られているだけで希少な事例といえる。また、A・B トレンチの南端付近、丘陵の斜面にかかる地点で遺物が集中することが確認できた。これは斜面に形成される遺物包含層とも考えられ、丘陵周囲で包含層の有無確認も必要になってくる。さらに、遺構には住居跡に相当する規模をもつものもあり、このような居住施設と配石遺構が併存する可能性のある遺跡は貴重である。

洋野町では西平内 I 遺跡での大規模環状列石と群在する配石遺構が発見されて以来、町内各地で類似あるいは配石関連の遺跡発見が続いている。本遺跡もその一例に加えることができ、今後、他遺跡と立地や周辺景観との関わり、比較なども課題となるであろう。

(注 1) 今回の調査は試掘調査であり、不確定な部分もあることから列石とせず石列と記した。

Ⅷ. 調査のまとめ

試掘調査の結果、多くの遺物とともに、掘り込みをもつ遺構のプランや配石遺構又は集石遺構の可能性のある多数の礫が検出された。

ハンドボーリング調査の結果では、検出されたトレンチ内の礫のほか、丘陵上の多くの部分に礫の存在が確認された。配石遺構又は集石遺構と考えられる遺構は、検出されたよりもかなり広い範囲に分布していると考えられる。

町内では、西平内Ⅰ遺跡で環状列石が確認されている。今回の調査で検出された配石は散漫ではあるが直線状の分布をなすものと考えられ、検出された遺物は、同時期若しくは近接する時期のものと考えられる。また、立地は海岸線から10km近く内陸に入った丘陵上であり、西平内Ⅰ遺跡の環状列石とは傾向を異にする祭祀活動が行われたことも想定される。環状ではない列状の配石遺構の可能性はあるが、弧状や直線状の配列となる列石は、田野畑村の館石野Ⅰ遺跡などでも検出されており、関連も注目するところである。

検出された縄文土器は、図示したように縄文時代後期前葉から中葉に相当し、十腰内Ⅰ式の前段階、十腰内Ⅰ・Ⅱ式土器が多く、遺跡の中心となる時期はこの段階であると考えられる。検出された石器は、磨製石斧の製作過程を示す石器未製品や剥片が多く検出された。本遺跡で、石器の製作が行われていた可能性を示すものと考えられる。また、鐔形土製品、ミニチュア土器などの土製品や石刀といった祭祀的な性格が考えられる遺物が検出されている。

なお、トレンチ内の遺構確認面で検出した炭化物、調査地内で採集した土器外面付着炭化物試料は年代測定の結果、後期中葉の年代を示している。

以上のように、今回の試掘調査で、配石遺構、集石遺構とみられる遺構を含む貴重な遺跡であることが確認された。なお、本遺跡内での風力発電事業は中止され、開発は回避された。

<文献>

榎本剛治 2008「十腰内Ⅰ式」『総覧縄文土器』アム・プロモーション

工藤伸一・鈴木克彦 1998「キノコ形土製品について」『研究紀要』3 青森県埋蔵文化財調査センター

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財)岩手県文化振興事業団

2017『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

鈴木克彦 1998「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・4-十腰内Ⅰ式と直前型式の研究-」

『縄文時代』9 縄文時代文化研究会

鈴木克彦 2001『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣

洋野町教育委員会 2019『西平内Ⅰ遺跡ハンドボーリング調査報告書-配石、集石遺構の地中確認調査-』

洋野町埋蔵文化財調査報告書第4集

洋野町教育委員会 2020『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書-環状列石の確認に係るトレンチ発掘調査-』

洋野町埋蔵文化財調査報告書第9集

早稲田大学文学部考古学研究室 1992『館石野Ⅰ遺跡』早稲田大学文学部考古学研究室



写真図版 1 SX23・38・39



SX16 (南から)



SX16 (東から)

写真図版 2 SX16



SX23 (西から)



SX23 (南から)

写真図版 3 SX23



SX23・38・39（南から）



SX38・39（南東から）

写真図版 4 SX23・38・39



SX38 (北西から)



SX39 (南東から)

写真図版 5 SX38・39



調査地遠景



調査地近景（南から）

写真図版 6 調査地遠景・調査地近景



写真図版7 トレンチ全景



Aトレンチ（北から）



Aトレンチ（南から）



Bトレンチ（北から）



Bトレンチ（南から）



Cトレンチ（北から）



Cトレンチ（南から）



Dトレンチ（北から）



Dトレンチ（南から）

写真図版8 トレンチ近景



深掘土層序



SX1 検出状況



SX1 石器検出状況



SX6 土器検出状況



確認面土器検出状況

写真図版9 深掘土層序・Aトレンチ



SX7 検出状況



SX7 炭化物検出状況



SX9 検出状況



SX15 検出状況



SX16 検出状況



SX16 検出状況



SX16 礫 No. 52 検出状況



SX16 礫 No. 52 検出状況

写真図版10 Bトレンチ



SX16 検出状況



SX16 礫 No. 68 検出状況



SX16 礫 No. 68 検出状況



SX20 検出状況



SX40 検出状況



SX45・46 検出状況



SX45 検出状況



SX46 検出状況

写真図版11 Bトレンチ・トレンチ外



SX22 検出状況



SX23 検出状況



SX24 検出状況



SX25 検出状況



SX29 検出状況



SX30 土器検出状況



SX31 検出状況



SX38 検出状況

写真図版12 Cトレンチ



SX38 検出状況



SX39 検出状況



SX39 検出状況



SX39 礫 No. 1 石棒検出状況



SX39 礫 No. 1 石棒検出状況



SX41 土器検出状況



SX42 検出状況



SX43 検出状況

写真図版13 Cトレンチ・トレンチ外



SX44 検出状況



SX29・42・43・44 検出状況



SX32 検出状況



SX33 検出状況



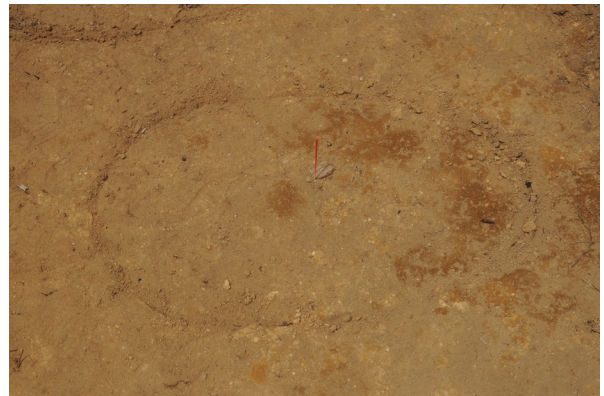
SX34 検出状況



SX35 検出状況



SX36 検出状況



SX37 検出状況

写真図版14 Cトレンチ・Dトレンチ・トレンチ外



Aトレンチ

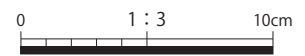
写真図版15 Aトレンチ 検出土器



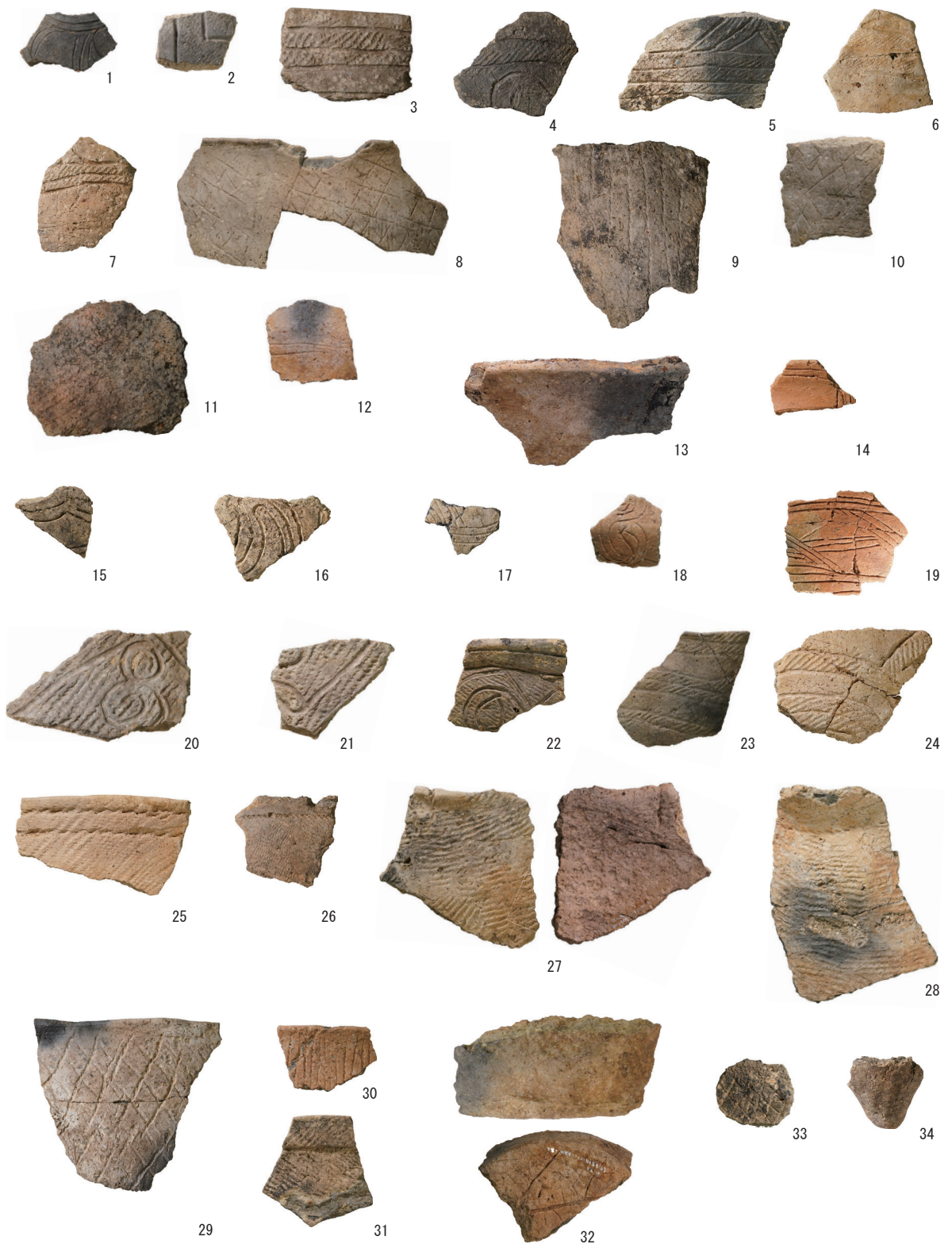
A トレンチ



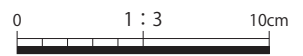
B トレンチ



写真図版16 A・Bトレンチ 検出土器・土製品



Cトレンチ

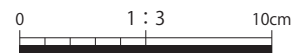


写真図版17 Cトレンチ 検出土器・土製品



Dトレンチ

写真図版18 Dトレンチ 検出土器

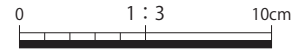




1



2



トレンチ外



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



14



16



12



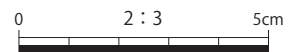
13



15



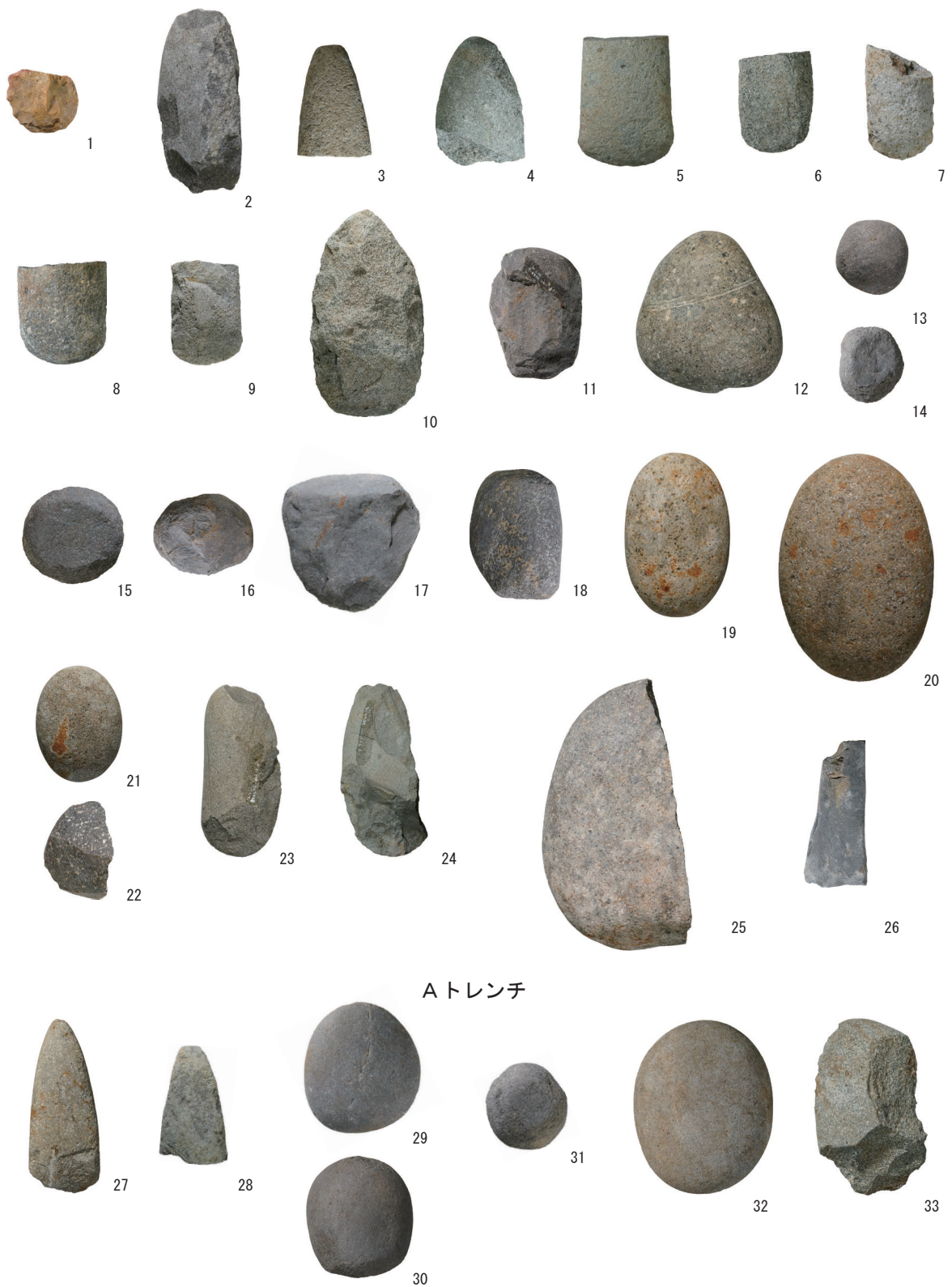
(1~13)



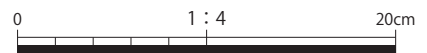
(14~16)

調査地内

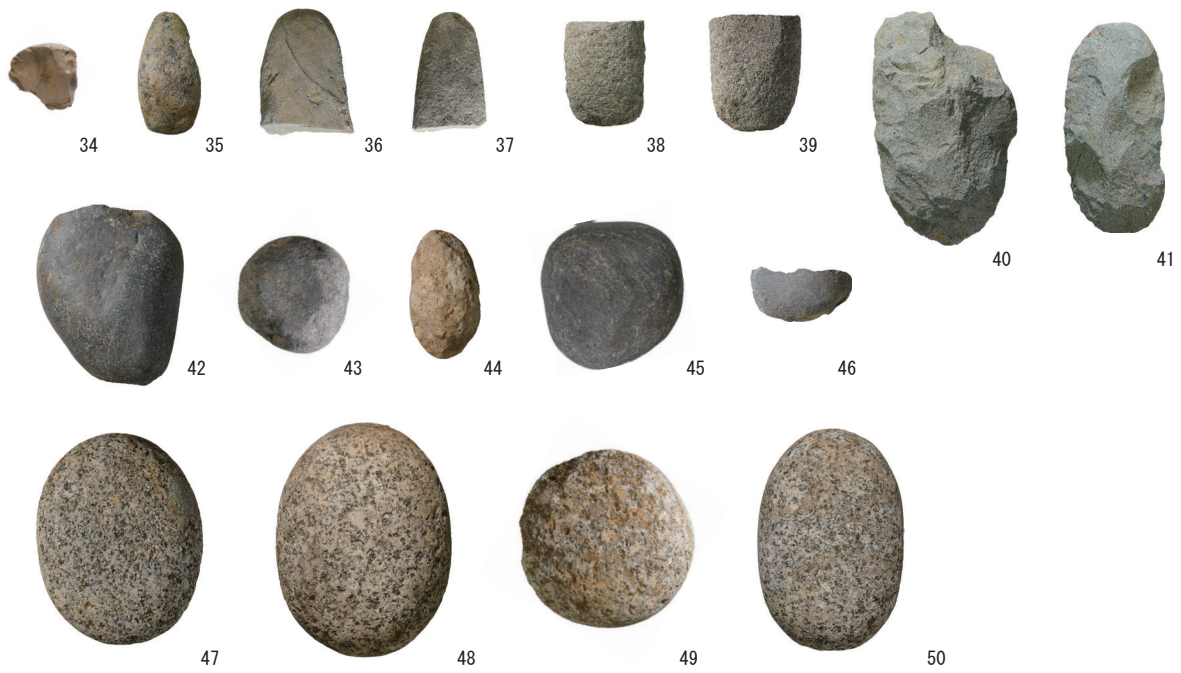
写真図版19 トレンチ外・調査地内 検出土器・土製品



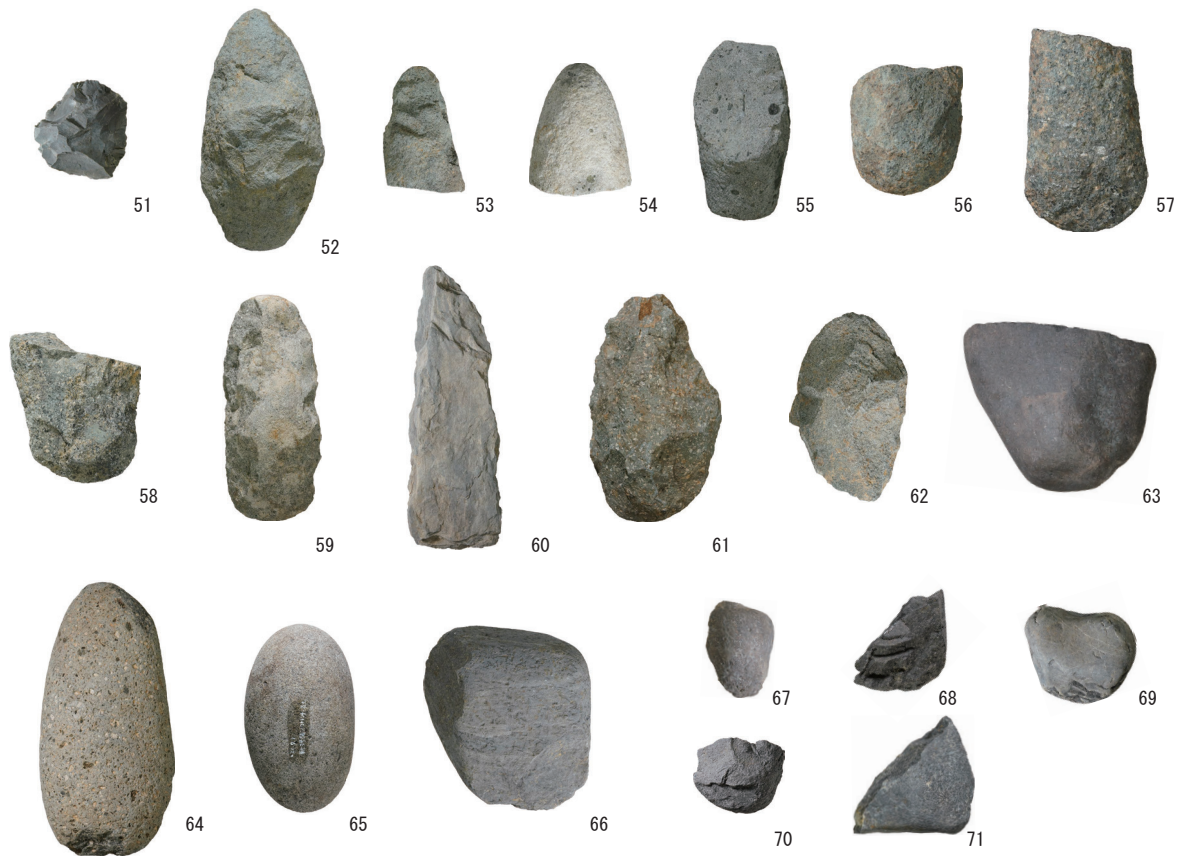
B トレンチ



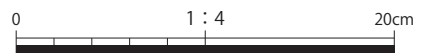
写真図版20 A・Bトレンチ 検出石器



Cトレンチ



Dトレンチ



写真図版21 C・Dトレンチ 検出石器



調査地内



表面採集

写真図版22 Dトレンチ・トレンチ外・調査地内検出 表面採集石器

報告書抄録

ふりがな	みなみへるけにいせきしくつちょうさほうこくしょ
書名	南戸類家Ⅱ遺跡試掘調査報告書
副書名	風力発電事業に伴う試掘調査
巻次	
シリーズ名	洋野町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第15集
編著者名	千田政博 稲村晃嗣 松丸信治 春日貴明 山中慶太
編集機関	洋野町教育委員会 株式会社四門
所在地	〒028-7914 岩手県九戸郡洋野町種市 23-27 TEL 0194-65-2111
発行年月日	2023年3月12日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
みなみへるけにいせき 南戸類家Ⅱ遺跡	いわてけんくのへぐん 岩手県九戸郡 ひろのちようたねいち 洋野町種市 だい ちわり 第8地割	03507	IF78-0108	40° 20' 59"	141° 41' 59"	20210628 ～ 20210805	625m ²	風力発電事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南戸類家Ⅱ遺跡	散布地	縄文時代	配石遺構 集石遺構 埋設土器	縄文土器 土製品 石器 石製品	

洋野町埋蔵文化財調査報告書第15集

南戸類家Ⅱ遺跡試掘調査報告書

風力発電事業に伴う試掘調査

印刷 令和 5 年 3 月 1 日

発行 令和 5 年 3 月 6 日

発行 洋野町教育委員会

〒028-7914 岩手県九戸郡洋野町種市23-27

TEL (0194) 65-2111

印刷 大東印刷株式会社

〒039-1103 青森県八戸市長苗代字内舟渡102-14

TEL (0178) 28-2348
